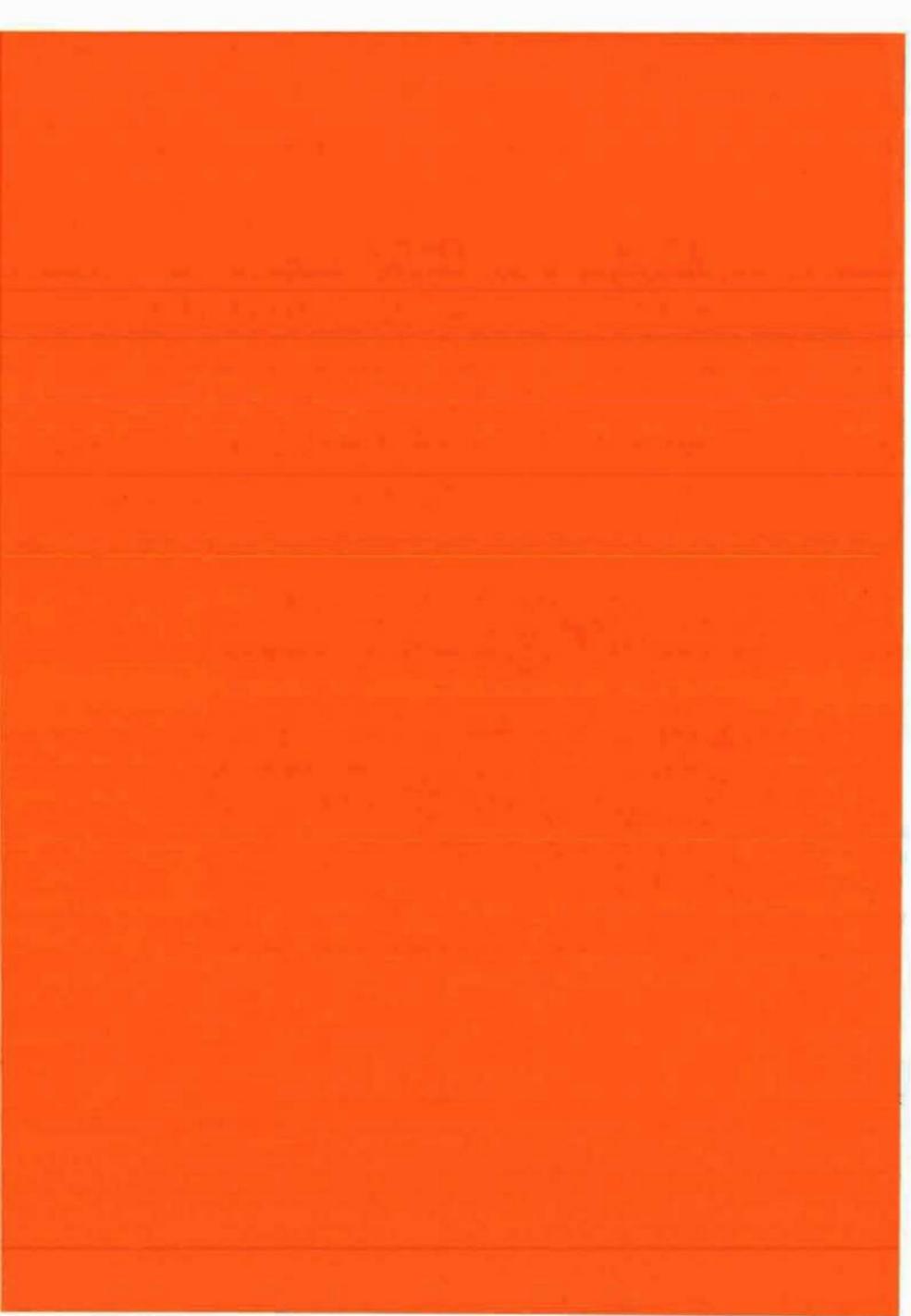


年 報 第 44 集

平成 25 年度文化財調査報告書



前橋市教育委員会



はじめに

前橋市教育委員会では、「県都前橋 教育のまち」の実現に向けて前橋市教育振興基本計画を策定しています。その施策の柱の一つとして「心豊かな地域づくりの充実」を掲げ、文化財保護課は「史跡や文化財の活用」を重点目標として、具体的な施策を展開してきました。

本書は、平成25年度における文化財保護課の実施した全業務の記録です。

指定文化財や史跡の整備事業では、国重要文化財「阿久沢家住宅」の整備事業や県指定史跡「膳城跡」の遊歩道整備などが進み、前橋市指定重要文化財「臨江閣別館」の整備に向けた調査設計業務なども実施され、次年次以降の整備に向けた準備が着実に進んでいます。また、各種指定文化財に設置している説明案内板の整備も進んでいます。さらには、新規事業として国指定天然記念物「岩神の飛び石」の環境整備事業にも着手し、長らくその由来が不明確であった「岩神の飛び石」の来歴も明らかにされようとしています。

普及啓発事業では、毎年実施している大室古墳群公開イベントを群馬県と共同で開催し、第2回古代東国文化サミットとして実施いたしました。多くの来場者に恵まれ、古代東国文化への市民の関心の高さが際立った画期的な普及啓発事業となりました。

また、埋蔵文化財の調査では、諸開発に係る記録保存のための発掘調査を進めると共に、上野国府等範囲確認調査が5年計画の3年次目を迎えました。いよいよ調査も佳境となり、國府の解明が期待されます。

これらの、平成25年度の文化財保護課の諸事業を実施するに当たり、ご指導、ご協力を賜った関係各位並びに諸機関に心より感謝申し上げると共に、文化財保護行政の益々の推進を願い、はじめにといたします。

平成26年7月1日

前橋市教育委員会

教育長 佐藤 博之

目 次

はじめに

第1章 文化財調査委員による調査

1 車両衝突により損壊した指定文化財の緊急調査及び確認調査	1
2 樹木調査	1
3 建造物調査（養蚕農家等）	1
4 建造物調査（社寺調査）	2
4 大平縄文住居遺構にかかる確認調査	2

第2章 文化財保護事業

1 保護管理運営事業	3
2 整備事業	10
3 普及事業	14

第3章 埋蔵文化財事業

1 埋蔵文化財発掘調査事業	18
2 市内遺跡発掘調査事業	32
3 遺跡台帳整備事業	32
4 埋蔵文化財資料整備事業	32
5 頭無遺跡・柳久保遺跡の縄文石器図化作業	35

あとがき

第1章 文化財調査委員による調査

1 車両衝突により損壊した指定文化財の緊急調査及び確認調査

- (1) 日 時 平成25年6月5日（水）緊急調査
平成25年9月2日（月）確認調査
- (2) 調査対象物件 稲里の石造馬頭観世音立像（市指定重要文化財）
- (3) 調査者 梅澤委員、井上委員
- (4) 概 要

平成25年5月4日（土）16時35分頃（前橋東警察署による報告時刻）、柏川町稲里地内の市道において東方向から走行していた普通乗用車が、ハンドル操作を誤り、道路脇側溝を乗り越え、本文化財（稲里の石造馬頭観世音立像）の東側側面から直撃し、倒壊破損の状況となった。よって、前橋市文化財調査委員による現況の確認・調査を現地で行い、今後の管理及び修理等の方向性を探る事を目的に実施した。

9月2日の調査では、修復工事（7月19日～7月22日）が完了したことを受け、前橋市文化財調査委員による工事完了の確認・調査を現地で行った。



稲里の石造馬頭観世音立像現地での確認調査

2 樹木調査

- (1) 日 時 平成25年10月7日（月）
- (2) 調査対象物件
ア 嶺小学校跡地のフジ（未指定）
イ 嶺小学校跡地のイロハモミジ（未指定）
ウ 時沢の夫婦マツ（県指定天然記念物）
エ 横室の大カヤ（国指定天然記念物）
オ 岩神の飛石（国指定天然記念物）
カ 須賀の園のフジ（未指定）
キ 荻窪神社のイロハモミジ（未指定）
ク 水明小学校のエメタセコイア（未指定）
ケ 永明小学校のイチョウ
- (3) 調査者 片山委員・梅澤委員
- (4) 概 要

今年度は地域で大切にされている樹木の確認調査を中心に実施した。調査樹木は、各地区の公民館の協力により得られた情報をもとに選定した。調査樹木の中には、巨樹巨木に相当するものもあり、今後も地域において大切していくことを願うところである。また、横室の大カヤについて昨年度同様に樹勢確認の継続調査として実施した。岩神の飛石と時沢の夫婦マツについては、国庫及び県費補助事業であり、事業進捗の確認を行った。



永明小での樹木調査

3 建造物調査（養蚕農家等）

- (1) 日 時 平成23年10月24日(木)
(2) 調査対象物件 ア 定方良輔宅
イ 払部喜善宅
(3) 調査者 村田委員・井上委員
(4) 概要

昨年度に引き続き、平成22・23年度に実施された「市内建造物悉査調査」のデータをもとにした追加調査を実施した。養蚕農家を主題として、各年代を代表するだろう物件の細部の調査を実施し、結果をもとに指標化するためのデータ収集を行った。本調査は、平成23年度に2カ年計画として策定され、その2年目である。

一連の調査により、幕末期各年代、明治期から昭和30年代までの養蚕農家の建造物としての特徴をデータとして収集することが出来た。



現地調査の様子

4 建造物調査（社寺調査）

- (1) 日 時 平成25年11月27日(水)
(2) 調査対象物件 諏訪神社(上泉町)
(3) 調査者 村田委員
(4) 概要

諏訪神社については、平成23年度市内文化財調査において、上泉の獅子舞の奉納神社として確認を行った際に、一見してあったものである。その後、地元より、諏訪神社の文化財建造物としての調査をお願いしたいとの要請により実施されたものである。調査では、拝殿及びその北西にある社殿の棟札が見つかり、拝殿が嘉永期、拝殿北西にある社殿は弘化期に建築されたことが判明した。



諏訪神社での調査

5 大平繩文住居跡遺構にかかる確認調査

- (1) 日 時 平成25年12月25日(水)
(2) 調査対象物件 大平繩文住居跡遺構
(3) 調査者 梅澤委員・井上委員
(4) 概要

平成23年2月2日の前橋市文化財調査委員会議において、本史跡の活用状況及び所在位置も不明瞭であるなどの理由から、指定解除の質問が行われたが、その会議において、現況確認を再度行い、判断は保留となっていたものである。本調査では、大平繩文住居跡遺構の現況を現地で確認し、今後の対応を検討する為のデータ収集を行った。



大平繩文住居跡遺構における現地調査の様子

第2章 文化財保護事業

1 保護管理運営事業

(1) 国有文化財管理

文部科学省（文化庁）が所有する、国有文化財天川二子山古墳と總社二子山古墳の2カ所について実施した。見廻り看視、清掃等の日常管理については、自治会役員を国有文化財看視人として委託した。落枝の処分については、担当者が定期的に行った。定期除草は、天川二子山古墳は前橋市シルバー人材センターに、總社二子山古墳は地元の總社地区史跡愛存会に業務委託し、それぞれ2回実施した。また、總社二子山古墳については、敷地内北東で民地に張り出していた桜の枝を直営及び委託にて切り落とし、前方部石室直上の桜の木を石室の崩落等を事前に防ぐために伐採した。



總社二子山古墳直営枝落とし作業状況

(2) 国・県・市指定文化財管理

県指定重要文化財の1件が指定解除されたのみで、新指定文化財による増加は無かった。

平成26年3月末日現在の指定文化財の数は、以下一覧表の通りである。

指 定 名 称	国指定	県指定	市指定	合計
重 要 文 化 財	5	39	140	184
史 跡	11	12	45	68
無 形 文 化 財	0	0	0	0
有形民俗文化財	0	0	24	24
無形民俗文化財	0	2	21	23
大 然 記 念 物	2	3	13	18
名 勝	0	1	0	1
合 計	18	57	243	318
登録有形文化財	21			21
登録有形民俗文化財	1			1
重 要 美 術 品	8			8

① 史跡等の除草及び竹片付け

ア 市が管理する史跡等について、地元自治会、シルバー人材センター及び業者に委託し、環境美化に努めた。

除草業務一覧表

	史跡名	区分	所在地	除草面積 (m ²)
1	龜山古墳	市指定	山田町1-28-3	4,968
2	金冠山古墳	市指定	山田町1-13-3	4,814
3	今井神社古墳	市指定	今井町818	4,624
4	車輪山跡	市指定	大手町2-5-3	750
5	大神山古墳	県指定	庄内町1-1丁目27-7	730
6	八幡山古墳	県指定	朝倉町西4丁目9-3	20,000
7	蛇穴山古墳	国指定	總社町總社1587-2	5,674
8	宝塔山古墳	国指定	總社町總社1606	2,204
9	女塙	国指定	富山・東大寺・二之宮・飯土ノ池	69,982
10	不二山古墳	市指定	文京町3丁目151-6	1,142
11	荒紙不二山古墳	県指定	西大寺町813-2他	2,700
12	大胡城跡	県指定	河原浜町660-1 急傾斜地 660-31,32	24,934 3,700
13	越後古墳	県指定	福島町861-1	582
14	大日靈古墳	市指定	五代町214	1,124
15	總社古墳隣接地		總社植野305-2	792
				148,720



八幡山古墳除草作業

イ 国指定史跡女塙二之宮町353-2 地内の竹片付けの業務委託を行った。

実施期間 25年5月13日～6月30日

実施場所 女塙西沼 1,500 m²



竹片付け後（西沼）

② 史跡の樹木管理

立枯れ及び防犯上の理由等で伐採した樹木は32本だった。

遠見山古墳1本 女塚二之宮地区8本
前二子古墳1本 総社二子山古墳3本
不二山古墳3本 中二子古墳3本
八幡山古墳2本 天川二子山古墳1本
亀塚山古墳1本 膳城址内5本
柏川出土文化財センター周辺4本

平成26年2月の大雪による雪害で倒木・折枝及び落枝の人大きな被害が発生した。伐採した樹木は、23本だった。

直営 宝塔山古墳1本
業者委託 八幡山古墳18本
天川二子山古墳1本
女塚（二ノ宮地区）1本
前二子山古墳1本
膳城址1本

また、膳城址公園の整備にあわせ、柏川出土文化財管理センター及び柏川歴史民俗資料館の樹木剪定を実施した。



大雪に伴う折枝除去作業（業者委託）

③ その他の環境整備

ア 市が直接管理する国指定史跡4ヶ所の樹木に発生する害虫アメリカシロヒトリの防除を行なうため、オルトランカプセル（樹木注入型殺虫剤）の樹幹注入を職員により実施した。

○ 実施日 平成25年6月18日・20日

○ 実施場所

①大川二子山古墳②総社二子山古墳
③宝塔山古墳 ④蛇穴山古墳⑤大胡城跡

○ 樹木本数 90(五ヶ所合計)
イ 市が管理している、国指定史跡の女塚二之宮町地区の急傾斜を除く西沼東側に生えている竹に竹桿注入を行い竹の枯渴を計った。

○ 実施日 平成25年8月8日～9日

○ 実施場所 国指定史跡女塚 二之宮町地区竹桿注入本数およそ300本。

ウ ススマバチが発生したため八幡山古墳・柏川出土文化財管理センターの駆除を行った。

(3) 文化財の保護

① 文化財パトロール

市内を10地区に分け、各地区に文化財保護指導員を配置して、指定文化財の管理状況の把握に努めた。報告は月1度書類の提出をお願いし、その報告の内容により、除草や倒木や説明板等の対処をした。また、その報告書は、文化財の状況をABCDで評価してもらい具体的に分かるようにしている。

第1回会議は、4月26日(金)に行った。平成25年度事業概要・事業計画及び平成24年度文化財パトロール報告のまとめを報告し、説明板の破損状況や文化財の管理状況・樹木の伐採など文化財保護の率直な意見交換をした。また、文化財保護指導員の資質の向上を図るために11月14日(木)に情報交換会と発掘現場見学を実施した。今回は、鎧を着た人骨が出土した渋川市の金井東裏遺跡を群馬県埋蔵文化財調査事業団職員の案内で見学した。指導員の知識習得に多大な成果を収めることができた。



現地見学の様子

② 文化財防火訓練及び防火査察

ア 防火査察

第60回文化財防火デーにより、41件の文化財査察対象物に対して9別編成を組み、前橋市消防局(各消防署)及び新東京電力等と協力して、合同立入査察を実施した。



査察の様子

○平成26年1月21日(火)

(5班)…西消防署：3施設 10:00～

上野總社神社木殿他

○平成26年1月22日(水)

(1班)…中央消防署：4施設 10:00～

梵鐘(妙安寺)、陸江閣本館・茶室・別館、前橋松平家奉納絵巻束一式(東照宮)、酒井家史料(129点)前橋細江祭絵巻(2巻)(市立図書館)

(2班)…中央消防署：5施設 13:30～

川原糸試験場事務棟、神明宮の甲冑・奈良三彩小像(総合教育プラザ)、東福寺鷲口(東福寺)、上泉郷城附上泉文書・上泉の獅子舞(上泉自治会)、石造薬師二尊立像(宝禪寺如意寺)、八幡宮文書(1巻9通)・伯牙彈琴鏡(八幡宮：貸金庫保管のため検査省略)

(5班)…西消防署：3施設 13:30～

光鍼寺裏山門・打散・油車並びに轎(光嚴寺)、徳藏寺懸仏・麻布著色両界曼荼羅1対(徳藏寺)、大徳寺總門・多宝塔(大徳寺)

○平成26年1月23日(木)

(3班)…東消防署：6施設 9:40～

堀下仏像群・旧諏訪神社の宝物堀越掛舞台下座1対(金蔵院)、大胡神社の算額(大胡神社)、

阿久沢家住宅・歌舞伎舞台他(諏訪神社)、狂歌合の額他(住吉神社)

(4班)…東消防署：5施設 13:45～

本殿内宮殿(赤城神社)、木造十一面觀音立像、三番叟かしら刻附漢古文書・十一面觀音木像他(金剛寺)、近戸神社御奥他(近戸神社)

(6班)…南消防署：1施設 9:30～

円満寺薬師如来坐像(円満寺)

(7班)…南消防署：3施設 14:20～

二宮赤城神社絵馬・梵鐘・納尊利皿(二宮赤城神社)、無量寿寺地蔵菩薩立像・無量寿寺十一面觀世音立像(無量寿寺)、旧関根家住宅

○平成26年1月24日(金)

(8班)…北消防署：3施設 10:00～

日輪寺寛永の絵馬・十一面觀世音像(日輪寺)、鉄造阿弥陀如来坐像(善勝寺)※前橋藩家老小河原左衛門の甲冑旗幟物(緋糸威二枚胸具足)は都合つかず。

(6班)…南消防署：1施設 13:30～

駒形町牛頭天王の獅子頭一对

(9班)…北消防署：5施設 13:30～

瑞雲寺の板碑と多宝塔(瑞雲寺)、横室の歌舞伎衣装、萩林庵の阿弥陀像、原西の阿彌陀像、時澤の卜王と多宝塔

(7班)…南消防署：1施設 15:00～

慈眼院千手觀音坐像(慈眼院)

○平成26年1月26日(日)

(7班)…南消防署：1施設 11:00～

旧アメリカンボード宣教師館(共愛学園)

○平成26年1月30日(木)

(7班)…南消防署：1施設 10:00～

産泰神社木殿・幣殿拝殿神門及び境内地(産泰神社)

イ 文化財防火訓練

旧アメリカンボード宣教師館 北側物置から出火、共愛学園の職員が火災を発見し、初期消火を行ったが、折からの北風に煽られ、旧アメリカンボード宣教師館に延焼したという想定の火災防ぎよ演習で、車両1台2台緊勢97名が参加し中庭送水・放水訓練を行い、延焼拡大防止訓練に臨んだ。さらに猛火から負傷者の救出演習、担架に載せて病院へ搬送する実際ながらの訓練も披露された。

○平成26年1月26日(日)

午前10時から午前11時まで

会場：前橋市小原町1115番地3

(共愛学園中学校・高等学校敷地内)

旧アメリカンボード宣教師館

(県指定重要文化財)

（参加機関）

前橋市消防局(南消防署・城南分署・中央消防署)、前橋市消防団(第4方面団長、第15分団、第13分団3部、第14分団1部)、文化財保護課、学校法人共愛学園(演習参加者97名)



訓練の様子

③ 寄附の受入

愛宕山古墳用地1, 090m²を市内在住の方より、寄附したいとの申し出があり、史跡としての活用を図るために受け入れた。

④ 刀剣の製作承認

市内在住の高橋恒蔵氏から4口(太刀2、短刀2)の承認申請があり、すべてを承認した。

承認後は県公安委員会及び県教育委員会文化財保護課へ、承認した旨を通知した。

⑤ 刀剣の手入れ

本市が寄附受入を行った刀剣を、良好な状態で保存するため、専門的な技術者による手入れを行っている。今年度も例年通り、9月と2月の2回実施した。

対象刀剣類は7種52口。今年度は、錆のあるものなど、別途委託を要するものは見受けられなかった。



刀剣手入れの様子

⑥ 内所在の文化財の異動

群馬県指定重要文化財「脇差 銘喜助藤直胤 一口」(昭和34年8月5日指定)が群馬県文化財保護審議会の審議において「滅失」と判断され、平成25年9月17日付で指定解除された。

⑦ 指定文化財の現状変更について

今年度の現状変更は、国指定文化財が3件、県指定文化財が7件、市指定文化財が5件であった。

詳細は一覧の通り。

種別	指定名称	内容
国天	岩神の飛石	国庫補助事業(環境整備事業)
国天	横室の大カヤ	学術調査(森林総研の調査協力※枝採取)
国史	八幡山古墳	国庫補助事業(外柵設置工事)
県重	松平大和守家歴代藩主画像その他画像10幅	県費補助事業(彩色剥落等の画像の修復)
県天	時沢の夫婦マツ	県費補助事業(アカマツ伐採等)
県重	上野總社神社本殿	県費補助事業(本殿彩色工事等)
県史	鷲城跡	公園整備に伴う遊歩道の設置
県天	時沢の夫婦マツ	県費補助事業(クロマツ選定等)
県重	臨江閣本館	白壁の修理
県史	大胡城跡	標柱設置
市重	臨江閣別館	掛け軸を吊り下げるフックの設置
市重	稻里の馬頭観世音立像	車両衝突により損壊したため修理を実施
市重	小暮旧一の鳥居	鳥居の塗装及び腐朽した根がらみの交換
市天	西大室町公民館のオハツキイチヨウ	強剪定
市天	大胡神社のムクロジ	強剪定

⑧ 史跡の公有化

2件の史跡の公有化を行った。

ア 遠見山古墳(市指定史跡)

本史跡は古墳時代中期後半(5世紀後半)の前方後円墳で、總社古墳群の端緒をなす重要な古墳であり、保存状態も良好である。史跡指定後地権者との協議を重ね、平成25年4月に市有地との不動産交換契約を締結して取得した。これで本史跡の墳丘部分全体を公有化した。

・所在地 前橋市總社町總社字給人城川

甲 1410 番・乙 1410 番

・面 積 1,943 m²

イ 愛宕山古墳（未指定）

本史跡は7世紀前半の大型の方墳であり、巨石巨室横穴式石室には倒抜式の家形石棺を持つ。県内には本史跡に匹敵する規模を持つ同時期の古墳は見られず、上野地城が収斂されていく様子を表す重要な古墳である。地権者より寄附の中出があり、平成25年1月2月寄附の受入を行った。これにより、墳丘部下位の北側および西側を公有化した。

・所在地 前橋市總社町鶴社字大屋敷

愛宕山 1763 番 2

・面 積 1,090 m²



遠見山古墳（南側より）

(4) 前橋市蚕糸記念館の管理・活用

県指定重要文化財である旧蚕糸試験場事務棟を敷島公園のこの場所に解体移築し、昭和57年4月に前橋市蚕糸記念館として一般公開した。H常管理を前橋市シルバーアイ材センターに委託し、見学者の受付と館内外の清掃を行っている。このほかに管理業務では、消防設備保守点検、査定及び周辺清掃業務を委託している。

建物内に4つの展示室(①開所当時の様子を示す資料②はき立てから繭出荷までの養蚕具③上州座織機をはじめとして製糸業に用いる用具器械④機織り機や蚕糸信仰の資料)を設けて資料を展示し、蚕糸業とともに歩んできた前橋の近代化を偲ぶ記念館として公開している。

本年度は、春のばら園まつり、秋のバラフェスタの開催により、ゴールデンウィークから団体客が多数来館し、6,805人の見学者があった。また、ばら園まつり、バラフェスタの期間中、富岡製糸場世界遺産伝道師協会の協力を得て座織り・桑の木

クラフト体験コーナーを設けた。今年は、春のばら園まつり期間に4回、秋のバラフェスタ期間に3回行った。春・秋合わせて348人が座織り体験を楽しみ、自分で挽いて採った糸はお土産としてプレゼントした。

また、桑の木クラフト体験では、415人が木のクラフトに挑んでいた。ばら園まつり、バラフェスタでは、いろいろなイベント行われており、その一つとして来場者は存分に楽しんでいる。



座織り、桑の木クラフト体験の様子

(5) 総社資料館の管理・活用



搬出後の西倉

従来の資料館の敷地・建物を所有者に返却することとなったため、7月をもって閉館し、

12月までに退去することとなり、遺物や展示物の搬出を行った。

学校見学の対応のため、総社公民館の敷地及び物置などを借用し代替施設とした。場所に限りがあるため、秋元氏や天狗岩用水に較り込んだ内容での対応となっている。

7月までの開館日数は79日、来館者数は608人であった。閉館後の学校見学は、総社市民サービスセンター敷地内的一角を借りて対応し対応校数は31校2, 116人であった。

年間の入館数は学校34校2, 359人、総計2, 744人となる。

新しい資料館の建設計画はあるが、2、3年内の完成は厳しいことから、総社公民館敷地内に新たにプレハブを設置し、新年度以降の見学対応に向け準備をすすめることとなる。

3月には説明員研修を実施した。今回は甘楽町・富岡市の文化財や関連施設を対象に甘楽町歴史民俗資料館・楽山園・長岡今朝吉記念ギャラリー・富岡製糸場・七日市陣屋跡・旧茂木家住宅・富岡市美術博物館などを見学した。文化財的な資料や展示物の説明・解説の方法など、参考にできる点が多くいたと思われる。



代替施設での見学対応



説明員研修視察（甘楽町：楽山園）

- (6) 前橋市粕川歴史民俗資料館の管理・活用
粕川歴史民俗資料館は、大胡、宮城、粕川地区などの赤城南麓地域の歴史や民俗が学習できる施設として活用している。今年度は2回の企画展を開催し多くの市民に关心を持つていただくことをねらった。開館日数は175日入場者数合計1, 425人を数えた。

企画展概要

- 春季企画展…「前橋の群集墳」を開催した。
開催期間は平成25年4月27日から平成25年5月1日まで

平成25年7月28日粕川歴史民俗資料館で群馬県埋蔵文化財調査事業団より講師を迎え、講演会「前橋の群集墳と群馬の古墳時代」を開催したところ53名の参加者があった。

秋季企画展…「前橋の近世大名墓と家臣団の墓」を開催した。

開催期間は平成25年10月5日から平成26年2月2日まで

- (7) 前橋市粕川出土文化財管理センターの管理

施設内の機械警備、小荷物昇降機、浄化槽点検等は、業務委託により引き続き管理を行っている。

- (8) 大室公園史跡の管理・活用

一般公開している大室古墳群について、史跡の日常管理を行うにあたり、石室入口の鍵開閉や出土遺物を復元展示した史跡の保守・点検・清掃等を行う者を地元から選出して、史跡管理業務を委託した。

群馬県内外から多くの見学者が訪れる公園内の古墳群であることから、市民ボランティア「大室古墳（つか）の語り部」が史跡案内等を行なっている。

1月24日に開催された大室イベントでは富岡製糸場世界遺産伝道師協会伝道師による座緑の体験を行い、多くの参加者を集めた。(ア) 管理業務実施日は以下のとおりである。

4月から11月まで: 月曜日を除く毎日。

12月から3月まで: 土・日・祝日。

前二子、後二子石室鍵開け 午前9:00

前二子、後二子石室鍵閉め 午後4:00

(イ) 点検場所

1. 前二子古墳 2. 中二子古墳

3. 後二子古墳 4. 小二子古墳

※清掃は石室開閉時に実施している。

(ウ) 年末年始休業

1月27日(月)から1月4日(火)まで

(9) 大室公園民家園の管理・活用

昨年度まで赤城型民家保存会という地元の組織に管理運営を委託してきたが、同保存会が急速解散してしまったため、年度当初は、大室公園を管理している「昭和造風上木・小泉農園・青木造園・大室公園年間管理業務・共同企業体」に、施設の閉鎖のみの委託で対応した。無人状態での開館では日常的な管理不足や見学者への案内などが行き届かないため、10月からはシルバー人材センターへ管理用務全般を委託することになった。

平成25年度の開館日数は246日、民家園来園者数は4,054人となっている。大室イベントではスタンプラリーやふかし餌頭の体験会場、大室古墳（つか）の語り部による定例の古墳案内集合場所や夏休み教室の会場としても利用されている

(10) 鹿江閣の管理・活用

日常管理については、管理人を2名常駐させ、館内外の清掃と見学者の受付を行った。この管理人は、前橋市シルバー人材センターへ委託した。このほかに管理業務の委託では、機械警備業務、消防設備点検、雨樋及び屋根清掃を業者委託した。なお、廊内の樹木は、公園管理事務所が管理をしている。

また、10月からAEDが設置されたのに伴い、管理人は、消防署隊員から救命講習を受けた。

11月と3月には、管理人・消防設備点検業者と消防訓練を行った。3月の訓練では、消防署隊員立会のもと、訓練を行った。



設置されたAED

施設の活用では、「鹿江閣と近代前橋のあゆみ」を開催している。

イベントは、お茶会を中心にしていけばな、百人一首大会、講演会等さまざまな文化的行事が行われた。また、今年はドラマ撮影、コンサート

などにも利用された。

見学会は、春、秋を中心に学校関係の学習見学や各種団体の視察見学が頻繁にあった。

撮影は、結婚企画会社や写真館が中心に結婚衣装・七五三・成人式写真等の写真撮影が行われ、1年を通して頻繁に利用された。記念写真の撮影場所として広く認知されており、昨年に比べるとかなり増えている。

2・3月には、市民の寄贈による雛人形を展示し好評を博した。その様子は、群馬テレビのニュース番組の中で生中継された。今年はテレビ、ラジオ、新聞等各メディアでの露出が多かった。

最後に鹿江閣への平成25年度の入場者人数であるが、利用・見学・写真撮影など、18,110人であった。

保全修理では、8月に突風により破損した建仁寺垣の修繕、10月に別館雨樋の修繕、11月に本館の剥落した白壁修繕、2月に別館2階の照明スイッチ不良による修繕、3月には大雪により破損した本館、別館の雨樋等の撤去を行い、施設の保全に努めた。

パンフレットについては4,000部増刷した。また、団体見学者用のA4のパンフレットも600部増刷した。



雛人形の展示

(11) 阿久沢家住宅の管理・活用

上毛新聞社主催の風っ子ネイチャーラブにて、農業体験活動のための中心施設として阿久沢家住宅を使用したいとする申出があり、本事業の中で本住宅の活用方針や課題について検討を行った。基本的には休憩・昼食のための施設として本住宅を利用し、夏季には本住宅での宿泊体験、秋にはそば打ち体験などを実施した。

その他、未策定であった本住宅の保存活用計画について、学識経験者や地元関係者からなる阿久沢家住宅整備委員会や文化

府調査官、県教育委員会からの指導・助言を受けて作成した。来年度に策定予定である。



そば打ち体験の様子

(12) 文化財保護課移転

施設の老朽化に伴い、三俣町二丁目から総社町三丁目に事務所を移転した。

・移転先

前橋市総社町三丁目 11番4

・移転日

平成26年3月24日(月)

・移転後の電話番号等

電話 280-6511

FAX 251-1700

なお、鳥羽町にある既存の建物を新遺物保管場所とするが、改修完成までの間は、三俣町の建物を引き続き遺物保管場所として使用する予定である。

2 整備事業

(1) 隅江閣整備

○前橋市隅江閣整備委員会

隅江閣を未長く保存整備し、積極的な利活用を図っていくなければならない。そのため、本市を代表する近代和風建造物である隅江閣の整備について、文化財保護、建造物調査、整備工事等の専門的な見地から検討し、及び協議を行う。

① 第5回前橋市隅江閣整備委員会

ア 開催日及び会場

平成25年5月10日

文化財保護課東会議室

イ 出席者

〈委員〉梅澤委員長、村田委員、松野委員、
樽井委員

〈アドバイザー〉群馬県文化財保護課

齊藤指導主事

〈関係課〉教育施設課橋本係長、堀越主任

〈事務局〉文化財保護課松村課長、小島輔佐
岩瀬副主任、登山副主任、小川主任

ウ 内容

①隅江閣保存管理計画案

②平成25年度の予定について

その内容について協議・検討を行った。
(主な意見)

・中二階にあった和室及び二階大広間は復原しない。

・瓦の使えるものはすべて加工して使う。

・歴史的建造物維持のため、地元業者を育成していく必要がある。

・実施設計、工事のPR、工事中の見学会開催等は、広く市民に周知する。

・前橋ローカリークラブの寄附は、門柱ではなく、門扉の復原がよい。

② 第6回前橋市隅江閣整備委員会

ア 開催日及び会場

平成25年12月24日

文化財保護課東会議室

イ 出席者

〈委員〉 梅澤委員長、村田委員、内田委員、
松野委員、樽井委員

〈アドバイザー〉 群馬県文化財保護課

齊藤指導主事

〈委託業者〉 景観建築研究機構8名

〈関係課〉 教育施設課根岸課長、
鈴木主任

公園管理事務所丸山所長

（事務局） 文化財保護課松村課長、小島補佐、岩瀬副主幹、登山副主幹、小川主任

ウ 内容

- ①臨江閣修理及び整備案
- ②平成25年度の予定について
その内容について協議・検討を行った。
- (主な意見)
 - ・構造補強案はケース2程度よい。
 - ・改修後、どこを改修したのか分かることにする。
 - ・二階の舞台撤去後は、板張りにし、所作台を設ける。鏡張は設置しない。
 - ・倉庫は、邪魔にならないよう設置する。
 - ・建物に影響を及ぼす樹木は伐採を含め検討する。
 - ・渡り廊下はそのままにし、階段部を下げる。
 - ・空調は、露出型、設置型それぞれ比較検討し、再度判断する。



第6回整備委員会の様子

③ 第7回前橋市臨江閣整備委員会

ア 開催日及び会場

平成26年2月24日

文化財保護課東会議室

イ 出席者

（委員）梅澤委員長、村田委員、内田委員、
松野委員、樺井委員

（委託業者）景観建築研究機構1名

（関係課）佐藤教育長、中島管理部長
教育施設課根岸課長、橋本係長、
鈴木主任

公園管理事務所丸山所長

（事務局） 文化財保護課松村課長、小島補佐、
登山副主幹、宮沢主任、小川主任

（主な意見）

- ・この構造補強案は、ある程度の変形を許

容し、安全を担保し、要所要所に補強がなされている。

・復原の項目、図面、施工しようを明らかにしておく。

・臨江閣整備委員会は、今回示された耐震補強案を了とする。

・建物に影響を与えてると思われる2本の木は、創建時の庭園計画等で確認し、存在しなければ、基本的に伐採で検討し、最適的に委員会で判断する。

○臨江閣保存整備事業実施設計業務

群馬県及び前橋市指定重要文化財臨江閣について、前橋市の宝として、今後100年の保存と活用のため、保存管理計画に基づき保存修理・保存整備事業に係る実施設計業務を行う。

委託契約については、7月に公募型プロポーザルで業者選定を行った。

今年度事業であったが、具体的な復原方法等の決定に対し、慎重を要するため来年度に繰越した。

事業費

22,636,320円

（2）阿久沢家住宅整備事業

①屋敷林の追加間伐および剪定、②駐車場整備、③水場や東側隣接地からの湧水を排水するための排水溝整備、④水場付近の斜面崩落を防ぐための法面保護工事、⑤北側屋敷林部分の転落防止柵設置工事、⑥建物東側の敷地復元工事（池の埋立て）を実施した。



整備した駐車場

（3）岩神の飛石整備事業

岩神の飛石の環境整備事業は、昭和15年度に開拓・標識及び説明板設置工事が行われたのみで、その後、30年以上整備事業はされておらず、飛石周辺及び木本にも樹木等が繁茂し、倒木も老朽化が進んでいた。また、飛石木本には東西に走る大きなクラックがあり、平成23年3月1日の東日本大震災以来、地元においても影響が出てるのではないかという心配も

出でいため、文化財の保全及び環境整備のため調査・整備等が急がれる状況にあつたため本事業を実施した。

【事業の概要】

事業主体	前橋市
事業名	天然記念物岩神の飛石史跡等登録記念物歴史の道保存整備事業
事業費	4,250,000円
実施期間	平成25年5月15日 ～平成26年3月31日
実施方法	国、群馬県からの補助金を受け、文化財の修理に精通した業者と工事請負契約を締結し実施。
工事内容	・樹木伐採等整備（周辺樹木の伐採及び強剪定） ・囲柵撤去及び設置工事 ・飛石測量委託及び巨岩隙間幅の定点設置と測量 ・岩石成分調査委託

なお、周辺環境の整備や保存管理計画策定などの諸整備事業を実施するにあたり有効且つ円滑に行うため、本事業では有識者による委員会を設立し、指導助言をいただきながら事業を実施した。

【参考】

（環境整備委員）

野村哲委員、梅澤重昭委員、片山満秋委員
小池洋七委員、瀬尾茂委員

（指導助言）

文化庁 桂主任調査官、県教委 田島指導主事
県自然史博物館 香原学芸員

（開催会議）

○第1回国指定天然記念物「岩神の飛石」環境整備委員会議（平成25年8月20日実施）

○第2回国指定天然記念物「岩神の飛石」環境整備委員会議（平成26年2月25日実施）

（4）勝城跡通路整備

本丸周辺に設置されている木製階段が経年劣化により損壊しているため、既設階段を修復するとともに城内に通路を整備した。階段は4箇所（本丸東側・本丸西側・二の丸東側・本丸北側）に改修・設置した。また通路は本丸の北・東・南側の堀内に設置して、見学者の利便性を図った。階段の踏面および通路には、現状の造構上面に盛ることにより造構の保全を図った。



本丸と二の丸をつなぐ階段

（5）保存修理事業

① 上野總社神社保存修理事業

＜本殿＞

本殿屋根のこけら葺きの損耗が顕著であることや壁画の剥落等の劣化が生じていていることから補修を行ったもので、5年計画事業の5年目である。

ア 工事概要

仮設工事、塗装工事、金具工事、雜工事

イ 事業費 13,334,950円

（内訳）

県補助金 9,333,000円

市負担金 2,000,000円



完成した本殿

（6）その他史跡に關わる保存修理事業

① 八幡山古境外柵改修工事

外柵が経年劣化により腐食、折損の箇所があるため、補修を行うもので、3年計画事業の2年目である。

今年度は、南側及び南西の一部分を撤去し、

134.5mの外柵を設置した。

事業費 1,722,000円
(市単独費)



設置された外柵



設置した説明板

その他の簡易修繕等

修繕名	金額
石造道標撤去	99,750円
臨江閣建仁寺垣修繕(緊急小規模修繕)	367,500円
臨江閣雨樋修繕(緊急小規模修繕)	80,850円
臨江閣白壁修繕	65,100円
臨江閣2階大広間不点点検修繕	12,600円
臨江閣雨樋撤去ほか(雪害修繕)	388,500円

(7) 指定文化財説明板等の整備

説明板の設置及び劣化により読めなくなつた箇所の標柱、説明板の書替を行つた。

ア 工事概要

(設置: 15箇所)

- 石造地蔵菩薩坐像○亀里町阿内宿の石幢
- 堀下の仏像群○石造薬師三尊立像○龍性寺の石幢○荒子杉山古墳○春日神社のケヤキ○植野幡荷神社太々神案附面4点、衣装3点○立石諏訪神社の獅子舞○井出上神社のシイ○前橋藩主松平家泰納能装束一式、前藩主松平家陣羽織・前藩主松平家軍配(東照宮)○産泰神社四棟(木殿、幣殿、拜殿、神門、境内地)・産泰神社太々神案、産泰神社八棟(産泰神社)○赤城寺の石幢・赤城寺の種子十三仏塔・北爪押監の供養塔(赤城寺)○不二山古墳○大室公園のコナラ

(書替: 3箇所)

- 堀下の仏像群標柱○春日神社のケヤキ標柱
- 横室の大カヤ説明板

イ 事業費

説明板設置(教育振興基金活用)

5,827,500円

標柱等書替(市単独費)

163,800円

3 普及事業

(1) 前橋市・高崎市連携文化財展

前橋・高崎連携文化財活用事業として、両市の所有する文化財を広く紹介することにより、文化財の共有化と市民相互の文化意識の向上や、文化財への理解に寄与することを目的として、文化財展「東国千年の都」を開催した。また昨年度より引き続き、両市の会場にてミニ講演会を開催した。

①展示テーマ

東国千年の都『前橋・高崎の弥生時代—2000年前の開拓者たち』

今年度は弥生時代をテーマとした。弥生時代は稻作が始まり、新たに水田を切り開く「開拓の時代」であった。前橋・高崎両市の弥生時代の遺跡の動向を探り、やがて迎える古墳時代の幕開けまで、両市の先人たちがどのように開拓をしてきたかを代表的な遺跡の出土品を通して考える構成とした。

②期日・会場

- ・前橋会場 平成26年1月8日～14日
- ・前橋プラザ元気21 1階にぎわいホール
- ・高崎会場 平成26年1月18日～27日
- ・高崎シティギャラリー 2階 第6展示室

③開催結果

総計4,360人に来場いただき、うち前橋会場では3,219人だった。また前橋会場でのアンケート結果では、この文化財展の感想として「おもしろい」89.5%、「興味深い企画だ」91.3%、「展示されていた遺跡を訪ねてみたい」88.1%、「もっと続けてほしい」92.2% (回答者219人) と好評を得た。

(2) 第41回前橋市郷土芸能大会

- ① 日 時 平成25年1月16日(土)
- ② 会 場 前橋市民文化会館 小ホール
- ③ 内 容

前橋市内から出演の5団体に近隣市町村からの招待団体を加えた計6団体の公演を行った。近隣市町村からの招待は、団体同士の交流と研鑽を目的に始められ恒例となっているが、今回は伊勢崎市より「上州国定舞」に出演いただいた。

もう一つの恒例となっている抽選会も実施した。これは余興的な催しである一方、より多くの方に来場いただき、最後の公演まで活気を持たせるねらいで実施している。市内外20の企業・団体からご協賛を頂き、盛大に開催することができた。さらに、マスコミ各社の後援協力を頂き、広報活動も積極的に行なった。(延べ500名入場) 大会全体の所要時間は、各出演団体の協力により、ほぼ時間通りに進めることができた。今後も、より充実した大会を目指し、工夫と努力を重ねたい。

郷土芸能の名称	保 存 会 名	所在地
飯玉神社 太々神楽	後閑町飯玉神社 御神楽保存会	後閑町
稻荷藤籠	泉沢町 郷土芸能保存会	泉沢町
正調八木節	上州国定舞	伊勢崎市 田部井上区
上泉の獅子舞	上泉獅子舞保存会	上泉町
上州桂会の 屋台ばやし	上州桂会・祭りば やし愛好会	東片貝町
二宮赤城神社 太々神楽	二之宮町 無形文化財保存会	二之宮町



公演の一場面

(3) 普及啓発

- ① 文化財探訪

この事業は、前橋市内にある文化財や施設の見学を通じて、市民の方々の生涯学習に役立て、文化財の意義・保護管理の大切さの理解を深めることを目的に、平成15年度より開始した。平成25年度の第1回目は、5月に粕川地区を訪問した。女渕城跡、月田近戸神社、膳城跡等全6箇所をめぐった。第2回目は、1月に大室古墳群をめぐり、開催中のイベント「古代東国文化サミット」を観覧した。地元を知ることができる貴重な体験をすることができた。

(第1回目)

日 時 5月24日(金)

13時~17時15分

案 内 文化財保護課 小島輔佐

参加者：17名

コース：まえばしの文化財めぐり 粕川地区
三ヶ尻の宝塔→三ヶ尻双体道祖神→女渕城跡→
月田近戸神社→膳城跡→粕川歴史民俗資料館



月田近戸神社での見学風景

(第2回目)

日 時 1月24日(日)

9時30分~12時

案 内 大室古墳の語り部

参加者 19名

コース：まえばしの文化財めぐり
大室古墳群・古代東国文化サミット
前二子古墳→中二子古墳→後二子古墳・小二子
古墳



大室古墳での見学風景

② 文化財解説ボランティア養成講座

「ふるさとの語り部養成講座」

平成23～24年度にかけて文化財講座を開催し、多くの方に参加して顶きました。講座の参加者は、歴史への関心が非常に高く、また講座を通じて研鑽を積んでおり、郷土の魅力を伝えることのできる人的資産である。平成25年度はこれまでより一段階ステップアップした講座とし、参加者の本市文化財の知識をさらに高めるとともに、他の市民や本市観光者に対して、文化財解説ボランティアとしてその知識を還元する人材を育成することを目的として開講しました。過年度の講座受講生のうち、参加回数の多かった受講生に対して募集通知を送付し、申込者数は20名であった。5月のオリエンテーションから始まり、外部講師を含む講義や、「グループ検討、受講生同士で文化財解説を行う「文化財解説演習」などを通じて、10月には受講生が解説ボランティアとなる文化財めぐり(「文化財解説実習」)を開催することができた。平成26年3月2日には修了式を行い、19名が修了証書を受けた。また修了式にて受講生と意見交換を行い、本受講生を核として文化財解説ボランティア団体を設立することとなり、平成26年度より活動することとなつた。



文化財解説実習の様子

③ 出張授業・出前講座

○出張授業「おもしろ文化財教室」

小中学校の社会科や総合的な学習の時間などにおいて、本課職員が講師として授業を行うものである。依頼を受けた、学校の担当教諭と事前打ち合わせを行い、その中で、授業のねらいや留意点などをできるだけ詳細に確認し、児童・生徒たちにとって充実感・達成感のある授業をめざし実施した。今年度は、延べ1校797名に対応した。

《実施概要一覧》

実施日	学校名	学年	実施内容(実施場所)
4/26	桃瀬小	6年	古墳講義及び勾玉体験
4/26	桃井小	6年	總社古墳群めぐり
5/21	広瀬小	6年	土器つくり
6/12	滝窪小	6年	土器つくり
6/18	岩神小	6年	土器つくり
7/18	芳賀小	6年	埴輪つくり
10/15	伊勢崎坂東小	3年	昔のくらし・道具 粕川歴史民俗資料館
10/30	莉川小	3年	昔のくらし・道具 粕川歴史民俗資料館
11/11	桃瀬小	6年	前橋空襲の講義 外部講師(原田さん) と連携
1/17	大胡小	3年	昔のくらし・道具 粕川歴史民俗資料館
1/31	滝窪小	3年	昔のくらし・道具 粕川歴史民俗資料館
2/13	大胡東小	3年	昔のくらし・道具 粕川歴史民俗資料館

○出前講座(生涯学習課事業)

今年度の実施状況は以下の通り。

i. 「明治のイギリス外交により見出され

た大室古墳群】

希望なし

ii. 「古代の廻転に咲いた草 山王庵寺」

1団体 18名

iii. 解明! 古代前橋の中心「推定上野町跡」

4団体 141名

iv. 「文化財のあらましと保護行政について」

希望なし

なお、その他事項として「公民館巡回事業」に関連するものとして明寿大学への講師派遣依頼があった。

講義名 前橋の歴史を遡る

実施日 平成26年1月27日

場所 中央公民館

受講数 400名

④ 職場体験学習

今年度は、3件の依頼があった。そのうち1件は高校からの依頼を受け入れた。実施概要是以下の通り。

○9/10～9/12

桂萱中学校 第2学年 6名

○10/1～10/3

第五中学校 第2学年 2名

○10/22～10/25

群馬県立・前橋商業高等学校

第1学年 10名

⑤ 文化財資料の貸出

出版社等からの依頼を受け、写真資料の貸し出しを行なった。主な貸出は以下の通り。

貸し出し資料	貸し出し先
前橋城遺跡IIの絵図	佛上毛新聞社
山王庵寺の放光寺瓦と繩像の写真画像	佛上毛新聞
前二子古墳横穴式石室の写真画像	読売新聞社
貝殻条痕瓦土器(柳久保遺跡)、諸磯丸式土器(愛宕山遺跡)の写真画像	佛平社
宝塔山古墳、蛇穴山古墳、前橋八幡山古墳の空撮写真画像	佛平社
山王庵寺の刻書瓦、塔心礎、石製鶴尾、伽藍推定復元図の写真画像	大田原市教育委員会
白藤古墳群の馬形埴輪(P-6、V-4号墳出土)	群馬県生活文化部文化振興課

⑥ 大室古墳群公開普及イベント 2013

平成16年度の大室古墳群整備事業終了後、前二子古墳石室復原市民プロジェクトや「大室古墳の語り部」による案内活動、公開イベントなどを実施して、地域と結び付いた歴史遺産の活用促進と文化財愛護精神の高揚を図っている。平成25年度は群馬県で実施している第2回古代東国文化サミットとの共同開催とし、古墳めぐりや体験活動、遺物展示に加えて、観光部局を含めたイベントを実施した。また関連イベントとして、シンポジウムや古墳関連の展示会(群馬県教育委員会主催事業)を開催した。

○11/2 古代東国文化シンポジウム

(群馬県・前橋市共同開催)

・企画名「東アジアから見た前二子古墳」

・開催場所

前橋市総合福祉会館2階多目的ホール

・参加者数 約200名

○11/24 第2回古代東国文化サミット

～ググッとぐんま・大室古墳フェスタ～

(県・県教委・前橋市共同開催)

・開催場所 大室公園

・参加者数 約25,000人



古代東国文化サミットの様子

⑦ 大室古墳群市民ボランティア解説員の活動 (大室古墳の語り部)

一般市民の視点に立った文化財・史跡の普及活用を目指して発足し8年目となった。ボランティアは9名、ほとんどが地元在住の市民で活動している。

春から秋にかけての定期説明会(古墳案内)。また、団体・個人から見学依頼を受けて行う案内。他に、大室イベントへの協力。小学生の夏休み期間にあわせて、またが玉づくり教室を開催するなど、今も積極的な活動を行なった。定期説明会は、「広報まえほし」や市ホームページでの広報を行い、市民に活動をアピールしている。

また、年度末には総会を開催し、翌年度の総括と来年度に向けての活動計画を検討した。さらに、野外研修として、市外の史跡や解説団体(施設)を見学し資質向上に努めている。

⑧ 定例活動(古墳案内等)

(5月～11月の主に第1土曜日)

9時30分から11時頃まで受付。民家園を集合・出発場所として開催。希望者が集まり次第、人数に応じてグループに分けするなどして案内。一周時間程度、大室古墳群公開イベントや小学生の夏休み特別教室に合わせても実施している。

見学者 計 125名

② 学校・一般団体等の案内

6団体へ実施 見学者 計 272名



古墳案内の様子（東国文化サミットにて）

③ 研修会

市観光ボランティア会の研修のほか、会員で史跡や歴史施設の見学・研修を行っている。本年度は、埼玉県行田市方面を訪れ、史跡や案内の手法について学んだ。



野外研修（さきたま古墳群）

(6) 文化財保存団体への育成補助

総社地区および荒砥地区において、その地内に残る文化財の説明板や標柱の設置を継続的にしている団体や、市内各所で活動している郷土芸能保存団体に補助金を交付した。

また、県指定文化財「上野総社神社本殿」、市指定文化財「松平大和守家原代藩主画像10幅」に関して、参拝者や見学者の安全の確保や文化財の保存と継承を目的として、補助事業での助成を行った。交付対象団体は、以下の通りである。

- 前橋市郷土芸能連絡協議会
- 宗教法人 総社神社
- 宗教法人 孝顕寺
- 二之宮町無形文化財保存会
- 荒砥史談会
- 人胡歴史研究会
- 総社地区史跡愛存会



設置された標柱

(7) 文化財調査事業

① 山車・屋台総合調査

報告書作成（作成委託）

本年度は報告書作成のみ。委託先は朝日印刷工業株式会社。

（委託期間）

平成25年11月11日

～平成26年3月13日

（仕様概要）

A4判 部数 300部

頁数 表紙+見返し（印刷なし）+扉
+図版8P+本文約100頁

色数 オールカラー

製本 あじろ製本

表紙 マットPP加工

第3章 埋蔵文化財発掘調査事業

1 埋蔵文化財発掘調査事業

(1) 平成25年度の埋蔵文化財事業をふりかえって

① 発掘調査事業

詳細は、平成25年度埋蔵文化財調査事業一覧表に掲載した通りである。発掘調査業務31件であった。内訳は、直営事業14、委託事業8、民氏事業9である。発掘調査総面積は39,141m²で、直営11,113m²、委託4,240m²、民氏23,788m²であった。

② 上野国府跡

平成23~27年度までの5カ年計画で上野国府範囲確認調査を開始し、3年目の折り返しにあたる。現在、元総社蒼海地区の区画整理事業が進行中であるが、それに伴い区画整理地内に約10,000m²の公園の設置が予定されている。仮に区画整理地内で国府跡が発見されれば、この公園予定地を充當でき保存・活用が図っていかれる。

25年度の調査は総社神社境内、元総社小学校校庭、東山道駅路推定地の調査を進めた。本來は国府推定地B案である蒼海城の本丸を予定していたが諸般の事情で変更となつた。

元総社小学校校庭遺跡では1962・1963年の発掘調査で2×5間と2×4間の掘立柱建物跡が検出されている(注1)。また隣接する牛池川河川改修調査では、木製人形7点、「匂厨」、「厨」、「曹司」などの墨書き土器が出土している(注2)。今回の調査では、校庭の西側から幅3mの区画溝が検出され、公的に使用したと考えられる什器類がまとめて出土した。この上には「木」(たてまつ)、「大家」(おおやけ)の墨書きが残っていた。東山道駅路については調査地の残りが極めて悪かつたため、残りの良い地点をねらって調査を進める必要がある。

③ 元総社蒼海遺跡群(51)~(68)、(72)、(73)

(57)からすでに数多く検出されているAs-B層下以前の大溝が検出された。これらの大溝は昭和57年度に調査された開泉橋遺跡で初めて認識された大溝と類似するもので既に元総社地区からは発端となった開泉橋遺跡(1983)を始め、開泉明神北遺跡、寺田遺跡、元総社明神遺跡Ⅱ、元総社蒼海遺跡群Ⅰ~IV、元総社蒼海遺跡群(3)、(7)、(9)~(10)、(14)~(19)、(36)、(57)~(59)で検出されている(注3)。いずれも上幅4~6mで深さは1~2mで上部にAs-B層を堆積している。但し方位は南北、東西方向のほか斜めのものもある。上野国

府に関連する時期であるが、機能的にも上野国府に関連するかは今後の分析に委ねたい。

(60)では7世紀前半の10mに近い大型住居が検出され、この主軸方向と平行してAs-B層を堆積する区画溝が検出された。上野国府に関連する時期のもので注意を要する。(62)では古墳時代前期の前方後方型方形周溝墓が検出された。過去の調査で1基検出されており、ここ一帯に方形周溝墓群の存在が推定される。さらに古墳時代中期から後期の住居址が10軒検出されている。牛池川右岸一帯には古墳時代中期から後期にかけての集落が存在する。元総社明神遺跡Vは本遺跡から南方100mに存在し、ここから居館遺構が検出されている。上野国府の成立を考える上で極めて示唆に富むものである。

④ 朝倉工業団地遺跡群No.6

As-B下の水田跡17区画が検出された。IIr-FA下の水田跡は残りが悪いため、部分的な検出に留まった。

⑤ 川曲阿弥陀西遺跡No.2

As-B下の良好な水田跡が残っていた。条里地割の大畦畔が東西、南北とも検出され、中央に水路を持ち、多数の水口を設けるなど特異性が認められた。

⑥ 元総社早道乙遺跡

調査の結果、古墳時代から平安時代までの住居が10軒調査された。この中から焼土を持つ住居は生産遺構に関連するものと思われる。

⑦ 西新井遺跡

広瀬川低地帯に存在する本遺跡は東京大学大学院設楽博巳教授によって昭和30年代から表面採集が行なわれ、縄文時代晩期の有数な遺跡として認定されていた。今回の調査区は包含層がなくなるあたりにあたったため遺物出土量は少なかった。しかし、縄文時代晩期の土器片や石礫、遮光器土偶の崩れと思われる良好な資料が出土した。今後本市の縄文時代を考える上で貴重な資料となる。

⑧ 元総社落合遺跡

調査の結果、平安時代までの住居が8軒調査された。密集した集落が広範囲に広がることが判明した。

⑨ 南部拠点地区遺跡群

すでに開発が済んだA区とB区の西側であるC

区について試掘調査を延長 4,972m にわたって実施した。大部分から平安時代の水田跡が検出された。この結果を受け、3 地区の調査が展開された。更にイケアが出店するエリアを 2 地区に分けて調査中である。本区域全域に平安時代の水田跡が広がることが判明した。

⑨横室田中遺跡№2

調査の結果、古墳時代の住居が 4 軒調査された。いずれも深い掘り込みを有する住居であり、コーナー部が隅丸に形成される特徴がある。

2) 台帳整備事業

すでに刊行された『前橋市遺跡分布地図』をベースに群馬県教育委員会文化財保護課連携の Web 版遺跡地図『マッピングぐんま』の改訂を申請中である。平成 26 年度中には更新作業が済み供用開始となる。

遺跡範囲については今までの範囲をはるかに超えたものとなっており、法 93・94 条の届出件数がかなり増加してくるため、受付事務の強化を図ることと、遺跡地図の上半期、下半期での改訂作業が必要となる。

3) 資料整備事業

普及関係 学校向け埋蔵文化財普及パンフレット『い・せ・きワールド in 前橋 2014』(カラー印刷、A4 判 4 頁、7000 部作成) を刊行し、市内小学校高学年配布したほか、公民館等の公共施設書架にも配布した。

『朝倉広瀬古墳群』のカラーパンフレット(A4 判 16 頁、4000 部作成)を作成し、市内公民館や公共施設に配布するととも地元の上川瀬公民館や上川瀬地区郷土民俗資料館ではパンフレットを使用した見学会を数度に亘って実施している。

資料整備 見学対応の多い市内出土の重要遺物を志賀昆虫製の標本箱に整理を行なった。今回整備の対象とした遺物は、前二子古墳・後二子古墳・小二子古墳の装身具や金属製品、頭無遺跡細石刃・文化石器群、芳見沢遺跡細石刃文化石器群、鳥取福嚴寺遺跡細石刃文化石器群、横浜遺跡群ナイフ形石器群、内堀遺跡群 IX 台形様石器群、堀越甲真木 B 地点遺跡ナイフ形石器群、山王廃寺金属製品や縄袖、三彩陶器等の資料である。

展示 展示については、前橋・高崎連携文化財展、文化財保護課庁舎玄関展示、市内公民館のほか市内小学校、けやきウォーク、サンデンフォレストなどの山下資料の貸出や展示替えを行なった。

報告書作成 平成 25 年 11 月 2 日に総合福祉会館で開催した『東アジアから見た前二子古墳記録集・資料集』(群馬県文化振興課発行、A4 判 210

頁) (注 4) の原稿作成と編集作業を行なった。明治 11 年に前二子古墳と後二子古墳の石室から副葬品が出土した。地元の大室神社宝物殿に鏡や玉類などいくつかの出土品を除いて大方の資料が保存されてきた。今回公表のため掲載した 357 点におよんでいる。明治 11 年 3 月に調査してからすでに 130 年が経過したが、今回の作業によって公表することが可能となった。

さらに、平成 4 年の石室調査や平成 14 年に史跡整備に伴う調査で出土した資料も再録を行なった。平成 4 年出土の双葉剣菱形杏葉についても新たな破片から福井県十善の森古墳の双葉剣菱形杏葉に類似する形態であることが判明した。平成 14 年度の資料を再整理した結果、雲母片が 4 片検出された。高崎市井出二子山古墳を含めて国内では 10 例、韓国慶州の天馬塚、飾履塚、金鈴塚など 12 例程度が知られているに過ぎなく、韓国慶州との深い関係が指摘されているものである。

遺物整理 過年度未整理遺跡である頭無遺跡と柳久保遺跡の縄文時代石器 250 点の図化を行なった。このほか堀越甲真木 B 地点遺跡の石器の器種、重量計測、石材などについて分類し台帳を作成し、平成 26 年度の整理作業に備えた。

また、右島和夫氏が編集する王山古墳発掘調査報告書作成作業についても協力をした。

4) 開発に伴う事前協議

開発に伴う事前協議が合併による市域の拡大に伴い増加の一途を辿っている。月平均 200 件以上、年間にして 2,500 件もの協議に対応した。このうち 1,000 m² を超える大規模な開発や周知の遺跡に隣接するもの、上野国府や山王廃寺、古墳など重要な遺跡については試掘調査を行なった。試掘件数 49 件であり、このうち調査に移行したものは 9 件を超えた。このほか立会調査が 19 件であった。

今後、開発協議に迅速に対応するために、遺跡地図の逐次更新と G SI S 活用を早急に進める必要がある。

参考文献

- 注 1) 1986 松島栄治「元絶社小枝庭遺跡」『群馬県史資料編 2』
注 2) 前川文 1986 「元絶社明神遺跡Ⅷ」と群川文 1996 「元絶社寺田遺跡Ⅲ」注 3) 前教委 1983 「閑泉橋遺跡」文化財調査報告書第 13 集、前川文 1988 「寺田遺跡」、前教委 1984 「元絶社明神遺跡Ⅱ」、前川文 1986 「元絶社明神遺跡Ⅰ・IV」、前川文 1986 「元絶社明神遺跡Ⅲ」、前教委 2005 「元絶社蒼海(3)」、前教委 2006 「元絶社蒼海(7)」、前教委 2007 「元絶社蒼海(9・10)」、前教委 2008 「元絶社蒼海(14・19)」、前教委 2011 「元絶社蒼海(36)」、前教委 2014 「元絶社蒼海(57~59)」注 4) 群馬歴史文化遺産先拂活用発信実行委員会 2014 『東アジアから見た前二子古墳記録集・資料集』

(2) 平成25年度 埋蔵文化財発掘調査一覧表

No.	遺跡名	ふりがな	コード	代表地番	面積	方式	調査原因	調査期間
1	上野国府等範囲内確認調査	こうすげこくふ	25A147	元總社町1-31-45	574	直営	範囲確認	25/7/1~25/11/27
2	元總社蒼海遺跡群(51)	もとそうじやおうみ	25A149	元總社町1715-4	143	直営	区画整理	25/7/1~25/11/27
3	元總社蒼海遺跡群(52)	もとそうじやおうみ	25A150	元總社町1567-3	16	直営	区画整理	25/7/1~25/11/27
4	元總社蒼海遺跡群(53)	もとそうじやおうみ	25A151	總社町總社3103	348	直営	区画整理	25/7/1~25/11/27
5	元總社蒼海遺跡群(54)	もとそうじやおうみ	25A153	元總社町1701 3	78	直営	区画整理	25/7/1~25/11/27
6	元總社蒼海遺跡群(55)	もとそうじやおうみ	25A154	元總社町1306-2	151	直営	区画整理	25/7/1~25/11/27
7	元總社蒼海遺跡群(56)	もとそうじやおうみ	25A155	總社町總社3116-1	26	直営	区画整理	25/9/10~25/12/10
8	元總社蒼海遺跡群(57)	もとそうじやおうみ	25A156	元總社町1920	330	委託	区画整理	25/11/25~26/1/31
9	元總社蒼海遺跡群(58)	もとそうじやおうみ	25A157	元總社町1914-5	700	委託	区画整理	25/11/25~26/1/31
10	元總社蒼海遺跡群(59)	もとそうじやおうみ	25A158	元總社町1445 20	270	委託	区画整理	25/11/25~26/1/31
11	元總社蒼海遺跡群(60)	もとそうじやおうみ	25A159	元總社町1351-1	1,190	委託	区画整理	25/12/3~25/2/13
12	元總社蒼海遺跡群(61)	もとそうじやおうみ	25A160	朝引町總社3114-3	616	直営	区画整理	25/9/10~25/12/10
13	元總社蒼海遺跡群(62)	もとそうじやおうみ	25A161	元總社町3600-1	110	委託	区画整理	25/11/14~25/3/26
14	元總社蒼海遺跡群(63)	もとそうじやおうみ	25A162	元總社町3598-4	230	委託	区画整理	25/11/14~26/3/26
15	元總社蒼海遺跡群(64)	もとそうじやおうみ	25A163	元總社町2019	500	委託	区画整理	25/11/14~26/3/26
16	元總社蒼海遺跡群(65)	もとそうじやおうみ	25A164	元總社町2103-2	910	委託	区画整理	25/12/2~26/3/26
17	元總社蒼海遺跡群(66)	もとそうじやおうみ	25A165	元總社町1585 1	155	直営	区画整理	25/7/1~25/11/27
18	元總社蒼海遺跡群(67)	もとそうじやおうみ	25A166	總社町1335	89	直営	区画整理	25/1/1~25/11/27
19	元總社蒼海遺跡群(68)	もとそうじやおうみ	25A167	元總社町2170	78	直営	区画整理	25/7/1~25/11/27
20	元總社蒼海遺跡群(72)	もとそうじやおうみ	25A171	總社町總社3121-8	43	直営	区画整理	25/9/10~25/12/10
21	元總社蒼海遺跡群(73)	もとそうじやおうみ	25A172	總社町總社3506-1	136	直営	区画整理	25/9/10~25/12/10
25	朝倉上・斐田地遺跡群No.6	あさくらじょうひよまんぢ	25G79	下作鳥町1003-2	652	民営	倉庫新築	25/1/10~25/3/25
26	川曲阿弥西遺跡群No.2	かわまきあみみみ	25A148	川曲町356-1	5,329	民営	店舗新築	25/1/7~25/9/20
27	元總社早道乙遺跡	もとそうじやかみやかなづか	25A152	元總社町866-1	408	民営	造成工事	25/8/18~25/8/30
28	西新井溜跡	にしのいり	25H56	平屋町75	36	民営	施設新築	25/1/16~26/1/22
29	元總社落合跡跡	もとそうじやかみちあ	25A170	元總社町721-1	36	民営	施設新築	25/3/18~26/3/29
30	南部拠点地区遺跡群試掘調査	なんぶきょくよくさんくわく	25G80	鶴光町121-2ほか	8,660	直営	区画整理	25/7/3~25/8/30
31	南部拠点地区遺跡群No.7	なんぶきょくよくさんくわく	25G81	鶴光町121-2	5,850	民営	区画整理	25/1/18~26/1/22
32	南部拠点地区遺跡群No.8	なんぶきょくよくさんくわく	25G82	鬼里町43-2	6,365	民営	区画整理	25/1/18~26/1/22
33	南部拠点地区遺跡群No.9	なんぶきょくよくさんくわく	25G83	鬼里町933-2	4,972	民営	区画整理	25/1/13~25/12/27
34	横田中遺跡No.2	よこたなか	25L2	富士見町横田667	140	民営	造成工事	25/3/17~26/3/28

(3) 平成25年度 埋蔵文化財報告書一覧表

No.	報告書名	調査名	実行者	実行年月日	備考
1	元總社蒼海跡群(48)	元總社蒼海跡群	前橋市教育委員会	2014.3.20	
2	元總社蒼海跡群(51)(52)(53)(54)(55)(66)(67)(68)	元總社蒼海跡群	前橋市教育委員会	2014.3.28	
3	元總社蒼海跡群(56)(61)(72)(73)	元總社蒼海跡群	前橋市教育委員会	2014.3.31	
4	元總社蒼海跡群(57)(58)(59)	元總社蒼海跡群	前橋市教育委員会	2014.3.26	
5	元總社蒼海跡群(60)	元總社蒼海跡群	前橋市教育委員会	2014.3.26	
6	推定上野国府	上野国府跡	前橋市教育委員会	2013.12.13	
7	前浦山村西田溜跡	前浦山村西田溜跡	前橋市教育委員会	2013.4.26	
8	上佐鳥中原前浦跡	上佐鳥中原前浦跡	前橋市教育委員会	2013.5.30	
9	朝倉工業団地遺跡群No.2	朝倉工業団地遺跡群	前橋市教育委員会	2013.8.30	
10	朝倉工業団地遺跡群No.5	朝倉工業団地溜跡	前橋市教育委員会	2013.8.30	
11	朝倉工業団地遺跡群No.6	朝倉工業団地遺跡	前橋市教育委員会	2013.9.30	
12	川曲阿弥西遺跡群No.2	川曲阿弥西溜跡	前橋市教育委員会	2013.12.27	
13	南部拠点地区遺跡群No.7	南部拠点地区遺跡群	前橋市教育委員会	2014.3.26	
14	南部拠点地区遺跡群No.8	南部拠点地区遺跡群	前橋市教育委員会	2014.3.26	
15	南部拠点地区遺跡群No.9	南部拠点地区遺跡群	前橋市教育委員会	2014.3.26	
16	元總社早道乙遺跡	元總社蒼海跡群	前橋市教育委員会	2014.3.31	
17	六供遺跡群No.7	六供遺跡群	前橋市教育委員会	2013.2.28	H25記載済れ

平成25年度 試掘調査一覧表

所在 地	開発面積 m ²	開発原因	調査年月日	調査 結 果
1 菅柳町	2,213.47	宅地造成	4月10日	遺構の検出なし。須恵器片、中世陶磁器片
2 六供町	1,300.00	上地区画整理	4月17日	時期不詳溝跡、土器片古墳時代土師片
3 輪荷新田町	3,894.15	宅地造成	4月24日	時期不詳溝跡、土器片古墳時代土師片
4 輪荷新田町	5,908.04	道路整造	5月9日	平安時代水田跡
5 富田町	1,277.00	新院建設	5月13日	埋蔵文化財検出なし
6 富士見町時沢	2,831.00	有料老人ホーム建設	5月28日	古墳・平安時代住居跡、古墳時代土師器・須恵器
7 下綱井町	4,939.44	宅地造成	6月5日	遺構の検出なし。古墳時代土師器片
8 稲越町	2,314.00	有料老人ホーム建設	6月11日	古墳・平安時代住居跡等、土器片
9 二之宮町	1,937.00	有料老人ホーム建設	6月13日	埋蔵文化財検出なし
10 朝倉町	4,506.00	保育園建設	6月17日	古墳時代水田跡、構築時期不詳溝跡等、土器片
11 大浦田町	4,400.00	道路整造	6月20日	埋蔵文化財検出なし
12 朝霧田町二丁目	280.82	個人住宅建設	6月21日	埋蔵文化財検出なし
13 五代町	587.95	個人住宅建設	6月24日	遺構の検出なし。古墳時代崩壊土器片
14 朝倉町	2,948.00	老人ホーム建設	6月27日	時期不詳溝跡
15 稲越町	4,842.00	薪天資材貯場整地	6月28日	埋蔵文化財検出なし
16 瓦井町	22,574.68	医療施設建設	7月2日～7月4日	近代溝跡、绳文時代土器片
17 青梨子町	1,727.00	障害福祉サ-ビス事業所	7月24日	平安時代溝跡
18 蔡庄町・上泉町	15,000.00	道路	8月1日	新聞紙古墳周辺
19 稲川町女洞	3,797.06	小学校校舎建設	8月6日～8月7日	構築の検出なし。古墳時代土師器片少址
20 北代町	1,936.00	店舗建設	8月13日	埋蔵文化財検出なし
21 河原浜町	1,700.00	道路整造	8月27日	埋蔵文化財検出なし
22 市之瀬町	2,000.00	道路整造	8月27日	平安時代水田跡
23 富士見町時沢	1,467.00	アパート建設	9月4日	時期不詳溝跡、平安時代土師器・須恵器片
24 西大東町	434.28	鉄塔建設	9月10日～9月11日	構築の検出なし。绳文崩壊土器片、須恵器片
25 植惣町	2,517.47	宅地造成	9月18日	埋蔵文化財検出なし
26 力丸町	2,876.00	内舗建設	9月25日	遺構の検出なし。上師器片少址
27 元総社町	1,497.00	上地区画整理	10月2日～10月3日	平安時代住居跡、中世溝跡等、土師器片、須恵器片
28 元総社町二丁目	538.00	保育園建設	10月8日	遺構の検出なし。平安時代土師器片
29 五代町	1,643.03	デイサ-ビスセンター等建設	10月17日	埋蔵文化財検出なし
30 徳社町惣社	11.50	凱帝基墓地施設建設	10月22日	埋蔵文化財検出なし
31 高井町一丁目	966.00	アパート建設	10月24日	古墳・平安時代住居跡、土師器片、須恵器片
32 川曲町	1,286.34	障害福祉サ-ビス事業所	10月29日	埋蔵文化財検出なし
33 上泉町	8,600.00	道路改良	11月5日	埋蔵文化財検出なし
34 富士見町横室	990.00	鉄塔建設	11月6日～11月7日	遺構の検出なし。縄文・古墳時代土器片
35 小柏木町	8,638.89	宅地造成	12月4日～12月5日	遺構の検出なし。上師片
36 富士見町横室	1,301.00	宅地造成	12月11日	平安時代住居跡、绳文崩削土器片、平安土師片
37 東源町	763.22	老人ホーム等建設	12月12日	绳文晚期濃口包合層、绳文晚期土器・石器
38 元総社町	615.64	老人ホーム等建設	12月19日	平安時代住居跡、土師器・須恵器
39 総社町惣社	826.00	保育園建設	12月25日	埋蔵文化財検出なし
40 下大屋町	786.00	新堀建設	1月23日～1月24日	溝跡、井戸跡
41 茂木町	2,302.00	宅地造成	1月24日	埋蔵文化財検出なし
42 元総社町	4,685.49	宅地造成	1月30日～1月31日	平安時代鐵冶関連遺構、住居跡等、鉄碎滓
43 稲川町女洞	2,106.65	宅地造成	2月12日	埋蔵文化財検出なし
44 島羽町	288.00	貯留浸透施設設置	2月25日	時期不詳溝跡、平安時代須恵器
45 稲川町深津	253.25	鉄塔建設	2月27日	遺物包含層、绳文土器

46	幡倉町	20,170.00	道路改良	3月4日～3月6日	中世・近世溝跡、古墳時代土師器片
47	大千町一丁目	3,502.00	道路改良	3月13日	埋蔵文化財検出なし
48	川曲町	100.00	鉄塔建設	3月13日	埋蔵文化財検出なし
49	鈴社町鈴社	4,072.41	介護老人保健施設増築	3月25日	時限不詳溝跡、古墳時代土器片、石器

平成25年度 立会調査一覧表

所在地	開発面積 m ²	開発原因	調査年月日	調査結果
1 大胡町	1,187.00	歯科医院建設	5月20日	埋蔵文化財検出なし
2 千代田町一丁目	248.00	李源沂建設	5月21日	埋蔵文化財検出なし
3 下佐鳥町	20.00	浄化槽設置（湖ヶヤマト）	6月3日	As-B, Hr-PA, As-Cが検出されるも明確な遺跡なし
4 北代田町	5,507.87	宅地造成	7月1日	埋蔵文化財検出なし
5 鶴川町下東田畠	-	個人住宅建設（浄化槽）	7月1日	埋蔵文化財検出なし
6 元鶴町	1,180.00	宅地造成	7月26日	平安時代住居跡、土坑、土師器、須恵器
7 鶴越町	2,314.00	有料老人ホーム建設	7月26日	埋蔵文化財検出なし
8 二之宮町	1,281.13	個人住宅建設	7月30日	埋蔵文化財検出なし
9 広瀬町一丁目	210.00	個人住宅建設	8月7日～8月8日	埋蔵文化財検出なし。818年の大地震の地割れ検出
10 鶴倉町	4,506.00	保育園建設	9月24日	古墳時代溝跡、土師器片
11 小神明町	-	個人住宅建設（浄化槽）	9月26日	埋蔵文化財検出なし
12 西片貝町丘丁目	1,471.81	宅地造成	9月27日	埋蔵文化財検出なし
13 小坂子町	-	走路改良	9月30日	埋蔵文化財検出なし
14 小神明町	2,039.00	有料老人ホーム建設	10月9日	埋蔵文化財検出なし
15 茂木町	-	個人住宅建設（浄化槽）	11月28日	埋蔵文化財検出なし
16 鶴川町中	2,683.46	店舗建設	2月3日	埋蔵文化財検出なし
17 高井町一丁目	966.00	アパート建設	2月21日	埋蔵文化財検出なし
18 新郷町	-	浄化槽設置（みなみモール）	2月25日	埋蔵文化財検出なし
19 小神明町	-	個人住宅建設（浄化槽）	3月14日	埋蔵文化財検出なし

① 上野国府等範囲内容確認調査 (25A147)



調査位置図

事業名 上野国府等範囲内容確認調査
所在地 前橋市元総社町一丁目 31番地 45 ほか
調査期間 平成 25 年 7 月 1 日から

平成 25 年 11 月 27 日まで

担当者 阿久澤智和・寺内勝彦
調査面積 574 m²

調査の経緯 上野国府は前橋市元総社町付近に設置されたと考えられているが、その中心施設である国府は位置のほか、その詳細が不明なため、平成 23 年度から 5 年計画で上野国府の概況を把握することを目的とした「第四確認調査」を行うこととした。本年度はその 3 年次である。

調査の成果 平成 25 年度は、総社神社・元総社小学校における国府関連施設の確認、区画溝の確認、東山道駿駒田原ルートの確認を目的として 12ヶ所のトレンチを設定し調査を行った。

(1) 国府関連施設の確認調査

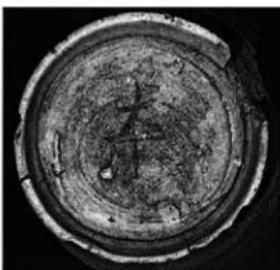
元総社明神遺跡、元総社寺田遺跡、及び元総社小学校校庭遺跡の発掘調査の成果から、総社神社・元総社小学校の周辺は国府関連施設が存在した可能性が非常に高いと思われるため、確認調査を実施した。



黒色土器盤出土状態

総社神社では、住居跡 2 軒、溝 1 条のほか、土坑・ピット・井戸が検出されたが、掘立柱建物跡などの国府関連施設は検出されな

かった。元総社小学校では、住居跡 1 軒、溝 1 条のほか、土坑・ピットが検出された。特に検出された溝 (W-1 朝日町前) については、幅約 2 m で南北の走向を持ち、覆土中から盤・高盤・蓋・坏などの須恵器や黒色土器盤・蓋などの国府関連施設で使用されたと考えられる土器群のほか、漆付きの土器や骨器などの上野関連遺物なども出土している。川土した土器群の中には、「本(ホノ)」「大家(オカニ)」と墨書きされた須恵器の柄も含まれていた。



黒色土器「本」赤外線写真

(2) 区画溝の確認調査

閑泉塗跡、閑泉明神北遺跡、元総社明神遺跡、元総社若海遺跡群、推定上野国府 1 年次調査等で検出されている古代の大溝をつなぐと、総社神社と元総社小学校を中心として東西約 600 m、南北約 900 m の規模で西回することが想定され、この大溝の存在が想定されるが未だ検出されていない位置において、大溝の有無を確認する調査を実施した。

天神地区及び駿駒田原ルートにおいて実施したが、大溝は検出されなかった。

(3) 東山道駿駒田原ルートの確認調査

駿駒田原ルートの用木路沿いに西南西から東北東へ続く市道が、東山道駿駒田原ルートと考えられている。国府城橈定の参考とするため、市道に沿って道筋遺構の有無の確認調査を 2 地点で実施したが、道筋遺構の検出には至らなかった。

調査のまとめ

(1) 国府関連施設の確認調査

総社神社では国府関連施設を検出できなかったが、社務所裏で検出された掘立した牛池川の旧路跡の覆土中から、国府関連遺物の円頭破片等が出土した。

元総社小学校で確認された古代の溝は、8世紀代の黒色土器や須恵器の盤・蓋などが多く出土した点や、過去の調査で同小学校校庭から掘立柱建物跡が 2 棟確認された点から、国府関連施設を区画する溝であることが推定される。

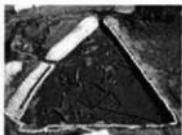
(2) 区画溝の確認調査

今回調査した地点では区画溝を確認できなかつたことから、区画溝の想定ラインを再考する必要がある。

(3) 東山道駿駒田原ルートの確認調査

今回調査した地点では東山道駿駒田原ルートに隣接する遺構は確認できなかつたが、想定ルートは、高崎市内で確認された駿駒田原ルートの延長上にあるため、今後も想定ルート付近で引き続き調査を実施する必要がある。

② 元総社蒼海遺跡群
(51)～(55)・(66)～(68)
(25A149～151、153、154、165～167)



元総社蒼海遺跡群(53)全景



遺跡位置図

③ 元総社蒼海遺跡(56) (61) (72) (73)
(25A155、160、171、172)



遺跡位置図

事業名 元総社蒼海土地区画整理事業
所在地 前橋市元総社町 1732-1 他

調査期間 平成 25 年 7 月 1 日から

平成 25 年 11 月 27 日まで

担当者 小峰 鶴・渡辺 亮介

調査面積 1,058 m²

蒼海(51) 143 m² 蒼海(52) 16 m²

蒼海(53) 348 m² 蒼海(54) 78 m²

蒼海(55) 151 m² 蒼海(66) 155 m²

蒼海(67) 89 m² 蒼海(68) 78 m²

調査経緯

平成 25 年 6 月 10 日付で、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査依頼が前橋市より前橋市教育委員会に提出された。協議の結果、前橋市教育委員会直當での発掘調査を実施することとなった。これを受け、7 月 1 日から現地での発掘調査を開始した。

調査成果

(51) : 8 世紀代の集落跡で 6 軒の住居跡が検出された。上野郡国分尼寺跡にも近く、螺旋状暗文を有する壺や盤等が出上した。

(53) : 古墳時代から平安時代にかけ

事業名 元総社蒼海土地区画整理事業
所在地 前橋市元総社町他

調査期間 平成 25 年 9 月 10 日から

平成 25 年 12 月 10 日まで

担当者 藤坂和延

調査面積 26 m² (25A155)

616 m² (25A160)

43 m² (25A171)

136 m² (25A172)

調査の経緯 平成 25 年 6 月 10 日付で、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査依頼が前橋市より前橋市教育委員会に提出された。協議の結果、前橋市教育委員会直當での発掘調査を実施することとなった。これを受け、9 月 10 日から現地での発掘調査を開始した。

調査の成果 (56)・(61) は隣接する調査区で、縄文時代の土器片・打製石斧・石鏃が出土し、弥生時代の土器片も出土した。また、古墳時代から平安時代にかけての集落跡も見つかった。同期の堅穴住居跡は 2 3 軒を数え、堅穴

の住居跡 18 軒が検出された。10 世紀代の住居跡が 8 軒で最も多く、羽釜や灰釉陶器などが出土した。また、楕円泡などの鉄滓が出土しており、鍛冶工房跡の存在も推察される。



蒼海(53) H-12 住居跡作業風景

(55) : 住居跡 2 軒、溝跡 2 条を検出した。

(66) : 蒼海城の堀と考えられる大溝 1 条、住居跡 3 軒を検出した。出土遺物などから 7 世紀代の集落跡と考えられる。

(67) : 住居跡 3 軒、溝跡 1 条を検出した。長筒甕や土師器蓋などの生活用具を伴う甕が良好な状態で見つかった。

(68) : 住居跡 1 軒、堅穴状遺構 1 軒を検出した。

なお、(52) 及び(54)では、遺構の検出はされなかった。

遺構 6 基、溝跡 2 条、土坑 5 基を検出した。古墳時代の方形周溝墓 1 基も検出し、周溝内からは土師器・埴も出土



C-1 号方形周溝墓

した。さらに、中世末から近世初頭に比定できる土壙墓 1 基も検出し、「永楽通寶」・「開元通寶」・「洪武通寶」をはじめとする六道錢も出土した。同時期の遺構はそのほかに井戸 1 基が検出している。

(72) では、調査面積が狭いものの、平安時代の堅穴住居跡 1 軒を検出し、住居跡を切る溝跡 1 条も検出した。

(73) では、時期不明ではあるが道状遺構 1 条を検出した。

④ 元總社蒼海遺跡群 (57・58・59)
(25A156) (25A157) (25A158)



元總社蒼海遺跡群 (58) 全景



遺跡位置図

⑤ 元總社蒼海遺跡群 (60) (25A159)



調査区全景



遺跡位置図

事業名 区画整理事業

所在地 前橋市元總社町 1919-1 他

調査期間 平成 25 年 11 月 25 日から

平成 26 年 1 月 31 日まで

担当者 山田誠司 (技研コンサル株式会社)

調査面積 1300 m²

調査の経緯 平成 25 年 9 月 5 日付で、前橋都市計画事業元總社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査依頼が前橋市より提出された。市教育委員会では、直営による発掘調査が困難であるため、「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事業取扱要綱」に則り、民間調査組織に業務を委託するよう前橋市に回答した。民間調査組織への業務委託について前橋市の合意も得られ、市教育委員会の監理、指導のもと民間調査組織が発掘調査を実施することになった。平成 25 年 11 月 13 日付で前橋市と技研コンサル株式会社との間で発掘調査・整地業務委託契約を締結し、発掘調査を開始した。

調査の成果 本遺跡からは古代の大構

跡 1 条、平安時代の住居跡 1 軒、中世の溝跡 7 条、柱穴多数、中世以降の堅穴状遺構 1 基、性格不明遺構 1 基を検出している。検出された遺構のうち上野国府に関連する大構が注目される。大構跡は現状で上幅約 4m、下幅約 3m で断面は箱型の形態を示している。底面は平坦で、顕著な高低差は見られず、また、土層観察からは湛水の痕跡は見出せなかったことから、日常管理が行なわれていた様子が窺われる。底面直上の灰釉陶器や羽釜が出土していることや覆土の状況から 10 世紀以前の削削は間違いないものと思われる。性格不明遺構からは馬の下顎骨が 2 体分出土した。下顎骨以外の部位は無いため、意図的に持ち込んだものと思われる。



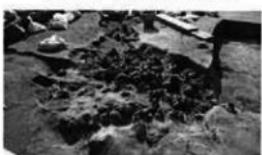
上野国府に関連する大構

住居跡 43 軒、溝跡、堤跡、井戸等が検出された。遺構のうち 7 世紀後半から 8 世紀初頭にかけての大型住居跡に注目したい。9.5m × 9.5m を測る大型住居跡の電は焼土が少なく、床面も堅硬ではないため、常時使用とは考えられない。日常誰とも言うべき土器類甕等が少ないことも特徴の一つであり、出土遺物の主体を占める須恵器も盤などの特殊遺物が含まれており、この大型住居跡の特異性を表している。大型住居跡と主軸方向を同一にする溝跡が南側で検出されており、注意を要したい。周辺に所在する元總社蒼海遺跡群(43)でも 8.6m × 9.2m を測る 8 世紀代の大型住居跡が検出され高叢が出土している。国府城における大型住居跡の分布を考える上で重要な遺構といえよう。

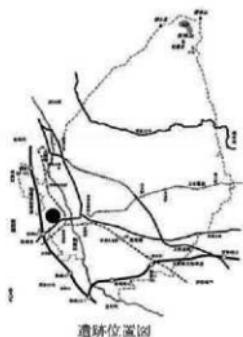


検出された大型住居跡

⑥ 元總社蒼海遺跡群(62)・(63)・(64)
(25A161) (25A162) (25A163)



製鉄炉 鉄滓分布状況



蒼海城に隣接する地形

事業名 区画整理事業
所在地 前橋市總社町 3600-1 他
調査期間 平成 26 年 1 月 14 日から
平成 26 年 3 月 26 日まで
担当者 宇佐義美春(技研コンサル
株式会社)

調査面積 840 m²
調査の経緯 平成 25 年 12 月 19 日付け
で、前橋市計画事業元總社蒼海土地区
画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
依頼が前橋市より提出された。市教育委員会
では、直営による発掘調査が困難であるため、「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査
における民間調査組織導入事務取扱要綱」に則り、民間調査組織への業務委託を委託するよう前橋市に回答した。民間調査組織への業務委託について前橋市の合意も得られ、市教育委員会の監理、指導のもと民間調査組織が発掘調査を実施することになった。平成 26 年 1 月 14 日付けで前橋市と技研コンサル株式会社との間で発掘調査業務委託契約を締結し、発掘調査を開始した。

調査の成果 本遺跡からは前方後方型

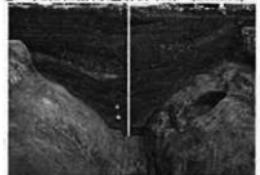
と思われる周溝墓 1 墓、古墳時代後期
の住居跡 10 軒、平安時代の住居跡 2 軒、
古代の箱形炉 1 基、中世以降の溝跡 2
条、土坑、柱穴が検出された。

前方後方型の周溝墓の主軸はほぼ東西
で前方部は東である。周辺からも前方
後方型の周溝墓が検出されているため、
周辺は古墳時代初頭の墓域が展開して
いるものと想定される。周溝墓から南
へ約 200m の箇所からは、古墳時代後期
の住居跡が多数検出された。注目する
遺構として古代の箱形炉の検出がある。
残存状況が悪いものの、製鉄炉の両端
に排滓土坑と作業場を持つものである。
調査時に魔土を採取しているため、今
後整理作業と魔土の洗浄が進むことで、
詳細が明らかになるものと期待される。



古墳時代住居跡全景

⑦ 元總社蒼海遺跡群(65) (25A164)



蒼海城に隣接する地形

事業名 区画整理事業
所在地 前橋市元總社町 2103-2 他
調査期間 平成 26 年 1 月 22 日から
平成 26 年 3 月 26 日まで
担当者 戸木孝行(技研コンサル株式
会社)

調査面積 910 m²
調査の経緯 平成 25 年 12 月 19 日付け
で、前橋市計画事業元總社蒼海土地区
画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
依頼が前橋市より提出された。市教育委員会
では、直営による発掘調査が困難であるため、「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査
における民間調査組織導入事務取扱要綱」に則り、民間調査組織への業務委託を委託するよう前橋市に回答した。民間調査組織への業務委託について前橋市の合意も得られ、市教育委員会の監理、指導のもと民間調査組織が発掘調査を実施することになり、平成 26 年 1 月 14 日付けで前橋市と技研コンサル株式会社との間で発掘調査業務委託契約を締結し発掘調査を開始した。

調査の成果 本遺跡からは古墳時代後

期の住居 25 軒、平安時代の住居跡 3 軒、
中世の竪穴状遺構 5 基、井戸跡、若海城
に隣接する地形 1 条、中世近世の溝跡 7
条、柱穴、土坑等が検出されている。検出
された柱跡からは、堀を渡る横脚と思
われる一組のビットが確認されている。
今年度は発掘調査のみであるため整埋
作業が進捗するにつれ、より詳細が明ら
かになるものと思われる。



古墳時代と平安時代の住居跡



古墳時代後期の住居跡

遺跡位置図

⑥ 朝倉工業団地遺跡群No.6 (25G79)



調査区全景



⑦ 南部拠点地区遺跡群No.7 (25G81)



調査区全景 (西から)



遺跡位置図

事業名 本社・倉庫新築工事

所在地 前橋市下佐島町1003-2

調査期間 平成25年 5月20日から
平成25年 6月14日まで

担当者 小此木真理(有限会社毛野考古
学研究所)

調査面積 652 m²

調査の経緯 朝倉工業団地は、平成22年度の試掘調査により遺跡地であることが確認されている。平成25年2月14日、恵産業株式会社より埋蔵文化財の取扱いについて問い合わせがあった。その後、埋蔵文化財の保護について協議を重ね、建物建設により現状保存が不可能な箇所について発掘調査を実施し記録保存の措置をとることで合意を得た。市教育委員会では、直宮による発掘調査が困難であるため、「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要領」により、市教育委員会の監理、指導のもと、有限会社毛野考古学研究所が発掘調査を実施することになった。

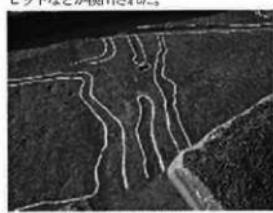
調査の成果 レンチ状の調査区であるが、Hr-FA 泥流層下の砂状構造・水田

跡・溝跡・As-B 直下の水田面・畦畔、中世以降の溝跡、戸井跡、土坑が検出された。Hr-FA 泥流層下の水田跡は残りが悪く、部分的に畦畔が確認されるのみであるが、北西から南東方向に主軸をとる水田面が17区画分確認された。水田は1m×2mの長方形を呈するものが多く、方位と共にこれまで調査された朝倉工業団地遺跡群と同様である。As-B 直下の水田跡の畦畔は東西南北の条理地割に沿うように作られており、7区画分が調査され、水口一箇所が検出された。中世では屢々敷設と思われる屈曲する輪跡が確認された。輪跡は2条確認されており、同様の半軸方向を持つコーカー一部分が検出されていることから、造り変えた可能性が考えられる。



水田跡 (As-B 下)

調査の成果 本遺跡からは平安時代の水田跡等が確認された。累積耕作では南北大畦畔2条、東西大町畔2条、九沟に基づく溝1条が検出され、調査区内で最低5坪分が復元されると思われる。確認された南北大町畔の1条は期間を水路として使用している状態が確認された。浅間日向右直下で確認された水田面は北西から南東方向に向って低く緩やかな傾斜地であるため、水田区画への給水・排水は北から南へ、西から東へとなされていたと考えられる。この他に、中世から現代にかけての耕跡や土坑、ピットなどが検出された。



耕跡検出状態 (東から)

⑩ 南部拠点地区遺跡群No.8 (25G82)



調査区全景



遺跡位置図

事業名 上地区画整理事業

所在地 前橋市龜里町943-2 他

調査期間 平成25年11月18日から

平成26年3月26日まで

担当者 井上 太(有限会社毛野考古学研究所)

調査面積 6,366 m²

調査の経緯 南部拠点地区遺跡群は平成20年度から区画整理事業に伴う発掘調査が6次に亘って行なわれ、古墳時代や平安時代の水田跡等が調査されている。平成25年4月16日、事業者より事業地内における埋蔵文化財について協議を受け、同年7月から8月にかけて試掘調査を実施し、平安時代の水田跡等が確認された。埋蔵文化財の保護等について協議を重ね、道路や調整池について発掘調査を行い記録保存の措置をとることで合意を得た。

市教育委員会では、直営による発掘調査が困難であるため、「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要綱」により、市教育委員会の監理、指導のもと、有限会社毛野考古学研究所が発掘調査を実

施することになった。

調査の成果 本遺跡からは平安時代の水田跡等が確認された。発掘調査では条理地割に基づく大畦跡が確認された。大畦跡は南北が2条、東西が1条検出され、調査区内では最低でも6坪分が復元されると想定される。各坪内の水田区画について、比較的整然とした区画や不整形で変則的な区画に大別される。変則的な区画については地形や水利の制約から生じたものと思われる。また、大畦跡に付随する構跡が確認され、坪境を超えた掛け流しや、水田での余分な水を水路に戻す水口が確認されたことは大きな成果の一つである。この他に、中世以降の溝跡や土坑等が確認されている。



水田跡 (As-B 下)

⑪ 南部拠点地区遺跡群No.9 (25G83)



調査区全景



遺跡位置図

事業名 上地区画整理事業

所在地 前橋市龜里町933-2 他

調査期間 平成25年11月13日から

平成25年12月27日まで

担当者 中村岳彦(技研コンサル株式会社)

調査面積 4,972 m²

調査の経緯 南部拠点地区遺跡群は平成20年度から区画整理事業に伴う発掘調査が6次に亘って行なわれ、古墳時代や平安時代の水田跡等が調査されている。平成25年4月16日、事業者より事業地内における埋蔵文化財について協議を受け、同年7月から8月にかけて試掘調査を実施し、平安時代の水田跡等が確認された。埋蔵文化財の保護等について協議を重ね、道路や調整池について発掘調査を行い記録保存の措置をとることで合意を得た。

市教育委員会では、直営による発掘調査が困難であるため、「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要綱」により、市教育委員会の監理、指導のもと、技研コンサル株式会社が発掘調査を実施することになった。

調査の成果 本遺跡からは平安時代の水田跡等が確認され、周辺の発掘調査事例と同様に、条理地割に基づく水田遺構が確認された。検出された大畦跡は南北2条、東西1条であり、調査区内では3坪分が復元されると想定される。坪内の水田は、東西に長く南北に短いものが規則的に存在している状態が判明し、取水は北から南へ、東から西へと考えられる。成果の一つとして水田城の一部に土を集めて土地を分離し、内部で作物を行なう「島畑」と考えられる遺構の検出がある。「島畑」と考えられる遺構はAs-B混土層で形成されており、周囲のAs-B混土層よりも18~24 cm高く、表面は平坦であり両端は畠畔状の高まりを持っていることが判明した。この他に中世以降の溝跡や土坑等が確認されている。



水田跡 (As-B 下)

② 元絶社早道乙遺跡 (25A152)



調査区全景



遺跡位置図

③ 川曲阿弥陀西遺跡No.2 (25A148)



水出面に残された足跡



遺跡位置図

事業名 宅地造成事業

所在地 前橋市元絶社町 866-1

調査期間 平成 25 年 8 月 19 日から

平成 25 年 8 月 30 日まで

担当者 柴田洋孝（有限会社毛野考古学研究所）

調査面積 408 m²

調査の経緯 平成 25 年 7 月 24 日、開発地が櫻削されている旨の連絡があり、本課職員が現地に急行した。同日、開発事業者と協議を行ない同年 7 月 26 日に試掘調査を実施し、平安時代の住居跡等が確認された。埋蔵文化財の保護等について協議を行なったが、すでに開発計画が進行していたため、道路部分について発掘調査を行い記録保存の措置をとることで合意を得た。市教育委員会では、直営による発掘調査が困難であるため、「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要綱」により、市教育委員会の監理、指導のもと、有限会社毛野考古学研究所が発掘調査を実施することになった。

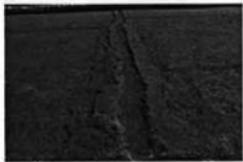
調査の成果 本遺跡からは平安時代の

竪穴住居跡 16 軒、上坑 8 基、溝跡 2 条、井戸跡 1 基、土壙塗 1 基が検出された。遺構の多くは調査区の北半分に集中している。竪穴住居跡は 7 世紀後半と 10 世紀以降と大別されるが、多くは 10 世紀に帰属するものである。住居跡の深度は 10 cm 前後であり、竪穴の残存状態は良好とは言えず、燃焼部や煙道の一部が確認されるのみの住居跡が大半を占めている。遺物は灰や甕、皿が重ねられた状態で出土している。出土遺物には転用甕や縁付陶器片、漆痕跡が残る土器片など充実した内容である。周辺の遺跡からは縁付陶器や円面鏡、銅鏡などの重要遺物が出土しているため、本遺跡を含めた地域は上野国府等の影響下にあったものと思われる。



遺物出土状態

の大咲畔は南方に所在する川曲地蔵前 II 遺跡と同一であり、畦畔の中央を掘り底め、溝の機能を併せ持っている形態である。周辺遺跡の調査事例から、本遺跡は条里制地割に基づく水田が展開していることが判明しており、南北大咲畔だけでなく、東西大咲畔の検出も期待されたが、想定された箇所には明瞭な大咲畔は確認されず、水田区画を目的とした咲畔のみであり、他の咲畔と比較しても幅や高さに大きな違いは見られなかった。しかしながら、想定された東西大咲畔と南北大咲畔との交点では、南北大咲畔の中央部分が大きくなっている。標高は北から南にかけて緩やかに傾斜しているため、取水も北側と想定される。



事業名 店舗新築工事

所在地 前橋市川曲町 356-1 他

調査期間 平成 25 年 8 月 5 日から

平成 25 年 9 月 20 日まで

担当者 横田友寿（スナガ環境測設株式会社）

調査面積 5,329 m²

調査の経緯 平成 24 年 9 月 24 日、事業者より事業地内における埋蔵文化財について協議を受け、同年 11 月に試掘調査を実施し、平安時代の水出跡等が確認された。埋蔵文化財の保護等について協議を重ね、店舗箇所等について発掘調査を行い記録保存の措置をとることで合意を得た。市教育委員会では、直営による発掘調査が困難であるため、「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要綱」により、市教育委員会の監理、指導のもと、スナガ環境測設株式会社が発掘調査を実施することになった。

調査の成果 本遺跡からは条里制に基づく平安時代の水田跡が確認され、南北方向の大咲畔 1 条が確認された。こ

④ 西新井遺跡 (25H56)



包含層調査風景



遺跡位置図

⑤ 横室田中遺跡No.2 (25L2)



住居跡群全景



遺跡位置図

事業名 介護施設建設工事

所在地 前橋市幸塚町75

調査期間 平成26年1月15日から

平成26年1月22日まで

担当者 長井正欣（有限会社毛野考古学研究所）

調査面積 36 m²

調査の経緯 平成25年8月6日、事業者より事業地内における埋蔵文化財について協議を受け、同年11月に試掘調査を実施し、浅間B輕石の純層と縄文時代晩期の遺物包含層が確認された。精査を行なったが、浅間B輕石層直下には平安時代の水跡跡は確認されなかつた。埋蔵文化財の保護等について協議を重ね、保護ができないエレベータピット範囲について発掘調査を行い記録保存の措置をとることで合意を得た。

市教育委員会では、直営による発掘調査が困難であるため、「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要綱」により、市教育委員会の監理、指導のもと、有限会社毛野考古学研究所が発掘調査を実施することにな

った。調査の成果 本遺跡は桃の木川の支流である竜の口川に沿った標高110mの低地帯に存在し、昭和30年代に遺物の表面採取が行なわれ、縄文時代晩期の遺跡として、その存在が広く知られるようになった。発掘調査により、浅間C輕石を含む黒褐色土の直下、層厚約20cmの遺物包含層が調査された。遺物は挙て程度の多量の円錐と共に出土し、遺物出土量は少なかった。これは包含層の縁辺部にあたるためと考えられる。出土数は少ないものの、晩期の上器片や石器、遮光器・土偶の胸部、骨片などが出土している。整理作業は次年度に行なわれる予定であり、より多くの情報が得られるものと期待される。



試掘調査で出土した遺物

事業名 宅地造成事業

所在地 前橋市富士見町横室667

調査期間 平成26年3月17日から

平成26年3月28日まで

担当者 和久拓志（有限会社毛野考古学研究所）

調査面積 140 m²

調査の経緯 平成25年9月2日、事業者より事業地内における埋蔵文化財について協議を受け、同年12月に試掘調査を実施し、平安時代の住居等が確認された。埋蔵文化財の保護等について協議を重ね、道筋部分について発掘調査を行い記録保存の措置をとることで合意を得た。市教育委員会では、直営による発掘調査が困難であるため、「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要綱」により、市教育委員会の監理、指導のもと、有限会社毛野考古学研究所が発掘調査を実施することになった。

調査の成果 本遺跡は法華沢川と細ヶ沢川にはさまれた台地の東縁にあたり、東の細ヶ沢川との比高差は約4mを測

る段丘状の急傾斜をなす。周辺には縄文時代前期聚落が調査された横室田中遺跡、同一の台地上には古墳時代から平安時代にかけての集落が検出された田中田遺跡が知られている。本遺跡からは平安時代の竪穴住居跡4軒、土坑1基が検出された。検出された竪穴住居跡は調査区の南東に集中し、出土遺物から8世紀後半から9世紀前半に帰属するものと思われる。重複している住居跡も存在しているため、本遺跡の集落時期は新旧の2期に大別される。上坑は調査区の壁際にかかっているため、部分的な検出にとどまった。このほかに、縄文時代早期前葉・前期中葉・後葉、中期後葉の土器片や打製石斧、石皿などが採取されている。



住居跡重複状態

⑩ 元總社落合遺跡 (25A170)



調査区全景(北西から)



道路位置図

事業名 介護施設建設工事

所在地 前橋市元總社町 721-1 他

調査期間 平成 26 年 3 月 18 日から

平成 26 年 3 月 29 日まで

担当者 柴田洋季 (有限会社毛野考古学研究所)

調査面積 36 m²

調査の経緯 平成 25 年 8 月 30 日、事業者より事業地内における埋蔵文化財について協議を受け、同年 12 月に試掘調査を実施し、平安時代の住居跡が確認された。埋蔵文化財の保護等について協議を重ね、保護ができないエレベータピット範囲について発掘調査を行い記録保存の措置をとることで合意を得た。

市教育委員会では、直営による発掘調査が困難であるため、「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要綱」により、市教育委員会の監理、指導のもと、有限会社毛野考古学研究所が発掘調査を実施することになった。

調査の成果 本遺跡からは、平安時代

の堅穴住居跡 8 軒、土坑等が検出された。現在整理中であるため、遺構の軒数は増減する可能性もあるが、狭小な範囲内で、複数の住居跡が重複して検出された。詳細な時期については整理中であるため、今後明らかになるが、各々の住居跡の時期は接しているものと思われる。



住居跡全景



土坑内の遺物出土状態

2 市内遺跡発掘調査事業

(1) 事業の目的

周知の埋蔵文化財包蔵地及び包蔵地外の規模の比較的大きい開発行為に対し、開発者と協議、調査を実施した。遺構や遺物等を確認した場合、県の指導要綱を基本に、開発者と埋蔵文化財の保存協議を行った。

(2) 事業の内容

① 調査方法

開発地内に調査トレンチを設定、重機による表土掘削後、人力による精査をして、遺跡の有無、遺跡の範囲確認を行った。調査面積は、開発面積の1割程度を基本に調査した。

② 記録作成

区域内の全体図作成、トレンチ内の遺構分布図、土層図を作成した。縮尺は開発区域の大きさにより、随時調整した。また写真撮影を行い記録資料とした。



西新井遺跡の試掘調査の様子

(3) 調査結果

試掘調査は、49件実施した。このうち、32件で埋蔵文化財が確認できた。

① 確認できた遺跡の時代

縄文時代～近世にかけての遺構を確認した。

② 調査した遺構

住居跡、水田跡、溝跡等

③ 試掘調査から発掘調査をした主な遺構

ア 元總社蒼海遺跡群(60)

平安時代住居跡、中世溝跡

イ 西新井遺跡

縄文時代晚期住居層

ウ 横室山中遺跡No.2

平安時代住居跡

エ 元總社落合遺跡

平安時代住居跡

3 遺跡台帳整備事業

(1) 前橋市遺跡地図の作成

平成15年度から開始した遺跡地図作成事業は、平成24年度に「前橋市遺跡分布地図」を刊行し、平成25年度から開発に伴う発掘による遺跡分布地図の更新について検討した。次年度以降、更新作業の実施を予定している。

(2) 遺跡GISの作成

平成20年度から開始した遺跡GIS事業は平成25年度までの遺跡分布範囲のデータ化を終了した。次年度以降も開発に伴う発掘調査の成果を遺跡GISへ随時更新を行い情報を追加していく。また、重要文化財情報もGISに搭載し、内容の充実を図っていく。

4 埋蔵文化財資料整備事業

(1) 普及パンフレット「い・せ・きワールド・in前橋」の作成

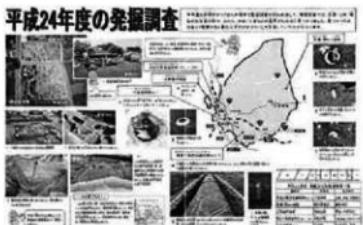
平成24年度に前橋市内で実施した埋蔵文化財発掘調査の成果を広めるため、A3版の両面印刷(表面カラー)の「い・せ・きワールド・in前橋2014」平成24年度前橋市埋蔵文化財発掘調査のまとめ」というパンフレットを作成した。

表面はカラーということでお写真を多く取り入れ、裏面には前橋市のどの場所で調査が行われたのか地図を配置し、調査内容をわかりやすくまとめた。

7,000部作成し、平成25年度初めに市内小・中学校並びに市立図書館、教育関係者等に配布し、文化財の普及を進めた。



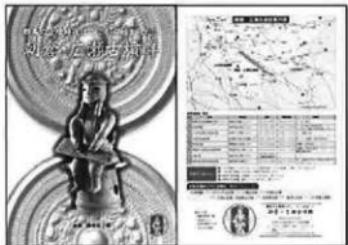
「い・せ・きワールド・in前橋2014」表面



「い・せ・きワールド in 前橋 2014」裏面

(2) 普及パンフ「広瀬古墳群」の作成

400年にわたって朝倉・広瀬の地には古墳が連続とつくり続けられ、その内容、数量とともに国内を代表する古墳群であったが、この地域一帯に早くから開拓が入ったため、古墳群は姿滅状態となってしまった。しかし、残された古墳から往時の状態を偲ぶことは現在でも可能であるため、今までその全容を知りえる資料がなかったため、平成25年度に東国文化発信事業に賛助し普及パンフレットを発行した。



群馬の古墳時代はここから始まった！！

朝倉・広瀬古墳群

(3) 出土資料の活用（貸出展示）

- ・かみつけの里博物館(高崎市)
山王庵寺山上塑像、山王庵寺出土放光寺銘文字瓦
- ・アーツ前橋
柳久保水田社 磁画土器、耳飾り
- ・しもつけ風土記の丘資料館(栃木県)
大室古墳群前二子古墳 須恵器杯、石見型埴輪 他
- ・(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
大室古墳群前二子古墳馬具双葉劍菱形杏葉前二子古墳馬具劍菱形杏葉 他

- (4) 貸出用資料の整備（写真・遺物・図面）
展示や貸出に頻繁に利用する遺物・写真などの資料を利用しやすくするため遺物と報告書の実測の写しと一緒に管理するなどの整備を行った。

(5) 市民プロジェクト・前橋高崎連携展資料の作成

前橋・高崎連携展資料として安通・洞源跡出土の深鉢、西迎遺跡出土の壺・甕、天神山古墳出土鏡・太刀・鉄鎌・銅鎌・紡錘車など多数展示資料を作成した。

(6) 展示成果

- 富士見 元総社 けやき 芳賀 図書館
① 元総社公民館
総社地区の土地区分整理に伴う発掘調査の成果である壺や高盤などの出土遺物、上野町役場に関連する人形や墨書き器などの複製品、「写真などの展示を行った。

- ② けやきウォーク前橋
平成23年度の発掘調査で出土した古鏡や丸鏡(ベルトの飾り)などの出土遺物、市民プロジェクト作成の金冠塚古墳出土の金銅製冠や大室古墳群関連の出土品の福製品の展示を行った。

- ③ 芳賀公民館
芳賀地区は縄文時代の遺跡が多数調査されている。芳賀地区から出土した縄文土器、縄文土器の変遷などの開設パネル、発掘調査写真などの展示を行った。

- ④ 大室公園
第2回古代東国サミット「グッドぐんま大室古墳サミット」において市民プロジェクトで復元作成した前二子古墳の埴輪や馬具の展示を行った。

- ⑤ サンデンファシリティ
見学者体験教室「森の教室」に縄文土器や石器、土師器、須恵器などの遺物、発掘調査状況や住居、墓などから遺物が見つかった様子など撮った写真パネルを展示した。



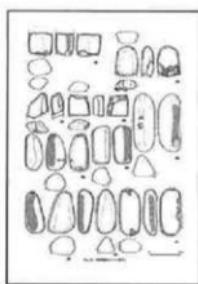
サンデンファシリティ
見学者体験教室「森の教室」

(7) 発掘調査資料の整理作業

① 前二子古墳シンポジウム資料の作成
平成25年11月2日(土)に実施したシンポジウム「東アジアから見た前二子古墳」レジュメと記録集・資料集を作成した。講演会やパネルディスカッションのデータ起こし、編集作業と合せて明治11年に前二子古墳の石室から出土した金属製品の図化や編集図化や編集を行い刊行に備えた。



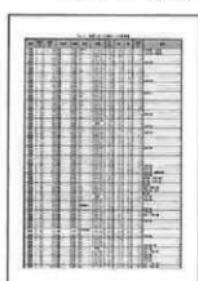
② 柳久保遺跡群の石器整理作業



前橋工業団地造成組合が分譲した鶴谷団地の造成に伴って発掘調査を行った柳久保遺跡群無遺跡や柳久保遺跡の未整理であった縄文時代石器群の実測作業を行なった。頭無遺跡石器219点と柳久保遺跡石器247点の合計466点を実施した。その報告は本書に掲載した。

③ 堀越甲真木B地点遺跡の石器整理作業

平成14年に遊戯施設駐車場造成に伴い発掘調査を実施した。その中で関東ローム層AT下から1699点にも上る旧石器が発見され、本市の歴史を考える上で極めて貴重な資料であるが、未整理の状態となっていた。今回、器種認定、重さ、石材など属性について台帳作成を行なった。米



年度に本格的な整理作業を予定しており、順調に進めば平成27年度に報告書を刊行する計画である。

5 文化財資料管理

(1) 寄贈図書用務・報告書一斉送付

平成25年度の寄贈図書冊数は、5, 932冊。内訳は、他市町村等教育委員から1, 065冊、井川誠一氏から1, 077冊、川島多美子氏から3, 790冊だった。

この寄贈に対する返礼と前橋市の文化財保護行政の周知のため、10月に『年報第43集 平成24年度文化財調査報告書』他18冊を204ヶ所に一斉送付した。

(2) 写真資料・図面資料のデジタル化に関すること

劣化していく写真のネガをデジタル化保存し、資料の保存を図り、資料の活用の利便性を目的とする。平成25年度は主に山下魔寺遺跡に関する資料のデジタル化を行なった。

6 上野国府等保存整備事業

(1) 上野国府等調査委員会の実施概要

元総社町に存在したとされる上野国府の閑所や諸施設の概況を把握するための発掘調査を平成23年度から国庫補助事業「上野国府等範囲内容確認調査事業」として実施している。本事業を推進するにあたり、上野国府等調査委員会(平成12年度に発足した山王魔守等調査委員会の名称を平成23年度開催の委員会において変更)において、上野国府とそれに密接な関係をもつ周辺遺跡の調査計画と整備内容の検討を十分に行なながら事業を実施してきた。

本年度は、5か年計画の3年目の調査を実施したが、国府の存在が疑える墨書き土器が出土したが、国府に直接関係する遺構は確認できなかった。そのため、1月22日に現地観察と事業内容に関する協議を行うべく委員会を開催した。議題となった報告及び協議は以下のとおりである。

(2) 第19回上野国府等調査委員会

開催日 平成26年1月22日

開催場所 総社公民館、発掘現場等

《現地視察》

元総社若海遺跡群の大溝、大型住居

《関連する埋蔵文化財の発掘調査報告》

- ① 元総社若海遺跡群発掘調査の成果
- ② 推定上野国府における遺構・遺物の検討



第19回委員会現地視察の様子

《協議》

① 平成25年度事業の成果について

当初計画していたB案の若海城本丸跡の発掘調査は、実施することができなかつたため、総社神社境内、元総社小学校校庭及び東山道駅路想定ルート付近等の調査のため、12箇所のトレーニングを設定し、調査を行つた。直接国府に間接づけられる遺構は確認されなかつたが、元総社小学校校庭での調査では、「本(ほん)」と「大家(おおやけ)」と書かれた墨書き土器が検出された。国府関連遺構探索のヒントとなると思われる。

② 平成26年度事業計画について

若海城の本丸を国府の跡地と仮定したB案や大溝の関係、元総社小学校校庭について調査を行うことを提案した。

③ 主な意見

- ・東山道駅路想定部分のトレーニング調査の結果について、精査が必要である。
- ・元総社小学校校庭から出土した墨書き土器は、赤外線写真や实物を精査した結果、「本」と「大家」と書かれていると判断した。
- ・大溝のつながりについて、レーダー探査による調査を検討したい。
- ・国府の大溝は方形であるという先入観をなくして、調査方法を検討されたい。
- ・調査範囲が狭小である。
- ・東山道駅路想定ルートについて、引き続き調査をするよう検討されたい。

・今までの調査成果を1枚の大きな地図に記入して、委員会の際に提示して欲しい。



上野国府等範囲内用確認調査トレーニング位置図

頭無遺跡・柳久保遺跡の縄文石器図化作業

1はじめに

平成 25 年度の資料整備事業で未整理であった頭無遺跡と柳久保遺跡の縄文時代包含層出土の石器 466 点を図化したので、実測図および観察表を掲載する。

なお、「頭無遺跡・柳久保遺跡出土の石器について」大工原豊氏（國學院大學）、「前橋市内遺跡出土黒曜石資料の産地分析について」建石徹氏（文化庁）・大工原豊氏・二宮修二氏（東京学芸大学）について玉稿をいただいたので付録に掲載をさせていただいた。

柳久保遺跡群は前橋市鶴が谷町に所在する 20ha におよぶ城南住宅団地造成に先立って、昭和 57 年度から昭和 62 年度の 6 年間にわたって発掘調査された遺跡で調査面積 141,387 m² を測る。柳久保遺跡群は、下鶴谷遺跡、柳久保遺跡、諏訪遺跡、中鶴谷遺跡、頭無遺跡、柳久保水田址遺跡の 6 遺跡で構成される。

今回報告する縄文時代の石器は前橋市鶴が谷町 40-8 ほかに所在する頭無遺跡と前橋市鶴が谷町 22-12 ほかに所在する柳久保遺跡から出土したものであり、既刊の『柳久保遺跡群Ⅶ（1988）』に掲載できなかった資料である。

基本的には『柳久保遺跡群Ⅶ』に掲載したものには収録していないが、一部重複して掲載したものもある。

柳久保遺跡群の調査は、昭和 57 年度末に分布調査の実施、昭和 58 年度に現況図の作成・平面座標杭と水準杭の設置、昭和 59 年度に幹線道路と宮川河川改修部分の発掘調査と全域の試掘調査を行った。本格的な発掘調査は、昭和 60 年度から昭和 62 年度まで 3 カ年にわたって実施された。

これら調査成果の詳細は『柳久保遺跡群Ⅰ～Ⅶ』発掘調査報告書（1985～1988）に譲るとして、ここでは簡潔に遺跡毎の成果を観て行きたい。

(1)…下鶴谷遺跡 旧石器時代の遺物、縄文・奈良時代の遺構・遺物がまとめて検出された。この中で縄文時代草創期の撫糸文土器群や復元された大型の鶴ヶ島台式土器深鉢は特筆されるものである。『柳久保遺跡群Ⅳ（1987）』、『柳久保遺跡群Ⅴ（1988）』に収録。

(2)…柳久保遺跡 旧石器～奈良時代の遺構・遺物が多量に発見された。台地全面に及ぶ調査から古墳時代～奈良時代の住居跡が 53 軒検出された。4 世紀後半 10 軒、5 世紀中葉 15 軒、6 世紀後半

5 軒、8 世紀前半 23 軒と建物跡 25 棟が検出された。台地全面におよぶ調査で四時期にわたる集落変遷が解明された。このほかに縄文早期沈縄文土器や早期末葉の条痕文土器群もまとめて検出された。『柳久保遺跡群Ⅰ（1985）』、『柳久保遺跡群Ⅶ（1988）』に収録。(3)…諏訪遺跡 柳久保遺跡の西に位置する諏訪遺跡からは縄文・古墳時代の遺構・遺物が散見された。この中で古墳時代の溝は前山遺跡で検出された溝と接続が考えられるものである。『柳久保遺跡群Ⅲ（1988）』に収録。

(4)…中鶴谷遺跡 縄文時代・古墳～平安時代にいたる遺構・遺物が多数検出された。特に『田部』とかかれた 20 点を超える墨書土器の発見は「上西原遺跡」との関連や本地域の律令体制を考え上で興味深いものであった。『柳久保遺跡群Ⅵ（1988）』に収録。

(5)…頭無遺跡 旧石器・縄文・古墳・平安時代の遺構・遺物が検出された。特に三時期にわたる旧石器時代の文化層が検出され、最上部の第Ⅰ文化層と呼んだ荒巣型彫器を伴う細石刃文化石器群は群馬県内で初出例であった。また、赤城山麓でも標高 300～400m 地帯に多くみられる「陥し穴」がまとまって検出されたため、赤城南麓一帯に「陥し穴」が分布することが判明した。田戸上層式や子母口式土器もまとまって出土したため縄文時代早期研究の重要な資料が発見できた。『柳久保遺跡群Ⅶ（1988）』に収録。

(6)…柳久保水田址 As-B 層下面で平安時代の埋没水田が広範囲にわたり検出された。プランツ・オバールの分析結果から本遺跡における水田耕作は Hr-FA 降下以降に開始されたという結果が提出されている。また、9 世紀後半の稻作祭祀に用いられた鬼が書かれた土器や豚骨、馬歯などの一括資料は平安時代に書かれた『古語拾遺』の記載と見事に一致した。『柳久保遺跡群Ⅰ（1985）』に収録。

この他に古墳が柳久保遺跡から 4 基、中鶴谷遺跡から 1 基検出されている。いずれも 7 世紀後半のものである。

2 頭無遺跡の石器

頭無遺跡の位置については、Fig. 1・2 を参照願いたい。頭無遺跡は柳久保遺跡群内の南東部にあたる標高 109m の丘陵性台地に立地する。宮川によって開削された谷を西側に臨むこの台地は、

南西に緩傾斜を持ち、沖積地との比高4～5mを測る。発掘調査は昭和62年4月21日から10月21日までの6ヶ月間実施した。

頭無遺跡の12,000m²の調査区からは旧石器時代第Ⅰ～Ⅲ文化層、縄文時代草創期～後期、古墳時代前期、平安時代前期の遺構と遺物が検出された。

旧石器時代では、第Ⅰ文化層から細石刃核・細石刃・荒屋型鋸器、第Ⅱ・Ⅲ文化層からナイフ形石器や台形様石器等、総数435点の石器が出土した。

続く縄文時代では、土坑41基、集石7基、焼土跡4基、石器配置遺構2基が確認された。33基の土坑はいわゆる「陥穴」であり、4～5基単位で構成が認められた。

遺物は、包含層を中心に草創期撫糸文土器群、押型文土器をはじめ、多量の早期沈線文、糸痕文土器群が出土した。この他に前期前半の織維縄文、竹管文土器群、中期の勝坂式土器、加曾利E式土器のほか後期の加曾利B式土器が僅かに出土した。また、それぞれの土器群に伴う石器類も多数出土した。

この他、古墳時代の住居址1軒、平安時代の住居址1軒、上坑3基、井戸1基、粘土採掘坑1基が検出されている。

1) 包含層出土の土器

包含層から出土した縄文式土器は草創期～後期にわたる土器群であり、以下のとおりである。多次期にわたる包含層であるため、土器と石器の共存関係は把握できていない。

II群土器 草創期 撫糸文系土器 6点

III群土器 早期 無文系土器 5点

V群土器 早期 沈線文土器 1,144点

VI群土器 早期 押型文土器 149点

VII群土器 早期 糸痕文土器 1,244点

VIII群土器 前期 織維縄文土器 208点

IX群土器 前期 竹管文土器 24点

X群土器 中期 勝坂、加曾利E 145点

XI群土器 後期 加曾利B 74点

このように12,000m²の包含層調査から出土した縄文土器の点数は分別不可能なものを含め6,348片を数えた。(Tab. 1)。包含層から出土したものの中うち出土量が多いものは、V群とVII群土器でV群土器が1,144点(38%)、VII群土器が1,244点(41%)を占めている。

2) 包含層出土の石器

包含層から出土した石器は、総数3,501点を数える(Tab. 2)。包含層の遺物分布を通じて、各器種と土器群との関係を把握しようと試みたものがFig. 29～31である。出土した土器がV群・

VII群土器である沈線文土器や糸痕文土器が主体的であるため、石器の多くはそれらの土器群に伴出したものと考えられる。

器種別にみると石鏃127点、削器111点、打製石斧79点、特殊磨石24点が目立った。

石材については地元石材である黒色頁岩が圧倒的多数を占めている。チャート、黒色安山岩、黒曜石が次いで使用されている。しかし、石材は硬さや緻密さ、粘りなどからそれぞれの器種に用いたものと判断した。

第1群石材…小型利器。黒曜石や珪質頁岩

第2群石材…中型利器。黒色頁岩、黒色安山岩

第3群石材…中型鉈器。閉縫岩、石英閉縫岩

第4群石材…第二の道具。緑色片岩類

第5群石材…大型鉈器。粗粒安山岩

第1群石材…緻密な加工に適し、黒曜石や珪質頁岩など遠隔地から搬入される石材である。小型の石器として加工されることは交易石材である。

第2群石材…黒色頁岩や黒色安山岩を代表格とする県内の一般的石材。粘りを持つため中型の利器に用いられ近距離の産地のため大きい素材が提供される。

第3群石材…加工には不適のため円礫のまま利用される。目的に適う形状・大きさの素材を河床から採集し利用する。

第4群石材…点紋緑色片岩は石器時代を通じて利用される石材で、縄文時代後期以降は第二の道具に多用される。産地は多野・藤岡方面に限定される。

第5群石材…粗粒安山岩は赤城山、横名山を形成している岩石であり、山麓では至る所にみられる。きめが粗く柔らかい石材で巨大な素材も入手可能である。石皿をはじめ磨石などに用いられる。

3) 遺物分布 (Fig. 29～31)

石鏃、打製石斧、削器…V群・VII群土器と共に分布域にまとまりを見せながらも、広範囲に分布する。

砾器、敲石、磨石、凹石…点数的に少ないが、V群・VII群土器と共に分布域にまとまりを見せながらも、広範囲に分布する。

特殊磨石…VI群土器と共に分布であるがV・VII群土器との関連も持つものである。

スタンプ形石器、三角錐形石器…点数的に少ないが、多面体磨石の分布とは違った分布域をみせている。

剥片…黒曜石剥片が南西部に集中し、チャート剥片は2カ所に著しい集中がみられたが、所属時期や製品は判明できなかった。石鏃や削器の製作跡と考えることが妥当であろう。

4) 石器の概要

今回図示したものは218点であるが、すでに『柳久保遺跡群Ⅶ（1988）』に石器配置遺構の大型打製石斧7点の実測図を掲載してあるため参照願いたい。

石鏃（Fig. 3・4）図示した点数は101点である。圓基無茎鏃63、平基無茎鏃25、平基有茎鏃8、凸基有茎鏃3、円基鏃1である。大工原氏の分析により、平基無茎鏃25点は早期中葉、圓基無茎鏃のうち珪質頁岩製は常世式、平基無茎鏃に近いものは早期中葉とされている。圓基無茎鏃には縄文後期の閣東型の局部磨製石鏃3点、鍔形鏃4点が存在する。平基無茎鏃には草創期の局部磨製石鏃が存在する。

石匙（Fig. 5）10点を図示した。横形石匙6点、縦型石匙2点である。

削器（Fig. 5～7）33点を図示した。裏面に主要剥離面を大きく残す横形のものが多数を占めるほか鍔形のものも出土した。

打製石斧（Fig. 7～10）37点を図示した。裏面に礫面や主要剥離面を大きく残すものが特徴的である。刃部は円刃と平刃がある。刃部は急傾斜をなす片刃タイプである。形態はナスピ状に仕上げられたものは丁寧な刃部形成がみられる。159・164・171・174などが典型例である。刃部が平刃のものが156・160・161・163・165・166である。平刃のものは円刃に比べ刃部作出が粗い。大工原豊 2002によれば、礫面を大きく残した片刃形の打製石斧は早期後後に位置づけられている。このほか分銅形のもの186・188・189にもには後期のものである。

スタンプ形石器（Fig. 10・11）9点出土したうち5点を図示した。

特殊磨石（Fig. 11～13）24点出土したうち19点を図示した。閃綠岩や石英閃綠岩などの棱円形の円錐の一側面に磨痕が残る石器であり、端部に敲痕がみられる。

蔽石（Fig. 13）1点図示した。

石皿（Fig. 13）218は粗粒安山岩の石皿である。

3 柳久保遺跡の石器

柳久保遺跡の位置についてはFig. 2を参照されたい。本遺跡は赤城山南麓の標高110m前後の丘陵性台地に立地する。台地は舌状を呈し、沖積地との比高6～7mである。台地の規模は、南北300m、東西150m、調査面積40,000m²を測る。調査は昭和59年度に旧石器・縄文時代の遺物と古墳～奈良時代にかけての遺構・遺物を調査した。昭和60・61年度には全面調査を展開させ、旧石器・縄文時代の遺構・遺物をはじめとして古墳～奈良時代にかけての遺構・遺物を多数した。

調査では旧石器・縄文時代・古墳・平安時代の遺物や遺構が検出された。旧石器時代の遺物は尖頭器3点と台形様石器2点が検出された。縄文時代の遺構は、土坑14基、壠石5基、焼土跡3基、石器配置遺構1基、埋設土器1基であり、遺物は、草創期～後期の土器や石器類がみつかった。弥生時代は後期の土器が出土した。古墳～平安時代について多くの遺構や遺物が出土している（柳久保遺跡群Ⅷ）。

1) 包含層出土の土器

本遺跡から出土した縄文式土器は、草創期から後期にわたった。以下、縄文土器の分類結果である（Tab. 3）。

II群土器	草創期	撫糸文系土器	415点
III群土器	早期	無文系土器	170点
IV群土器	早期	無文織維土器	253点
V群土器	早期	沈線文土器	307点
VI群土器	早期	押型土器	19点
VII群土器	早期	条痕文土器	850点
VIII群土器	前期	織維縄文土器	585点
IX群土器	前期	竹管文土器	1,718点
X群土器	中期	勝坂、加曾利E	68点
XI群土器	後期	堀之内・加曾利B	207点

調査された28,000m²の包含層からの出土総数5,292点である。包含層から出土したもののうち出土量が多いものは、IX群土器とVIII群土器で、分類不能な細片等を除いた4,592点の内訳では、IX群土器が1,718点（37.4%）、VIII群土器が850点（18.5%）を占めている。

2) 包含層の石器

今回図示したものは247点であるが、すでに『柳久保遺跡群Ⅶ（1988）』に67点の実測図を掲載した。これらの内訳は尖頭器3、有舌尖頭器3、石鏃1、石匙2、削器6、打製石斧28、礫器2、石皿1、スタンプ形石器15、三角錐形石器4点である。このほか石器配置遺構から出土した大型打製石斧2点がある。

包含層から3,702点が出土した（Tab. 4）。出土した石器はすべて同一層準から出土したものであるため、時期の同定が困難であった。土器を見るとVII群、VIII群、IX群土器が量的に多いため、石器の器種にもそれらの時期が反映していることと思われる。

付表の柳久保遺跡包含層の縄文石器集計表をみると、石鏃140点と削器81点、打製石斧99点、スタンプ形石器33点、特殊磨石24点が目立っている。

3) 遺物分布（Fig. 33～35）

土器各群の占地が大きく変化しないため、差異を見いだすのは困難であった。石鏃は広範囲の分

布を示すのに比べ、打製石斧や削器は東南部に分布する。

三角錐形石器、スタンプ形石器や特殊磨石はX115～X122、Y120～Y130Gと共通した分布がみられ、IV・V群土器の分布と重なりをみせる。縦面や主要剥離面を大きく残す片刃形打製石斧の分布は、X110～X120、Y116～Y128Gに集中するため、V・VI群土器との関連が指摘できる。

4) 石器の概要

石鏃 (Fig. 14～16) 図示した点数は132点である。凹基無茎鏃96点、平基無茎鏃19点、凸基有茎鏃9点、平基有茎鏃6点、円基鏃1点である。大工原氏の分析によれば、平基無茎鏃は早期中葉に帰属するとされる。凹基無茎鏃のうち41～43は鉛形鏃であり押型文土器に伴う可能性が高いとのこと。45～52は棒刺剝離により基部の作出を行なっているもので、早期中葉に位置づけられ、柳久保型と命名された一群である。また、凹基無茎鏃のうち61の大型品は前期後葉に位置づけられた。115・116は局部磨製石鏃は後期中葉の関東型といわれるものである。

石匙 (Fig. 17) 11点図示した。縦形石匙2点、横形石匙5点である。

削器 (Fig. 17～19) 22点図示した。裏面に大きく主要剥離面を残しておらず、横刃形が主を占める。144はナイフ形石器に形状は似るが、1側片は切断されているが、片面に縦面を残すことや調整がみられないことから縄文時代の削器と判断した。黒曜石製。

打製石斧 (Fig. 19～23) 99点出土しているが、50点図示した。頭無遺跡と同じように縦面や主要剥離面を裏面に大きく残し、片刃形の分厚い刃部を形成する特徴を有する。形態的には円刃の176・195・205などと平刃の169・183などがあり、刃部の作出があまりなされないトランシェ様の168・193などが存在する。194・198・203・207は分銅形打製石斧で後期のものである。

三角錐形石器 (Fig. 23) 11点出土しているが、そのうち6点を図化した。すでに『柳久保遺跡群Ⅶ』で3点図化してある。216は基部を欠損、217は頭部を欠損する。218も基部を僅かに欠損している。三角錐形石器には黒色頁岩が好んで使用される。

スタンプ形石器 (Fig. 25) 33点出土しているが、6点図化した。『柳久保遺跡群Ⅶ』すでに15点図化してある。225・226は側面に調整が入るものであり、224は底面の摩耗が著しい。また、227は底面からの衝撃による剥離痕が顕著にみられる。

特殊磨石 (Fig. 25・26) 24点出土しているが、15点図示した。旧利根川から閃緑岩や石英閃緑岩などの楕円形の礫を採取したもので、一側面に磨面が認められるが2側面におよぶものは存在しなかった。また、多くのものが端部に敲面が存在する。

礫器 (Fig. 24) 14点出土したが、そのうち3点を図化した。

石核 (Fig. 25) 2点出土し、2点とも図化した。

4まとめ

今回の作業によって柳久保遺跡群の石器類の図化作業を完了することができた。頭無遺跡と柳久保遺跡について土器群の分布図から台地利用の変遷を辿ることが可能となった。

柳久保遺跡では撲糸文や無文土器など草創期から早期にかけて盛んに台地の利用がみられる。その後の沈線文や条痕文土器の時期には頭無遺跡で盛行をみせる。縄文前期の竹管文土器の時期には柳久保遺跡で再び盛行する。こういったように時期によって台地毎の変遷が違いがみられる。柳久保遺跡群にはこの頭無遺跡、柳久保遺跡のほか下鶴谷遺跡から良好な縄文時代の包含層が検出されている (柳久保遺跡群 1988)。

下鶴谷遺跡では表裏縄文土器や撲糸文や無文土器などの草創期から早期にかけて盛行し、沈線文、条痕文、織維縄文から竹管文まで占地がみられた (Tab. 5・6, Fig. 36～40)。

このように柳久保遺跡群の3遺跡の台地利用を検討する上で、頭無遺跡や柳久保遺跡からは陥り穴がまとめて検出されていることからある生活の場として使用され、一時期は狩猟の場として利用されたと考えられる。

今後、土器群の分布図と石器群の分布図の読図作業を通して、台地利用の変遷を捉えるとともに石器群の時期的な位置付けを行なうことが課題としてあげられる。今後、機会をみてその作業にあたる必要がある。

【参考文献】

- 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1985『柳久保遺跡群Ⅰ』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1985『柳久保遺跡群Ⅱ』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1986『柳久保遺跡群Ⅲ』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1987『柳久保遺跡群Ⅳ』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1988『柳久保遺跡群Ⅴ』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1988『柳久保遺跡群Ⅵ』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1988『柳久保遺跡群Ⅶ』
前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1988『柳久保遺跡群Ⅷ』
大工原 豊 2002『打製石器の系譜』『石斧の系譜』

Tab. 1 頭無遺跡包含層の
縄文土器集計表

分類	点数	割合
I群 表裏縄文	0	0
II群 振糸文	6	0
III群 無文	5	0
IV群 無文織維	0	0
V群 沈縄文	1,144	38
VI群 押型文	149	5
VII群 条痕文	1,244	41
VIII群 織維縄文	208	7
IX群 竹管文	24	1
X群 縄文中期	145	5
XI群 縄文後期	74	2
小計	2,999	100
不明	3,349	
合計	6,348	

Tab. 3 柳久保遺跡包含層の
縄文土器集計表

分類	点数	割合
I群 表裏縄文	0	0
II群 振糸文	415	9
III群 無文	170	4
IV群 無文織維	253	6
V群 沈縄文	307	7
VI群 押型文	19	0
VII群 条痕文	850	19
VIII群 織維縄文	585	13
IX群 竹管文	1,718	37
X群 縄文中期	68	1
XI群 縄文後期	207	5
小計	4,592	100
不明	700	
合計	5,292	

Tab. 5 下鶴谷遺跡包含層の
縄文土器集計表

分類	点数	割合
I群 表裏縄文	24	0
II群 振糸文	303	5
III群 無文	1,161	17
IV群 無文織維	447	7
V群 沈縄文	54	1
VI群 押型文	2	0
VII群 条痕文	346	5
VIII群 織維縄文	766	12
IX群 竹管文	3,130	47
X群 縄文中期	86	1
XI群 縄文後期	321	5
小計	6,640	100
不明	1,189	
合計	7,829	

Tab. 2 頭無遺跡包含層の
石器集計表

分類	点数	割合
有舌尖頭器	0	0
石鏃	127	31
楔形石器	0	0
削器	111	27
打製石斧	79	19
磨製石斧	2	0
砾器	13	3
圓石	4	1
磨石	7	2
礮石	12	3
スタンプ形石器	9	2
鉛錐磨石	24	6
三角錐形石器	5	1
多孔石	0	0
石皿	3	1
石核	15	4
台石	0	0
ストーン・ リタッチャー	0	0
砾石	1	0
小計	412	100
剥片	3,089	
その他	0	
合計	3,501	

Tab. 4 柳久保遺跡包含層の
石器集計表

分類	点数	割合
有舌尖頭器	3	1
石鏃	140	30
楔形石器	2	0
削器	81	18
打製石斧	99	21
磨製石斧	3	1
砾器	14	3
圓石	15	3
磨石	16	3
礮石	13	3
スタンプ形石器	33	7
特殊磨石	24	5
三角錐形石器	11	2
多孔石	0	0
石皿	5	1
石核	2	0
台石	0	0
ストーン・ リタッチャー	0	0
砾石	0	0
小計	461	100
剥片	3,236	
その他	4	
合計	3,701	

Tab. 6 下鶴谷遺跡包含層の
石器集計表

分類	点数	割合
尖頭器	2	0
石鏃	84	9
楔形石器	148	15
削器	254	26
打製石斧	125	13
磨製石斧	6	1
砾器	48	5
圓石	22	2
磨石	102	11
舷石	13	1
スタンプ形石器	27	3
特殊磨石	21	2
三角錐形石器	55	6
多孔石	1	0
石皿	8	1
石核	42	4
台石	1	0
ストーン・ リタッチャー	2	0
砾石	3	0
小計	964	100
剥片	5,240	
その他	0	
合計	6,204	

Tab. 7 頸無遠跡包含層の鈍文石器集計表

石材	A 黒 曜 石	B チャ ート	C 珪質 頁岩	D 赤 色 頁岩	E 黒 色 頁岩	F 頁 岩	G 黒 色 安 山 岩	H 灰 色 安 山 岩	I 変 質 安 山 岩	J 矽 粒 安 山 岩	K ホ ル ン フ エル ス	L シ ケ ル ン ジ ン 岩	M 石 英 縞 岩	N ひ ん 岩	O 滑 結 灰 岩	P 点 紋 綠 色 片 岩	Q 粒 粒 安 山 岩	R 砂 岩	S そ の 他	合 計
器種																				
石板	28	52	7	1	20	2	15												2	127
削盤	4	12	1		87	5			1	1										111
打製石斧				67	1	4		3	2	1						1			79	
磨製石斧					2														2	
研磨					12	1													13	
凹石																		4	4	
磨石															2	1	1	3	7	
鐵石																		12	12	
スタンプ形石器					2				1	1		1	2	1			1	1	9	
特殊磨石												9	2	2		10	1		24	
二角錐形石器					5														5	
石皿																		3	3	
石核		4			9		1											1	15	
剥片	29	624	5	2,189	60	45	26	4	10	19				1	45	11	21	3,089		
砾石																	1	1		
合計	61	692	15	1	2,393	63	67	30	4	15	23	1	12	51	5	11	77	15	22	3,501

註) その他の石材については下記のとおりである。

石盤…珪質頁岩 1・変質灰岩 1。

剥片…瑪瑙 1、点紋頁岩 2・珪質灰岩 2・安山岩 1・変質玄武岩 1

石英 1・雲母石巻片岩 4・珪質頁岩 5

Tab. 8 柳久保遺跡包含層の鈍文石器集計表

石材	A 黒 曜 石	B チャ ート	C 珪質 頁岩	D 赤 色 頁岩	E 黒 色 頁岩	F 頁 岩	G 黒 色 安 山 岩	H 灰 色 安 山 岩	I 変 質 安 山 岩	J 矽 粒 安 山 岩	K ホ ル ン フ エル ス	L シ ケ ル ン ジ ン 岩	M 石 英 縞 岩	N ひ ん 岩	O 滑 結 灰 岩	P 点 紋 綠 色 片 岩	Q 粒 粒 安 山 岩	R 砂 岩	S そ の 他	合 計
器種																				
有舌尖頭器							3												3	
石盤	38	48	5		19	24											1	4	140	
楔形石器		2																	2	
刮削	3	1			70	3			3								1	1	81	
打製石斧		1	1	83	1	6	2	1	2			1				1	1	99		
磨製石斧									1								1	3		
研磨					10	1		2								1		14		
凹石																15		15		
磨石												3	1	12					16	
敲石								1		2				10					13	
スタンプ形石器		1		14				3		3	3	1	4			4	33			
特殊磨石												5	4	13		2		24		
二角錐形石器				9				1									1	11		
石皿															5			5		
石核				2														2		
剥片	152	145	8	10	2,585	86	140	27	4	24	1			1	3	24	8	2	18	3,236
その他					1	3													4	
合計	193	196	15	11	2,796	91	167	33	5	31	7	2	13	9	5	83	10	32	3,701	

註) その他の石材については下記のとおりである。

石盤…流紋岩 2・凝灰岩質砂岩 1・砂質頁岩 1・珪質灰岩 2

削盤…珪質灰岩 1

打製石斧…ガラス質安山岩 1

磨製石斧…変質縞岩 1

スタンプ形石器…文象斑岩 1、右班 1、花崗岩 1、変質ダイサイト 1

特殊磨石…石英斑岩 1、花崗岩 1

三脚錐形石器…玄武岩 1

剥片…砂質頁岩 2・玄武岩 2、流紋岩 1、石英 1、石英斑岩 5、珪質變質岩 4、不明 1

Tab. 9 須無・柳久保遺跡の石器観察表

遺跡	揮因 No.	登録 No.	器種	形態	石材	位置	長 mm	幅 mm	厚 mm	重量 g	備考
須無	1	66	石鏟	平無	安賀町?	X151Y162	34.7	16.7	4.1	2.2	同鉢形器・单刃型
須無	2	47	石鏟	防無	HSh	X161Y140	36.5	12.6	3.2	1.2	片脚欠損・单刃型
須無	3	11	石鏟	平無	Ch	X150Y157	23.9	20.0	4.4	1.8	
須無	4	108	石鏟	平無	Ob	X158Y152	20.1	13.7	2.8	0.6	
須無	5	91	石鏟	平無	Ob	X154Y144	13.9	16.6	2.8	0.5	先端欠損
須無	6	98	石鏟	平無	Ch	X156Y147	15.0	11.2	3.7	0.5	
須無	7	41	石鏟	平無	Ch	X152Y159	21.1	14.6	3.7	0.8	
須無	8	17	石鏟	平無	HSh	X152Y157	20.3	13.3	2.8	0.6	
須無	9	34	石鏟	平無	Ch	X154Y156	18.6	14.7	3.9	0.7	
須無	10	50	石鏟	平無	Ch	X157Y146	17.4	15.2	4.8	0.9	
須無	11	112	石鏟	平無	Ob	X156Y152	8.6	15.4	2.2	0.3	先端欠損
須無	12	21	石鏟	平無	Ob	X159Y165	16.0	14.1	1.9	0.3	
須無	13	69	石鏟	圓無	Ch	X156Y146	12.6	12.2	1.6	0.2	
須無	14	4	石鏟	平無	Ob	X160Y146	13.9	13.5	2.2	0.3	
須無	15	85	石鏟	平無	BSh	X157Y142	22.4	13.2	4.0	1.2	未完成?
須無	16	15	石鏟	平無	BAn	X153Y148	24.5	17.6	4.9	1.5	
須無	17	59	石鏟	平無	Ch	X141Y162	22.1	16.0	3.5	0.9	
須無	18	31	石鏟	圓無	BSh	X149Y152	22.0	16.6	3.0	1.0	
須無	19	28	石鏟	平無	BSh	X156Y141	20.8	17.9	5.4	1.4	
須無	20	23	石鏟	平無	Ch	X161Y144	18.0	15.9	6.8	0.8	
須無	21	42	石鏟	圓無	Ch	X150Y158	18.7	14.8	3.1	0.7	
須無	22	117	石鏟	平無	Ob	X158Y158	8.4	16.0	1.5	0.2	先端欠損
須無	23	38	石鏟	平無	RAn	X152Y169	27.6	16.3	4.4	1.7	
須無	24	65	石鏟	平無	Ch	X154Y158	25.5	15.2	4.3	1.0	
須無	25	64	石鏟	圓無	Ch	表接	25.1	13.1	3.7	1.0	
須無	26	90	石鏟	平無	BAn	X153Y153	18.1	12.8	4.7	1.0	先端欠損
須無	27	16	石鏟	平無	BAn	X155Y170	16.2	14.1	3.6	0.7	
須無	28	80	石鏟	圓無	Ch	X141Y164	16.9	7.7	2.9	1.0	先端欠損
須無	29	39	石鏟	平無	Ob	X160Y134	17.8	15.1	11.7	0.3	
須無	30	67	石鏟	圓無	Ob	X155Y146	19.0	15.2	4.3	0.8	
須無	31	78	石鏟	圓無	Ob	X156Y124	19.2	18.0	3.0	0.9	
須無	32	92	石鏟	圓無	Ch	X156Y142	24.1	17.4	5.3	1.7	
須無	33	87	石鏟	圓無	Ob	X159Y156	17.7	13.9	2.3	0.4	先端欠損
須無	34	60	石鏟	圓無	Ch	X159Y144	13.4	11.5	3.0	0.3	
須無	35	74	石鏟	圓無	Ch	X156Y129	24.4	15.8	4.0	1.0	
須無	36	63	石鏟	圓無	BAn	X153Y168	21.8	12.9	4.2	0.9	
須無	37	58	石鏟	圓無	Ob	X155Y144	19.2	10.4	3.5	0.6	
須無	38	43	石鏟	圓無	Ch	X157Y153	16.2	12.5	2.1	0.3	
須無	39	10	石鏟	圓無	Ch	X156Y142	20.4	15.7	3.1	0.8	片脚欠損
須無	40	93	石鏟	圓無	Ob	X149Y147	15.7	13.9	2.9	0.6	片脚欠損
須無	41	109	石鏟	圓無	Ob	X154Y147	15.2	14.0	3.5	0.7	先端欠損 (衝擊洞)
須無	42	24	石鏟	圓無	Ob	X153Y172	11.5	9.6	2.7	0.2	片脚欠損
須無	43	72	石鏟	圓無	Ch	X158Y162	20.4	13.3	2.7	0.5	破形縫・片脚欠損?
須無	44	53	石鏟	圓無	Ch	X153Y158	21.3	14.5	3.8	0.6	破形縫・片脚欠損
須無	45	13	石鏟	圓無	Ch	X155Y144	18.8	13.8	3.5	0.6	破形縫
須無	46	99	石鏟	圓無	HSh	X160Y141	17.2	12.1	3.5	0.6	先端・両脚欠損
須無	47	88	石鏟	圓無	HSh	X148Y158	22.5	16.5	3.1	0.8	片脚欠損・夷台
須無	48	68	石鏟	圓無	HSh	X160Y141	18.5	15.0	3.9	0.7	破形縫
須無	49	77	石鏟	圓無	BAn	表接	41.5	22.7	4.1	2.5	片脚欠損
須無	50	44	石鏟	圓無	BSh	X159Y143	30.1	15.5	5.0	2.7	先端欠損
須無	51	55	石鏟	圓無	Ch	X159Y151	27.7	17.5	3.6	1.3	
須無	52	49	石鏟	圓無	Ch	X157Y143	25.1	19.2	4.5	1.3	
須無	53	71	石鏟	圓無	Ch	X156Y151	24.8	17.1	4.0	1.3	先端欠損
須無	54	76	石鏟	圓無	Ob	X160Y156	22.6	17.0	3.3	0.8	片脚欠損
須無	55	96	石鏟	圓無	Ob	X156Y138	14.2	16.9	4.2	0.8	先端・片脚欠損
須無	56	40	石鏟	圓無	Ch	X159Y142	22.7	16.8	4.2	1.2	
須無	57	45	石鏟	圓無	Ob	X159Y140	23.0	16.2	2.9	0.8	片脚欠損
須無	58	48	石鏟	圓無	Ch	X151Y157	23.8	15.0	3.8	0.9	
須無	59	33	石鏟	圓無	Ch	X152Y155	24.7	14.7	3.9	1.0	
須無	60	20	石鏟	赤色珪質岩	X149Y132	27.6	14.6	4.1	1.0		
須無	61	14	石鏟	圓無	HSh	X155Y129	26.3	15.3	4.0	0.8	片脚欠損
須無	62	70	石鏟	圓無	BSh	X156Y141	30.0	15.4	3.1	1.0	
須無	63	29	石鏟	圓無	BSh	X150Y155	23.0	15.6	4.6	1.2	
須無	64	97	石鏟	圓無	BSh	X157Y142	19.0	16.2	2.9	0.6	片脚欠損 (新)
須無	65	52	石鏟	圓無	BAn	表接	14.7	18.7	3.3	0.6	先端欠損
須無	66	19	石鏟	圓無	BAn	X147Y165	18.9	15.4	3.2	0.6	先端・両脚欠損
須無	67	85	石鏟	圓無	BSh	X156Y138	21.7	12.5	3.0	0.6	片脚欠損
須無	68	35	石鏟	圓無	HSh	X147Y161	17.6	10.6	3.3	0.3	片脚欠損
須無	69	25	石鏟	圓無	BSh	X142Y165	18.9	13.1	3.5	0.9	先端欠損
須無	70	5	石鏟	圓無	Ch	X160Y148	18.7	13.6	3.4	0.6	先端・片脚欠損
須無	71	104	石鏟	圓無	BSh	X157Y167	18.3	12.8	3.2	0.6	先端・四脚欠損

追跡	釋因 No.	登録 No.	器種	形態	石材	位置	長 mm	幅	厚	重量 g	備考
頭無	72	25	石鏡	圓無	Ch	X158Y136	19.5	11.7	3.2	0.5	
頭無	73	113	石鏡	圓無	Ob	X153Y168	18.7	12.7	2.6	0.4	先端・片脚欠損
頭無	74	27	石鏡	圓無	BSh	X161Y166	17.2	11.9	2.8	0.4	
頭無	75	62	石鏡	圓無	Ch	X157Y146	18.9	14.2	2.7	0.4	鋸齒條
頭無	76	54	石鏡	圓無	Ch	X151Y163	23.7	12.4	5.0	1.4	先端・片脚欠損 (衝撃割離?)
頭無	77	37	石鏡	圓無	Ob	X158Y140	15.1	17.0	3.7	0.6	
頭無	78	100	石鏡	圓無	Ch	X153Y151	14.4	10.8	2.7	0.5	
頭無	79	107	石鏡	圓無	BAn	X158Y152	12.7	10.5	3.4	0.3	片脚欠損
頭無	80	84	石鏡	圓無	Ch	X158Y157	14.8	9.0	2.4	0.3	片脚欠損
頭無	81	18	石鏡	圓無	Ch	X146Y163	11.7	13.3	3.3	0.4	先端彎曲
頭無	82	6	石鏡	圓無	BSh	X150Y152	12.8	11.5	2.9	0.3	先端欠損 (衝擊割離)
頭無	83	32	石鏡	圓無	Ch	X157Y134	13.5	12.0	2.8	0.2	
頭無	84	36	石鏡	平無	Ob	X156Y144	14.5	14.8	2.5	0.3	
頭無	85	57	石鏡	平無	Ch	X157Y157	22.5	13.4	3.0	0.7	
頭無	86	81	石鏡	小圓	Ob	X155Y139	22.5	15.3	2.2	0.6	基部欠損
頭無	87	83	石鏡	圓無	Ob	X153Y141	20.6	13.2	1.7	0.3	底部腐蝕 (葉水亞)・片脚欠損
頭無	88	106	石鏡	圓無	Ob	X148Y156	13.2	11.3	2.3	0.3	片脚欠損
頭無	89	73	石鏡	圓無	Ch	X157Y148	20.5	14.2	3.1	0.6	周縫痕 (関東型)
頭無	90	89	石鏡	平有	BSh	X155Y158	18.0	14.6	4.3	1.1	先端・客部欠損
頭無	91	101	石鏡	平有	BSh	表様	21.2	14.5	4.1	0.8	
頭無	92	22	石鏡	平有	Ch	X159Y133	22.8	17.2	14.3	1.1	基部欠損
頭無	93	1	石鏡	平有	Ch	X146Y158	13.4	14.6	5.0	0.8	光輝・基部欠損
頭無	94	75	石鏡	平有	Ch	X155Y167	20.5	13.8	4.0	0.8	先端欠損・細齒條
頭無	95	6	石鏡	平有	Ch	X152Y140	18.5	14.5	4.3	0.8	
頭無	96	30	石鏡	平有	BSh	X161Y139	35.6	14.0	5.0	1.9	鋸齒條
頭無	97	12	石鏡	平有	BSh	X154Y161	29.3	19.3	5.2	2.4	先端・客部欠損
頭無	98	61	石鏡	凸有	Ch	X153Y168	23.2	14.2	4.6	1.5	客部欠損
頭無	99	3	石鏡	凸有	Ch	X153Y168	22.5	13.2	4.3	0.7	
頭無	100	79	石鏡	凸有	BSh	X155Y161	17.0	13.7	4.9	0.8	先端欠損
頭無	101	56	石鏡	圓基	Ob	X149Y161	20.5	11.1	2.6	0.5	
頭無	102	82	石匙		BAn	X147Y161	2.80	2.40	0.45	1.6	
頭無	103	91	石匙		Ch	X157Y162	3.35	3.90	1.00	9.6	
頭無	104	95	石匙		Ch	X158Y157	2.90	3.70	1.40	12.0	
頭無	105	93	石匙		BSh	X158Y141	3.60	5.30	0.50	9.3	
頭無	106	96	石匙		BSh	X158Y157	3.60	4.15	1.10	13.3	
頭無	107	87	石匙		BSh	X160Y141	8.20	6.35	0.60	24.5	
頭無	108	90	石匙		BSh	X156Y142	6.15	3.20	1.40	26.3	
頭無	109	89	石匙		BSh	X134Y141	7.45	3.30	1.20	26.9	
頭無	110	94	石匙		BSh	X159Y143	3.70	6.35	0.60	23.0	
頭無	111	92	石匙		BSh	X160Y143	5.75	6.45	1.20	46.3	
頭無	112	63	削器		Ch	X158Y142	3.10	2.00	0.70	4.3	
頭無	113	73	削器		BSh	X151Y162	3.10	2.20	0.55	2.9	
頭無	114	78	削器		Ch	X157Y157	3.40	2.15	1.00	9.8	
頭無	115	97	削器		Ob	X151Y163	1.65	1.30	0.45	0.6	
頭無	116	95	削器		Ob	X150Y162	2.60	1.25	0.70	1.7	
頭無	117	11	削器		Ch	X158Y156	3.65	3.90	1.35	14.0	
頭無	118	75	削器		BSh	X160Y138	3.75	4.80	0.75	7.7	
頭無	119	23	削器		BSh	X159Y120	12.40	7.40	3.80	396.0	
頭無	120	60	削器		BSh	X134Y141	6.95	3.85	1.45	40.9	
頭無	121	53	削器		BSh	X146Y162	6.20	5.50	1.15	43.9	
頭無	122	88	削器		BSh	X145Y163	5.60	3.15	1.35	21.8	
頭無	123	69	削器		BSh	X156Y142	7.05	3.05	0.75	12.8	
頭無	124	7	削器		BSh	X146Y163	9.00	5.25	1.45	48.0	
頭無	125	5	削器		BSh	X152Y159	10.60	4.00	1.30	57.1	
頭無	126	32	削器		BSh	X159Y143	11.90	4.20	1.65	71.1	
頭無	127	85	削器		BSh	X147Y165	9.00	4.00	1.30	36.2	
頭無	128	34	削器		BAn	X149Y162	10.00	2.60	1.50	38.2	
頭無	129	66	刮器		BSh	X157Y144	8.25	3.35	1.70	39.8	
頭無	130	19	削器		BSh	X159Y143	7.65	4.75	1.75	90.3	
頭無	131	13	削器		BSh	X145Y164	8.00	4.90	1.30	55.5	
頭無	132	10	削器		BSh	X160Y143	17.50	6.20	3.40	343.0	
頭無	133	14	削器		BSh	X158Y166	5.10	7.70	2.00	55.0	
頭無	134	3	削器		BSh	X156Y158	3.80	5.50	1.20	24.5	
頭無	135	35	削器		BSh	X159Y151	4.20	7.70	0.85	32.3	
頭無	136	21	削器		BSh	X158Y139	5.20	11.10	2.00	124.7	
頭無	137	16	削器		BSh	X151Y164	5.00	7.75	1.70	43.9	
頭無	138	27	刮器		BSh	X147Y163	4.65	8.50	1.50	54.1	
頭無	139	20	削器		BSh	X158Y139	6.00	11.15	2.20	171.6	ルーラッカマー
頭無	140	56	削器		BSh	X151Y164	4.90	8.40	1.40	67.2	
頭無	141	41	削器		BSh	X157Y136	5.50	9.90	1.75	85.4	
頭無	142	72	削器		BSh	X158Y139	5.00	8.50	1.35	64.4	
頭無	143	59	削器		BSh	X150Y163	6.65	11.90	2.85	238.7	
頭無	144	29	削器		BSh	X157Y149	7.40	14.10	2.60	333.0	

通路	碑固 No.	登録 No.	器種	形態	石材	位置	長 mm	幅	厚	重量 kg	備考
頭無	145	11	打製石斧	BSh	X158Y152	9.25	5.25	1.40	100.2		
頭無	146	14	打製石斧	BSh	X148Y165	8.50	6.10	2.70	140.1		
頭無	147	9	打製石斧	BSh	X158Y162	8.25	5.80	2.45	106.2		
頭無	148	26	打製石斧	BSh	X151Y165	9.60	6.15	2.35	130.4		
頭無	149	32	打製石斧	BSh	X160Y139	7.60	5.10	1.60	69.0		
頭無	150	30	打製石斧	BSh	X141Y164	7.00	5.10	2.70	91.4		
頭無	151	①	打製石斧	BSh	X154Y126	9.95	6.20	2.20	166.1	刀跡に使用痕	
頭無	152	12	打製石斧	RSh	X158Y169	12.10	8.30	2.90	316.0		
頭無	153	47	打製石斧	BSh	X134Y144	7.00	4.00	2.10	59.3		
頭無	154	37	打製石斧	BSh	X160Y141	7.60	3.80	1.80	65.6		
頭無	155	52	打製石斧	BSh	X154Y144	7.00	4.30	1.30	52.1		
頭無	156	68	打製石斧	BSh	X157Y151	6.25	4.65	1.35	48.2		
頭無	157	69	打製石斧	BSh	X160Y141	3.25	4.80	1.80	33.2		
頭無	158	65	打製石斧	BSh	X156Y155	5.50	4.65	3.20	86.5		
頭無	159	54	打製石斧	BSh	X158Y145	7.55	4.45	2.15	73.6		
頭無	160	62	打製石斧	BSh	X158Y149	7.00	4.60	1.40	49.2		
頭無	161	10	打製石斧	BSh	X156Y144	8.30	5.10	1.90	94.4		
頭無	162	71	打製石斧	BSh	X159Y138	6.60	4.50	1.70	57.5		
頭無	163	16	打製石斧	BSh	X156Y143	9.45	5.10	2.70	133.6		
頭無	164	41	打製石斧	BSh	X151Y157	9.20	5.50	1.80	111.3		
頭無	165	36	打製石斧	BSh	X150Y157	7.20	5.00	1.40	60.2		
頭無	166	58	打製石斧	BSh	X150Y139	8.10	5.45	1.40	70.7		
頭無	167	64	打製石斧	SeAn	X149Y162	6.40	5.90	0.90	41.1		
頭無	168	18	打製石斧	BSh	X159Y170	9.60	5.90	4.10	218.9		
頭無	169	24	打製石斧	SeAn	X147Y166	13.30	6.80	3.70	334.0		
頭無	170	20	打製石斧	BAn	X157Y146	7.70	6.90	1.70	130.2		
頭無	171	40	打製石斧	BSh	X157Y144	8.30	5.40	1.60	84.6		
頭無	172	38	打製石斧	BSh	X158Y140	7.70	5.90	2.35	107.2		
頭無	173	34	打製石斧	BSh	X157Y143	8.85	6.00	1.40	97.9		
頭無	174	29	打製石斧	Ho	X159Y149	8.30	5.50	2.00	130.6		
頭無	175	39	打製石斧	BSh	X158Y142	9.50	4.75	2.00	111.0		
頭無	176	27	打製石斧	BSh	X157Y142	8.00	4.90	3.20	106.2		
頭無	177	31	打製石斧	BSh	X153Y159	6.90	6.45	1.85	120.7		
頭無	178	35	打製石斧	BSh	X154Y137	10.40	4.00	1.00	65.0		
頭無	179	43	打製石斧	RSh	X150Y156	7.90	6.00	1.30	105.4		
頭無	180	45	打製石斧	BSh	X158Y152	10.60	4.15	1.50	84.4		
頭無	181	25	打製石斧	BSh	X148Y154	9.95	7.15	2.80	212.0		
頭無	182	15	打製石斧	BSh	X158Y172	12.90	9.10	3.10	436.0		
頭無	183	22	打製石斧	BSh	X158Y157	15.30	7.15	3.20	312.0		
頭無	184	28	打製石斧	BSh	X155Y144	9.05	5.00	2.05	81.9		
頭無	185	5	打製石斧	BSh	X152Y155	11.90	6.50	2.70	256.5		
頭無	186	6	打製石斧	BSh	X160Y145	13.20	6.50	2.20	184.7		
頭無	187	33	打製石斧	BSh	X159Y149	10.30	6.70	2.90	219.8	分側形	
頭無	188	13	打製石斧	Di	X154Y138	11.70	8.50	2.35	320.0	分側形	
頭無	189	7	打製石斧	綠色片岩	X158Y148	13.90	8.05	2.60	430.0		
頭無	190	3	三角形石斧	BSh	X153Y155	3.75	4.10	2.40	40.2		
頭無	191	2	三角形石斧	BSh	X156Y159	7.90	5.70	4.80	217.0		
頭無	192	1	「名古屋」石斧	BSh	X148Y153	11.80	5.90	4.00	343.0		
頭無	193	1	「スラン」石斧	WeTf	X159Y158	7.90	7.25	3.30	287.0		
頭無	194	2	「スラン」石斧	BSh	X158Y148	8.10	8.70	3.90	348.0		
頭無	195	5	「スラン」石斧	Qidi	X140Y165	7.45	7.70	5.75	665.0		
頭無	196	3	「スラン」石斧	Ss	X144Y160	10.00	7.40	4.05	456.0		
頭無	197	6	「スラン」石斧	BSh	X155Y158	8.20	7.10	3.90	257.0		
頭無	198	4	「スラン」石斧	Po	X153Y142	6.90	6.95	3.30	254.0		
頭無	199	4	特殊磨石	SoAn	X153Y156	19.00	6.85	7.50	1445.0		
頭無	200	16	特殊磨石	WeTf	X153Y157	11.70	6.40	5.70	632.0		
頭無	201	15	特殊磨石	SoAn	X152Y158	12.50	6.00	6.00	777.0		
頭無	202	13	特殊磨石	SoAn	X154Y141	13.40	8.70	6.55	1620.0		
頭無	203	3	特殊磨石	SoAn	X160Y143	15.00	6.80	4.50	777.0		
頭無	204	8	特殊磨石	Qidi	X146Y164	14.60	6.50	5.10	681.0		
頭無	205	5	特殊磨石	SoAn	X150Y163	14.85	6.50	5.70	831.0		
頭無	206	10	特殊磨石	Qidi	X154Y156	14.40	7.10	5.10	834.0		
頭無	207	2	特殊磨石	Po	X151Y162	14.90	7.20	5.50	87.6		
頭無	208	1	特殊磨石	Qidi	X151Y158	15.00	7.20	5.50	833.0		
頭無	209	12	特殊磨石	Qidi	X151Y158	14.10	7.60	5.20	841.0		
頭無	210	9	特殊磨石	Qidi	X154Y156	13.55	7.35	6.40	955.0		
頭無	211	14	特殊磨石	Qidi	X158Y145	14.80	8.10	5.10	892.0		
頭無	212	6	特殊磨石	SoAn	X152Y159	15.55	6.90	5.60	918.0		
頭無	213	11	特殊磨石	Po	X160Y128	12.70	7.60	5.50	784.0		
頭無	214	18	特殊磨石	SoAn	X153Y157	11.40	6.80	6.15	695.0		
頭無	215	19	磨石	Ss	X160Y144	13.65	6.55	4.65	520.0		
頭無	216	2	磨石	SoAn	X158Y152	16.20	8.00	3.90	772.0		
頭無	217	3	磨石	Qidi	X149Y165	15.30	10.55	4.20	1010.0		
頭無	218	3	石皿	SoAn	X150Y161	15.80	15.20	5.80	1510.0		

測定	採取 No.	登録 No.	岩種	形態	石材	位置	長 mm	幅	厚	重量 g	備考	
柳久保	1	8	石鐵	平無	BSh	表様	23.8	24.2	4.3	1.9	先端欠損	
柳久保	2	2	石鐵	平無	Ob	X104Y144	21.0	16.0	2.3	0.6		
柳久保	3	6	石鐵	平無	Ch	表様	19.2	18.6	3.5	1.0		
柳久保	4	23	石鐵	平無	Ob	表様	20.4	11.9	2.7	0.5		
柳久保	5	25	石鐵	平無	Ch	X116Y131	22.1	14.4	4.1	1.2		
柳久保	6	31	石鐵	平無	Ch	表様	20.5	12.3	6.3	1.2	先端欠損	
柳久保	7	7	石鐵	凹無	Ob	X099Y115	9.8	9.6	1.4	0.1		
柳久保	8	28	石鐵	平無	Ob	X117Y129	19.7	18.6	4.4	1.1		
柳久保	9	29	石鐵	平無	Ob	X116Y123	19.6	15.6	3.8	0.8		
柳久保	10	114	石鐵	平無	Ch	表様	17.5	12.2	3.8	0.6		
柳久保	11	24	石鐵	凹無	Ob	X120Y141	22.2	15.2	3.3	0.9	側面曲線、先端欠損	
柳久保	12	1	石鐵	凹無	BAn	X104Y119	23.9	16.3	4.4	1.4		
柳久保	13	3	石鐵	凹無	Ch	X101Y110	18.8	14.5	3.4	0.7		
柳久保	14	4	石鐵	凹無	Ch	X102Y090	22.1	16.0	4.3	1.1		
柳久保	15	9	石鐵	平無	Ob	X111Y116	19.7	18.0	4.8	1.8	先端欠損	
柳久保	16	10	石鐵	凹無	Ch	X119Y143	26.2	16.5	5.3	1.6		
柳久保	17	11	石鐵	凹無	Ch	表様	19.3	15.8	2.8	0.8		
柳久保	18	12	石鐵	平無	Ch	X101Y119	23.6	12.3	3.2	0.9		
柳久保	19	13	石鐵	平無	Ch	X118Y138	22.2	15.4	4.3	1.0		
柳久保	20	15	石鐵	凹無	BAn	X120Y137	17.1	16.4	3.8	0.8		
柳久保	21	16	石鐵	平無	BAn	X100Y115	19.8	14.9	4.0	0.8		
柳久保	22	26	石鐵	凹無	Ch	X114Y117	19.0	15.7	5.9	1.0		
柳久保	23	17	石鐵	平無	LSh	X110Y124	32.7	16.0	4.5	1.9		
柳久保	24	18	石鐵	凹無	HSh	表様	18.4	13.4	3.7	0.7	先端欠損	
柳久保	25	19	石鐵	凹無	BAn	X096Y108	25.9	15.6	4.8	1.4		
柳久保	26	20	石鐵	凹無	BAn	X121Y137	25.4	16.6	3.8	1.4	先端欠損	
柳久保	27	21	石鐵	凹無	Ch	X096Y134	22.8	12.6	3.1	0.8	基部欠損	
柳久保	28	22	石鐵	平無	Ch	X112Y131	20.0	16.7	4.3	1.4	先端、基部欠損	
柳久保	29	26	石鐵	凹無	Ch	X118Y135	22.0	13.6	3.7	0.8		
柳久保	30	27	石鐵	平無	Ch	X115Y112	23.0	20.1	5.5	1.6	先端欠損	
柳久保	31	32	石鐵	凹無	BAn	X096Y104	27.1	14.1	4.3	1.2		
柳久保	32	34	石鐵	平無	BAn	X116Y121	21.6	14.7	5.1	1.4	基部欠損	
柳久保	33	33	石鐵	凹無	HSh	X099Y109	17.4	12.3	4.0	0.6		
柳久保	34	5	石鐵	凹無	Ch	X122Y141	10.2	13.3	3.0	0.4	先端・片脚欠損	
柳久保	35	14	石鐵	平無	Ob	X105Y087	16.4	14.0	3.1	0.8		
柳久保	36	30	石鐵	平無	Ob	X118Y139	11.5	11.0	2.0	0.3	先端・基部欠損	
柳久保	37	42	石鐵	凹無	Ob	X119Y139	11.9	14.5	3.3	0.5		
柳久保	38	35	石鐵	凹無	Ob	X120Y139	10.0	14.1	3.8	0.4	先端・片脚欠損・歎形縫?	
柳久保	39	47	石鐵	凹無	Ob	X119Y138	15.3	13.8	4.1	0.6	片脚欠損・歎形縫?	
柳久保	40	48	石鐵	凹無	Ob	X118Y137a	10.3	12.3	2.1	0.2	先端・片脚欠損・歎形縫?	
柳久保	41	49	石鐵	凹無	Ch	X112Y147	19.0	17.4	4.3	0.8	片脚欠損・歎形縫?	
柳久保	42	51	石鐵	凹無	Ch	X102Y115	22.5	18.0	4.6	1.1	歎形縫?	
柳久保	43	58	石鐵	凹無	Ob	X100Y100	17.0	16.5	1.8	0.3		
柳久保	44	37	石鐵	凹無	Ob	X094Y096	19.5	14.8	3.4	0.6	片脚欠損・歎形縫?	
柳久保	45	49	石鐵	凹無	BSh	X107Y146	18.7	15.5	3.5	0.7	歎形縫・歎形縫?	
柳久保	46	63	石鐵	凹無	Ob	X107Y107	13.1	16.4	4.5	0.8	先端・片脚欠損・基部縫状剥離	
柳久保	47	65	石鐵	凹無	Ob	X107Y109	11.5	12.3	3.0	0.3	先端・片脚欠損・基部縫状剥離	
柳久保	48	70	石鐵	凹無	Ob	X123Y134	20.2	19.4	3.4	0.8	歎形・基部縫状剥離	
柳久保	49	93	石鐵	凹無	不明	X118Y137	19.5	16.0	4.5	0.4	先端・片脚欠損・表面ガラリ・強い被削(熱・涼化)・基部縫状剥離	
柳久保	50	99	石鐵	凹無	Ob	X099Y97b	16.4	14.1	3.5	0.6	基部縫状剥離	
柳久保	51	132	石鐵	凹無	Ob	X114Y144	18.1	13.3	4.2	0.9	片脚欠損・歎形・基部縫状剥離	
柳久保	52	115	石鐵	凹無	Ob	X104Y112	17.1	11.5	4.0	0.4	片脚欠損・基部縫状剥離	
柳久保	53	38	石鐵	凹無	無質	X091Y107	39.2	23.7	4.8	2.8	人形・先端・片脚欠損	
柳久保	54	39	石鐵	凹無	BAn	X104Y144b	32.0	19.5	4.0	1.5	片脚欠損	
柳久保	55	54	石鐵	凹無	Tf	X094Y096	35.7	22.9	3.7	1.8	大形・縮縫?	
柳久保	56	43	石鐵	凹無	Ch	H-9	27.2	18.9	3.2	1.5	先端欠損	
柳久保	57	44	石鐵	凹無	無質	X120Y120	31.3	16.6	6.4	1.8	片脚欠損	
柳久保	58	50	石鐵	凹無	BAn	X102Y127	21.4	17.8	3.6	1.4	先端欠損	
柳久保	59	102	石鐵	凹無	BAn	X095Y106	39.2	21.3	3.8	2.6	大形	
柳久保	60	100	石鐵	凹無	BAn	X119Y129	31.3	19.4	4.0	1.6	被削	
柳久保	61	57	石鐵	凹無	Ob	X092Y086	30.2	23.8	3.5	2.0		
柳久保	62	46	石鐵	凹無	表様	表様	23.9	13.3	3.5	0.9	先端・片脚欠損(衝撃剝離)	
柳久保	63	64	石鐵	凹無	BAn	X108Y118	35.0	23.1	3.6	2.1		
柳久保	64	98	石鐵	凹無	Ob	X099Y086	24.9	16.7	3.0	1.1	先端欠損(衝撃剝離)	
柳久保	65	80	石鐵	凹無	Ob	X099Y085	30.1	21.5	3.8	1.5		
柳久保	66	96	石鐵	凹無	BAn	X098Y096	28.0	19.5	3.8	1.5	先端欠損	
柳久保	67	73	石鐵	凹無	Ch	W-11・12	28.6	17.1	3.7	1.4	衝擊剝離	
柳久保	68	77	石鐵	凹無	Ch	X116Y119	24.5	15.3	4.6	1.1		
柳久保	69	82	石鐵	凹無	Ch	X112Y131	23.5	14.7	4.9	1.1		
柳久保	70	66	石鐵	凹無	Ch	X113Y139	26.5	16.3	4.2	1.4	片脚欠損	
柳久保	71	61	石鐵	凹無	Ob	X102Y102	25.0	18.1	4.4	1.4		
柳久保	72	72	95	石鐵	凹無	Ch	H-8	26.8	19.9	4.4	1.6	
柳久保	73	83	石鐵	凹無	Ch	X115Y117	22.7	17.3	4.6	1.0		

遺跡	掃國 N.	登録 No.	器種	形態	石材	位置	長 mm	幅	厚	重量 g	備考	
柳久保	74	85	石鏟	凹無	Bsh	X107Y105	23.6	16.0	4.4	1.0		
柳久保	75	68	石鏟	凹無	Ch	X114Y144	27.8	17.4	5.2	1.8		
柳久保	76	78	石鏟	凹無	Ch	H-78	22.5	14.9	4.3	1.0		
柳久保	77	36	石鏟	凹無	Bsh	X102Y143	24.4	15.6	4.3	1.5	先端欠損	
柳久保	78	87	石鏟	凹無	Ob	X116Y117b	27.4	14.9	4.5	1.4		
柳久保	79	88	石鏟	凹無	Bsh	X120Y144a	18.0	15.6	3.9	1.0	先端・片脚欠損	
柳久保	80	89	石鏟	凹無	Bsh	X119Y135a	27.6	15.2	5.4	1.6	先端欠損(衝撃剝離)	
柳久保	81	106	石鏟	凹無	Bsh	X119Y129a	17.9	16.2	3.2	0.9	先端・両脚欠損	
柳久保	82	125	石鏟	凹無	Bsh	表様	22.3	11.9	5.5	1.2	先端・両脚欠損	
柳久保	83	140	石鏟	凹無	Ch	X114Y117	18.7	14.8	5.0	1.1	端部欠損	
柳久保	84	41	石鏟	凹無	Ch	X105Y109	25.2	15.1	3.5	0.8	両脚欠損	
柳久保	85	53	石鏟	凹無	Bsh	X101Y101	14.0	10.5	3.3	0.8		
柳久保	86	59	石鏟	凹無	Ob	X117Y135	21.3	14.6	5.0	0.8		
柳久保	87	75	石鏟	凹無	Ch	X118Y137	23.9	17.2	3.1	1.1		
柳久保	88	97	石鏟	凹無	Ch	X098Y124	21.0	17.6	4.7	1.2		
柳久保	89	79	石鏟	凹無	Ch	表様	19.8	16.7	4.4	1.4	先端欠損	
柳久保	90	101	石鏟	凹無	Bsh	X099Y122	21.8	14.2	4.5	1.1		
柳久保	91	81	石鏟	凹無	Ob	表様	16.7	16.1	2.5	0.6		
柳久保	92	136	石鏟	凹無	Ob	X104Y124	18.3	12.9	3.3	0.6	両脚欠損	
柳久保	93	74	石鏟	凹無	Ob	表様	16.2	12.1	2.7	0.4	先端・片脚欠損(衝撃剝離)	
柳久保	94	84	石鏟	凹無	Ob	X118Y117	17.3	12.5	3.1	0.4		
柳久保	95	69	石鏟	凹無	Ch	X122Y141	18.6	14.2	3.7	0.8		
柳久保	96	104	石鏟	凹無	Bsh	X104Y084	19.9	14.5	3.3	0.7	片脚欠損	
柳久保	97	127	石鏟	凹無	Bsh	X097Y094	17.0	11.8	3.4	0.5	両脚欠損	
柳久保	98	94	石鏟	凹無	Ch	X104Y084	14.0	11.6	3.5	0.4		
柳久保	99	128	石鏟	凹無	Ch	表様	22.0	12.2	3.7	1.0	両脚欠損	
柳久保	100	90	石鏟	凹無	Bsh	X123Y140	17.8	12.5	4.1	0.7	片脚欠損	
柳久保	101	91	石鏟	凹無	Bsh?	X121Y141	19.3	14.8	2.4	0.5		
柳久保	102	92	石鏟	凹無	Ch	X114Y114	18.2	14.9	4.3	0.8		
柳久保	103	55	石鏟	凹無	Bsh?	X109Y126	17.1	12.4	2.5	0.5		
柳久保	104	62	石鏟	凹無	Ob	X108Y111	18.5	11.3	2.9	0.5	両脚欠損	
柳久保	105	52	石鏟	凹無	Bsh	X104Y145	17.6	10.7	3.2	0.4	表面黒化	
柳久保	106	86	石鏟	凹無	Bsh	H-44	18.0	12.0	3.1	0.7		
柳久保	107	60	石鏟	凹無	Bsh	X110Y124	17.7	11.2	3.7	0.6	先端欠損(衝撃剝離)	
柳久保	108	105	石鏟	凹無	Ch	X118Y140	17.8	12.2	2.6	0.4	先端欠損・熱焼?	(表面黒化)
柳久保	109	117	石鏟	凹無	Ob	X120Y120	16.5	11.4	3.5	0.4	片脚欠損	
柳久保	110	103	石鏟	凹無	Ob	X109Y096	13.6	10.4	2.4	0.2	先端欠損	
柳久保	111	72	石鏟	凹無	Ch	X160Y119	12.4	11.4	2.5	0.3		
柳久保	112	71	石鏟	凹無	Ob	X123Y132	10.1	12.9	3.5	0.6	先端・片脚欠損	
柳久保	113	113	石鏟	凹無	Ch	X094Y099	28.3	13.6	4.2	1.3		
柳久保	114	56	石鏟	凹無	Bsh	X111Y100	25.5	15.0	2.3	1.1		
柳久保	115	67	石鏟	凹無	Ob	表様	16.4	12.7	2.9	0.4	端部磨削(南東型)・凹面研磨・片脚・先端欠損(衝撃剝離) Fig.79-7	
柳久保	116	116	石鏟	凹無	Ob	X107Y103	15.4	11.7	2.7	0.4	端部磨削(南東型)・凹面研磨・片脚・先端欠損	
柳久保	117	121	石鏟	凸有	Bsh	X096Y082	27.4	19.7	5.0	2.2	茎部欠損	
柳久保	118	108	石鏟	凸有	Ch	X107Y083	28.3	17.7	5.3	1.8	被焼?	(表面黒化)
柳久保	119	110	石鏟	凸有	Bsh	X103Y083	23.7	16.0	3.9	1.2	茎部欠損・先端ガザリ	
柳久保	120	111	石鏟	凸有	Bsh	X107Y109	22.0	13.0	3.5	0.8		
柳久保	121	129	石鏟	凸有	Bsh	X117Y134	32.1	17.1	4.2	1.7	先端欠損	
柳久保	122	107	石鏟	凸有	Bsh	X092Y104	26.5	13.6	3.8	1.1	先端・茎部欠損(衝撃剝離)	
柳久保	123	109	石鏟	凸有	Bsh	X115Y146	43.7	15.9	4.0	2.2	大形・茎部欠損・付着物あり	
柳久保	124	112	石鏟	凸有	Ch	X106Y95	27.8	11.8	4.3	1.2	先端・茎部・側縁部欠損	
柳久保	125	123	石鏟	凸有	Bsh	X097Y100	37.5	14.7	5.0	2.2		
柳久保	126	122	石鏟	凸有	Bsh	X098Y106	27.7	13.6	4.6	1.3	2つに欠損(前)	
柳久保	127	124	石鏟	凸有	Ob	X113Y125	23.9	13.5	5.4	1.2	茎部欠損	
柳久保	128	120	石鏟	凸有	Ch	表様	29.7	17.2	6.3	2.0		
柳久保	129	35	石鏟	凸有	Ob	X108Y122	17.5	13.3	1.6	0.4		
柳久保	130	131	石鏟	凸有	Bsh?	X107Y109	15.6	8.0	2.5	0.3	被焼	
柳久保	131	118	石鏟	凸有	Bsh	表様合層	17.5	12.1	3.0	0.7	先端欠損・主部欠損	
柳久保	132	119	石鏟	凸有	Bsh	X111Y131a	18.0	12.8	3.1	0.6	先端・茎部欠損(衝撃剝離)	
柳久保	133	32	石匙		Bsh	H-44	3.20	3.60	1.00	8.0		
柳久保	134	271	石匙		Bsh	X118Y123	6.30	3.50	0.85	16.1		
柳久保	135	38	石匙		Bsh	x109Y135	4.70	5.15	1.06	15.0		
柳久保	136	270	石匙		Bsh	X109Y147	2.40	4.90	0.75	6.0	短形石匙	
柳久保	137	318	石匙		Ob	H-22	2.90	4.00	0.90	7.9		
柳久保	138	39	石匙		Ch	X106Y116a	3.15	1.30	0.45	1.3		
柳久保	139	296	石匙		Bsh	X133Y116	5.80	6.10	1.60	47.0		
柳久保	140	34	削器		Ob	X119Y138	1.60	1.55	0.75	1.3		
柳久保	141	35	削器		Bsh	H-14	2.90	2.55	0.70	2.4		
柳久保	142	36	削器		Bsh	X120Y134	2.10	2.20	0.40	1.9		
柳久保	143	a	削器		表様Tf	X107Y121	2.90	2.40	0.90	6.3		

遺跡	種類 No.	登録 No.	器種	形態	石材	位置	長 mm	幅	厚	重量 g	備考
柳久保	144	33	台形石器	Ob	X09SY90	3.70	1.70	0.95	4.4	田石器	
柳久保	145	46	刮削器	BSh	X120Y141	5.25	9.00	1.25	66.1		
柳久保	146	37	刮削器	BSh	X122Y140	4.65	7.15	1.00	35.0		
柳久保	147	129	刮削器	BSh	X102Y112	6.30	10.30	2.10	125.0		
柳久保	148	48	刮削器	BSh	X104Y118	8.20	8.60	2.50	130.3		
柳久保	149	49	刮削器	BSh	X073Y066	6.60	10.25	2.55	144.0		
柳久保	150	946	刮削器	BSh	H-55	7.80	9.80	2.20	146.0		
柳久保	151	297	刮削器	Ch	X104Y108	2.90	6.00	1.30	14.6		
柳久保	152	30	刮削器	BSh	X133Y117	7.40	7.40	1.80	100.0		
柳久保	153	197	刮削器	BSh	X109Y138	7.10	9.20	2.80	195.0		
柳久保	154	47	刮削器	BSh	X117Y137	6.50	14.40	1.80	120.0		
柳久保	155	b	刮削器	BSh	X106Y109	6.15	6.85	1.50	56.0		
柳久保	156	306	刮削器	BSh	X111Y119	5.10	11.70	2.85	137.0		
柳久保	157	273	刮削器	BSh	X112Y121	8.15	4.20	2.60	58.3		
柳久保	158	141	刮削器	BSh	X107Y145	8.65	14.80	2.70	340.0		
柳久保	159	196	刮削器	BSh	X107Y121	4.50	8.40	1.00	24.0		
柳久保	160	204	刮削器	BSh	X121Y131	11.40	8.40	2.30	211.0		
柳久保	161	50	刮削器	BSh	X108Y147	17.10	7.40	2.20	217.0		
柳久保	162	191	刮削器	BSh	X099Y135	11.20	8.65	2.50	200.0		
柳久保	163	272	刮削器	BSh	X113Y122	10.80	8.40	2.20	210.0		
柳久保	164	206	刮削器	BSh	X122Y136	14.60	8.10	3.15	410.0		
柳久保	165	302	刮削器	BSh	X115Y120	14.00	6.10	3.40	254.0		
柳久保	166	296	打製石斧	BSh	X122Y141	8.40	3.70	2.30	75.4		
柳久保	167	134	打製石斧	BSh	X104Y121	6.20	5.40	1.60	58.5		
柳久保	168	23	打製石斧	BSh	X114Y123	7.20	4.50	1.55	51.2		
柳久保	169	132	打製石斧	BSh	X103Y144	6.45	4.20	2.30	56.6		
柳久保	170	145	打製石斧	BSh	X110Y145	6.40	5.15	1.50	53.7		
柳久保	171	16	打製石斧	GaAn	X115Y120	7.35	4.40	2.60	75.8		
柳久保	172	10	打製石斧	BSh	X118Y123	7.20	4.45	1.40	42.7		
柳久保	173	137	打製石斧	BSh	X105Y144	6.40	5.65	2.00	92.3		
柳久保	174	26	打製石斧	SaAn	X116Y122	9.50	5.30	1.80	91.5		
柳久保	175	8	打製石斧	BSh	X117Y126	9.20	6.65	2.80	156.2		
柳久保	176	12	打製石斧	BSh	X111Y123	9.65	6.05	3.00	153.5		
柳久保	177	165	打製石斧	BSh	X119Y121	7.60	4.50	2.00	55.9		
柳久保	178	146	打製石斧	BSh	X110Y147	5.75	6.70	1.05	45.0		
柳久保	179	175	打製石斧	BSh	X120Y142	5.70	5.00	1.70	61.6		
柳久保	180	5	打製石斧	BSh	X116Y141	7.60	4.60	2.50	85.8		
柳久保	181	155	打製石斧	BSh	X114Y120	7.80	6.40	2.40	97.5		
柳久保	182	22	打製石斧	BSh	X121Y142	8.10	5.50	2.60	98.6		
柳久保	183	18	打製石斧	BSh	H-43	8.60	4.85	2.40	96.5		
柳久保	184	149	打製石斧	BSh	X122Y123	8.15	5.90	1.10	51.5		
柳久保	185	158	打製石斧	BSh	X114Y151	9.20	5.50	1.70	87.9		
柳久保	186	193	打製石斧	BSh	X105Y144	10.35	5.85	2.20	122.4		
柳久保	187	174	打製石斧	HaAn	X119Y143	8.70	5.80	2.50	135.4		
柳久保	188	142	打製石斧	SaAn	X110Y92	11.40	5.05	2.05	131.8		
柳久保	189	144	打製石斧	BSh	X110Y128	10.30	5.70	1.50	134.5		
柳久保	190	294	打製石斧	TsSh	X122Y141	10.20	4.90	2.10	103.9		
柳久保	191	27	打製石斧	BSh	X116Y123	8.35	6.80	3.15	164.8		
柳久保	192	28	打製石斧	BSh	X118Y124	7.70	4.70	1.80	63.7		
柳久保	193	20	打製石斧	Da	X110Y147	9.90	5.90	2.40	161.3		
柳久保	194	169	打製石斧	BSh	X122Y140	10.40	5.30	3.00	137.0		
柳久保	195	14	打製石斧	BSh	X111Y116	10.45	5.30	2.00	131.0		
柳久保	196	305-16	打製石斧	BSh	X115Y119	11.30	4.75	2.90	175.5		
柳久保	197	7	打製石斧	BSh	X112Y117	10.60	6.00	2.30	144.5		
柳久保	198	1	打製石斧	BSh	X096Y087	12.90	6.30	2.40	241.4		
柳久保	199	9	打製石斧	BSh	X109Y119	9.45	5.85	2.40	118.2		
柳久保	200	3	打製石斧	Ho	X113Y117	11.10	5.95	2.00	131.7		
柳久保	201	15	打製石斧	BSh	X122Y141	9.45	5.90	3.70	267.6		
柳久保	202	19	打製石斧	BSh	X113Y116	9.10	7.00	3.70	236.1		
柳久保	203	2	打製石斧	BSh	X114Y115	18.00	9.55	5.25	813.0		
柳久保	204	143	打製石斧	BSh	X110Y126	9.70	4.35	1.60	69.6		
柳久保	205	13	打製石斧	BSh	X112Y122	10.30	6.60	3.10	220.3		
柳久保	206	11	打製石斧	BSh	X115Y127	13.00	5.85	2.50	249.6		
柳久保	207	4	打製石斧	BSh	X113Y111	12.10	7.30	3.00	249.9		
柳久保	208	6	打製石斧	BSh	茎深	11.05	6.70	3.35	272.0		
柳久保	209	21	打製石斧	BSh	X108Y082	11.70	6.50	4.30	355.0		
柳久保	210	24	打製石斧	BSh	X100Y084	12.10	6.80	2.70	270.9		
柳久保	211	17	打製石斧	BSh	X111Y118	13.80	7.70	2.10	282.0		
柳久保	212	135	打製石斧	BSh	X104Y145	14.00	8.40	1.90	173.1		
柳久保	213	159	打製石斧	BSh	X115Y112	15.25	7.70	2.40	307.0		
柳久保	214	208	打製石斧	BSh	D-38	17.35	8.20	3.00	450.0		
柳久保	215	25	打製石斧	BSh	X114Y115	16.30	10.05	4.60	879.0		
柳久保	216	42	△角端石斧	BSh	X103Y102	7.50	5.60	7.40	264.1		

遺跡	博団 No.	登録 No.	器種	形態	石材	位置	長 mm	幅	厚	重量 kg	備考
柳久保	217	43	三角彎形石器	BSh	X120Y122	9.70	7.65	6.50	622.0		
柳久保	218	41	三角彎形石器	HeBa	X117Y120	14.40	7.10	6.00	592.0		
柳久保	219	301	三角彎形石器	BSh	X120Y142	7.75	7.80	5.55	298.0		
柳久保	220	303	二角彎形石器	BSh	X117Y122	7.90	7.70	3.95	300.0		
柳久保	221	259	三角彎形石器	BSh	X117Y122	9.30	5.15	3.80	209.5		
柳久保	222	51	スランプ形石器	QdDi	X115Y127	8.95	73.00	5.10	420.0		
柳久保	223	187	スランプ形石器	Gra	X122Y124	10.70	6.50	3.80	376.0		
柳久保	224	52	スランプ形石器	Po	X117Y136	10.60	7.10	5.10	555.0		
柳久保	225	55	スランプ形石器	HeBa	X120Y127	12.00	7.30	4.25	600.0		
柳久保	226	54	スランプ形石器	Po	X104Y111	11.60	8.00	5.60	715.0		
柳久保	227	1	スランプ形小鉗	BSh	X103Y119	13.70	6.60	4.50	678.0		
柳久保	228	290	特殊磨石	QdDi	X108Y122	17.40	6.45	6.50	961.0		
柳久保	229	93	特殊磨石	Gr	X114Y123	7.90	5.95	7.15	391.0		
柳久保	230	61	特殊磨石	SoAn	X115Y131	14.10	5.00	5.40	530.0		
柳久保	231	287	特殊磨石	QdDi	X115Y123	11.25	5.20	5.80	450.0		
柳久保	232	62	特殊磨石	Gr	X115Y120	4.20	4.35	6.50	642.0		
柳久保	233	183	特殊磨石	QdDi	X115Y123	7.95	5.20	5.50	310.0		
柳久保	234	57	特殊磨石	QdDi	X106Y098	13.45	5.80	7.80	900.0		
柳久保	235	59	特殊磨石	Po	X113Y123	16.70	5.25	7.00	850.0		
柳久保	236	60	特殊磨石	QdDi	X120Y132	16.45	6.45	7.75	1120.0		
柳久保	237	58	特殊磨石	QdDi	X122Y118	13.30	5.75	6.45	502.0		
柳久保	238	22	特殊磨石	Po	表探	17.40	5.70	5.60	745.0		
柳久保	239	23	特殊磨石	SoAn	X118Y122	15.70	5.70	6.35	815.0		
柳久保	240	288	特殊磨石	SoAn	X118Y122	11.90	6.40	7.95	908.0		
柳久保	241	289	特殊磨石	SoAn	X098Y098	12.00	7.15	7.20	611.0		
柳久保	242	56	特殊磨石	QdDi	X114Y123	15.80	5.75	7.16	805.0		
柳久保	243	45	鍛器	BSh	X114Y119	5.95	5.20	3.20	85.0		
柳久保	244	166	鍛器	HeBa	X120Y137	8.45	13.85	2.15	296.0		
柳久保	245	206	鍛器	SoAn	X122Y141	9.50	12.30	3.20	425.0		
柳久保	246	40	石核	BSh	X118Y125	4.90	6.00	4.40	135.2		
柳久保	247	44	石核	BSh	X118Y136	6.10	6.60	6.80	300.0		

Gr...黒曜石
 Ba...黒色安山岩
 BSh...黒色頁岩
 Gr...チャート
 Po...「ひん」岩
 Ho...ホルンフェルス
 Qd...石英閃緑岩
 Di...閃綠岩
 Gr...花崗岩

Gra...文象巖岩
 SoAn...粗粒輝石安山岩
 SaAn...細粒輝石安山岩
 HeBa...愛質ダイナイト
 SoAn...細粒安山岩
 WeTf...滑石凝灰岩
 Ba...玄武岩
 Di...輝綠岩
 Sa...砂岩

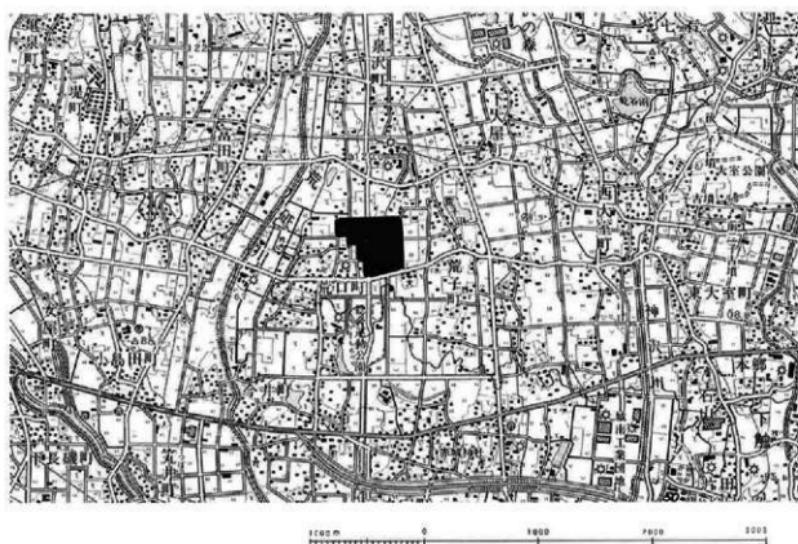
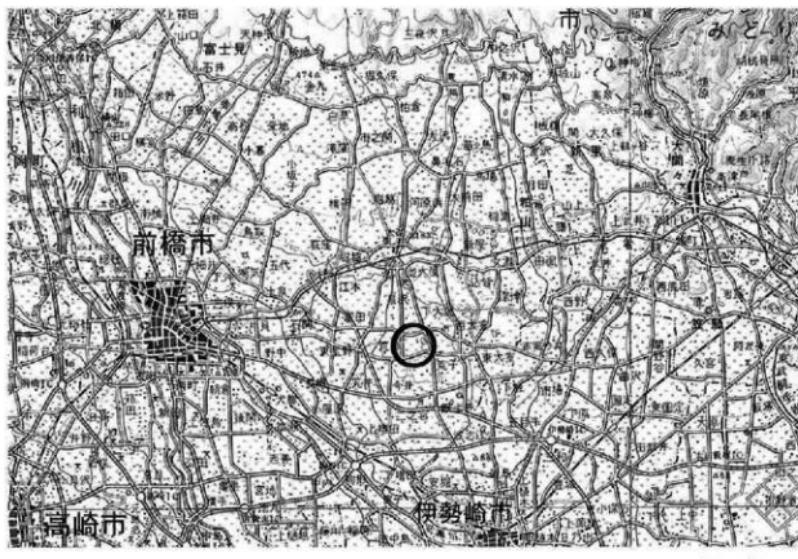
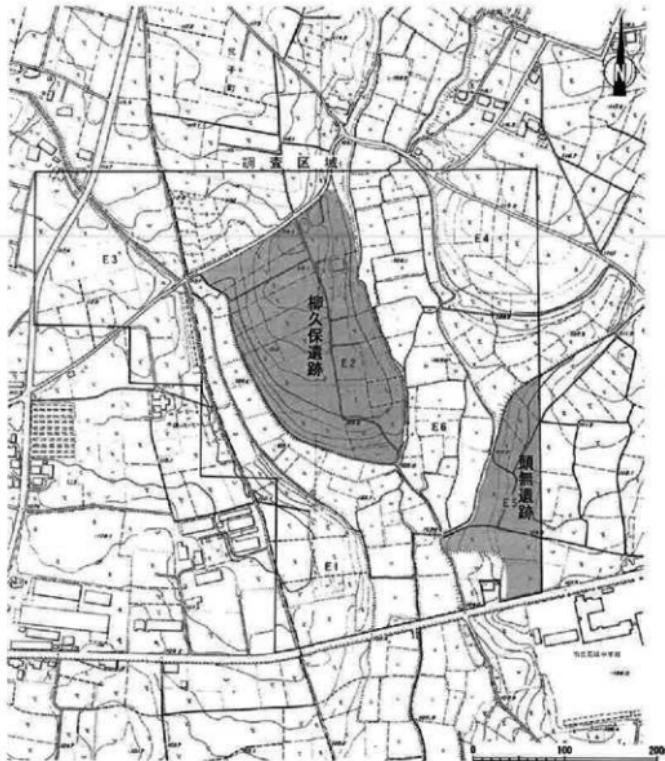


Fig. 1 桜久保遺跡遺跡群配置図



遺跡群名	遺跡名(ふりがな)	略称	調査年度	掲載報告書名
柳久保遺跡群 (やなぎくぼ いせきぐん)	下鶴谷遺跡(しもつるがやいせき)	E 1	昭和59~61年度	柳久保遺跡群 I・IV・V
	柳久保遺跡(やなぎくぼいせき)	E 2	昭和59~61年度	柳久保遺跡群 I・VII・VIII
	頭防遺跡(ずわいせき)	E 3	昭和60年度	柳久保遺跡群 III
	中鶴谷遺跡(なかつるがやいせき)	E 4	昭和61・62年度	柳久保遺跡群 VI
	頭無遺跡(かしらなしいせき)	E 5	昭和62年度	柳久保遺跡群 VII
	柳久保水田址(やなぎくぼすいでんし)	E 6	昭和59~61年度	柳久保遺跡群 I・III・IV・VI

Fig. 2 柳久保遺跡全体図

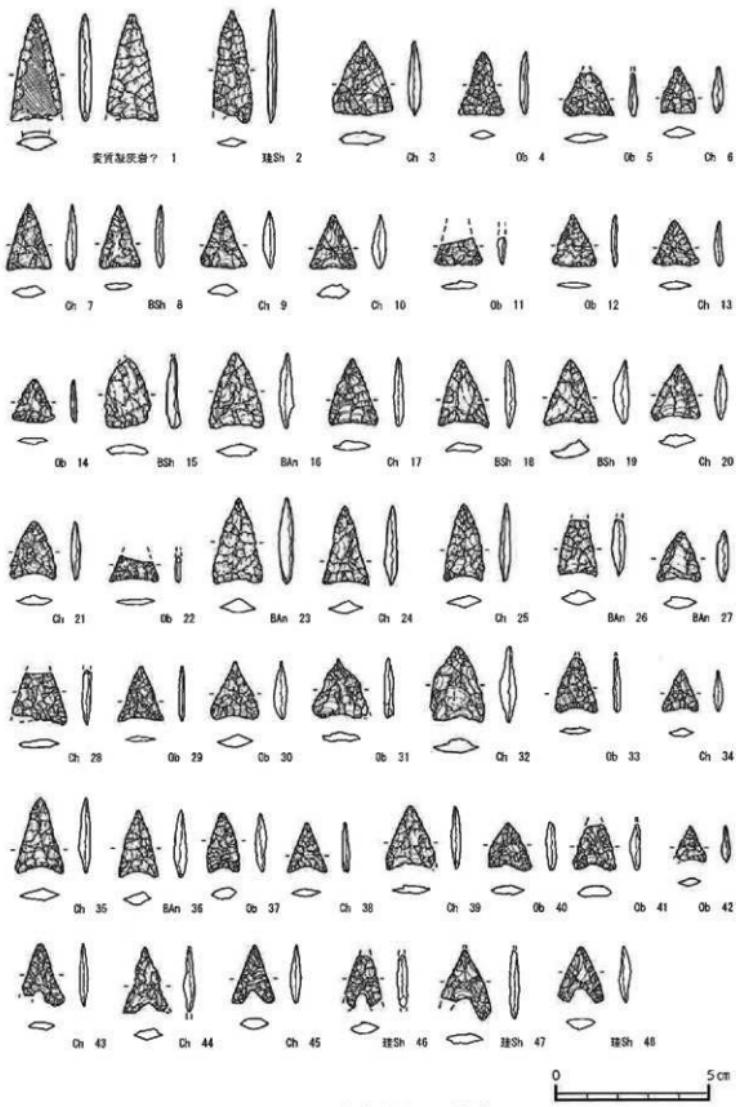


Fig. 3 頭無遺跡出土の石器(1)

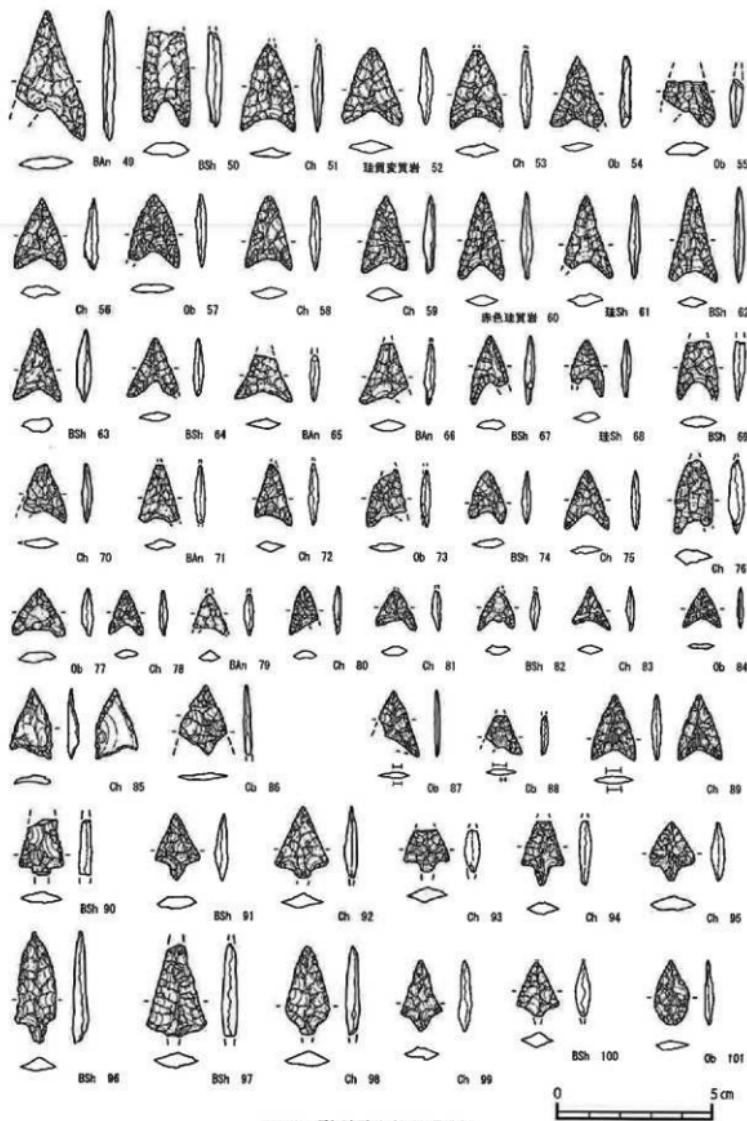


Fig. 4 項無遺跡出土の石器(2)

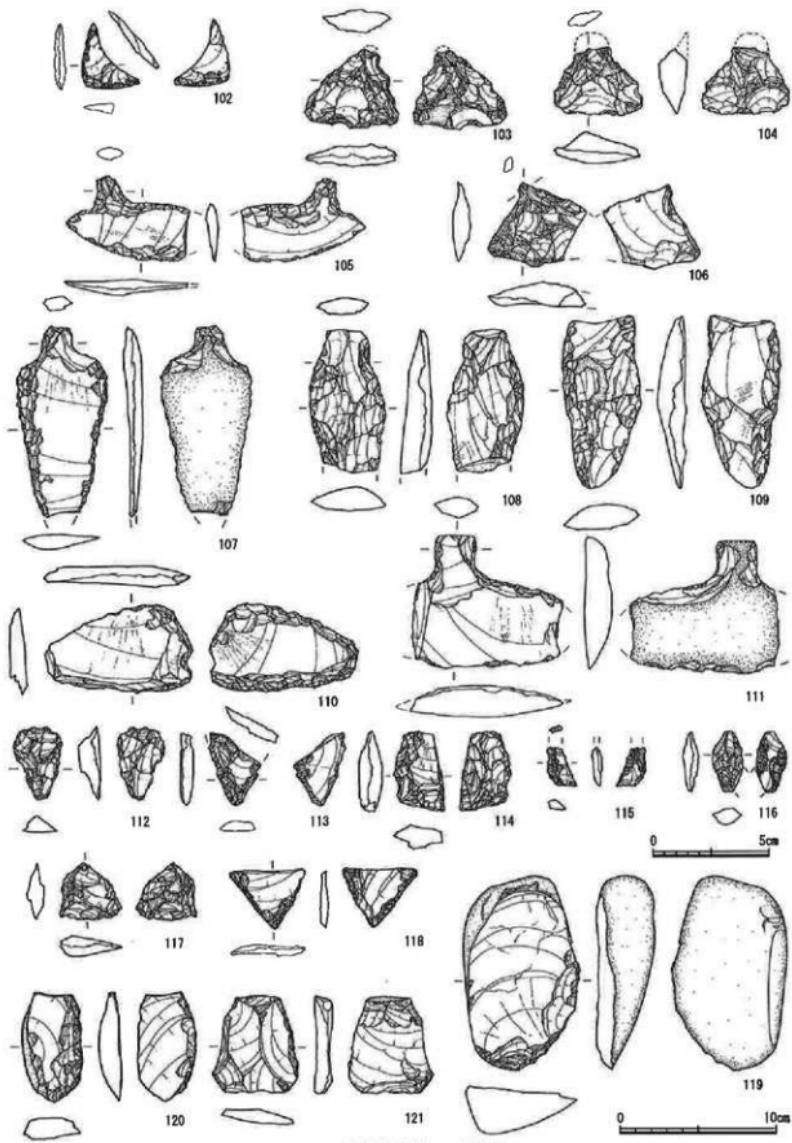


Fig. 5 頭無遺跡出土の石器(3)

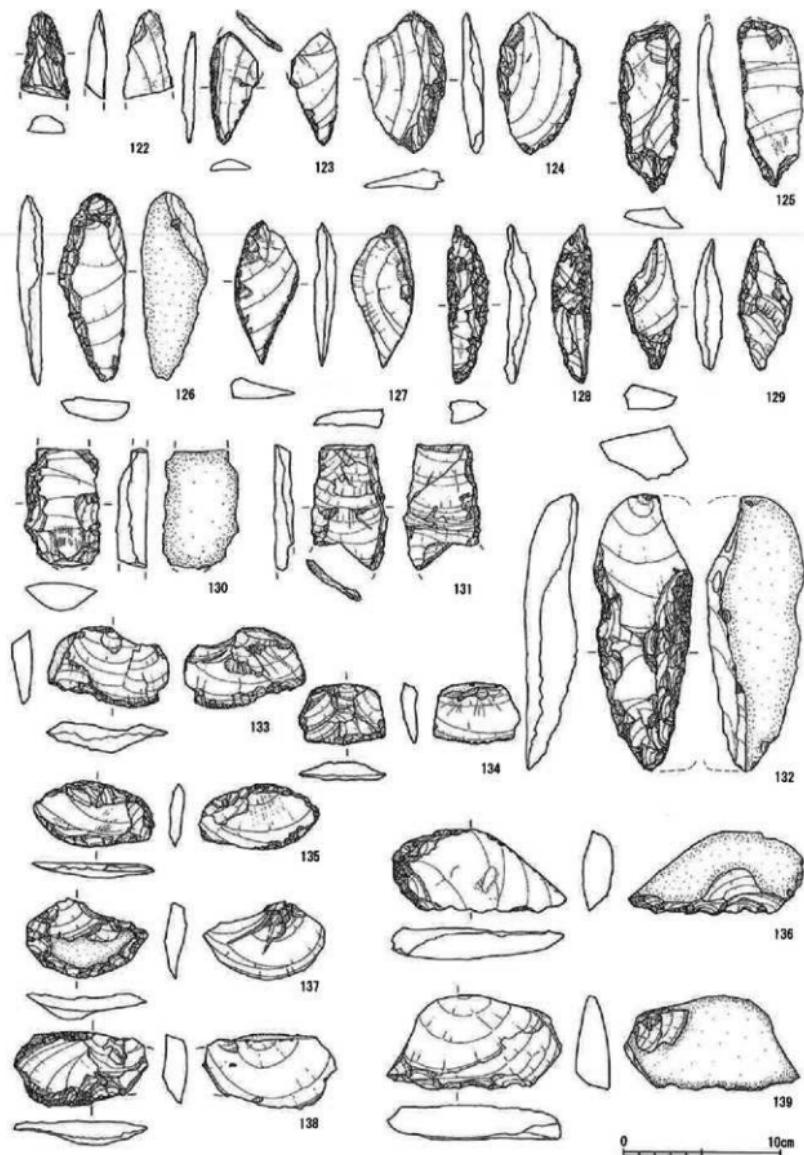


Fig. 6 頭無遺跡出土の石器(4)

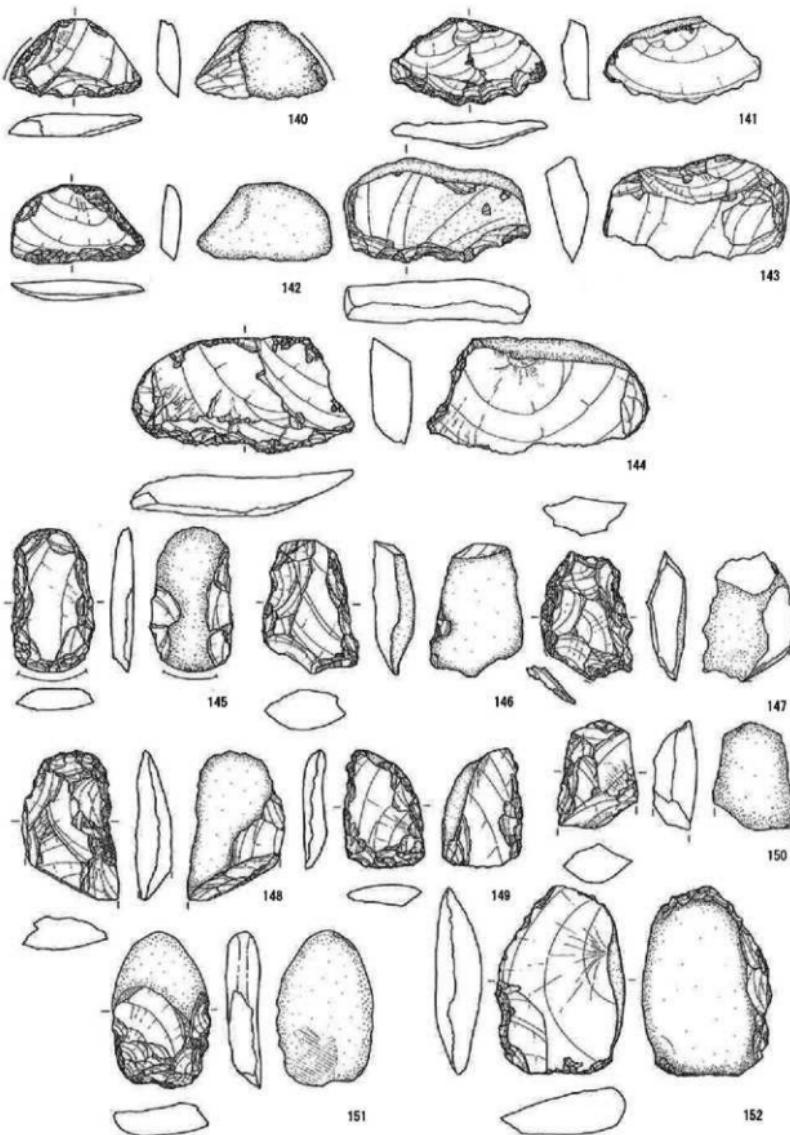


Fig. 7 頭無遺跡出土の石器(5)

0 10cm

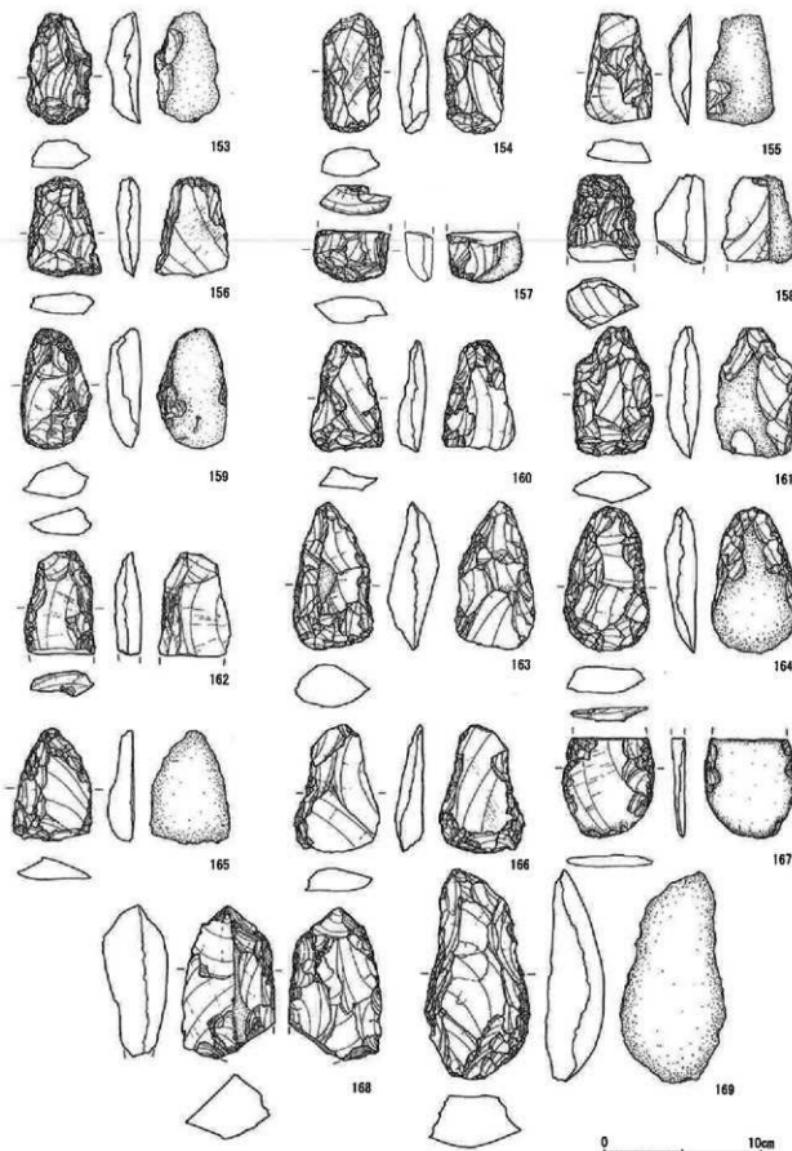


Fig. 8 頭無遺跡出土の石器(6)

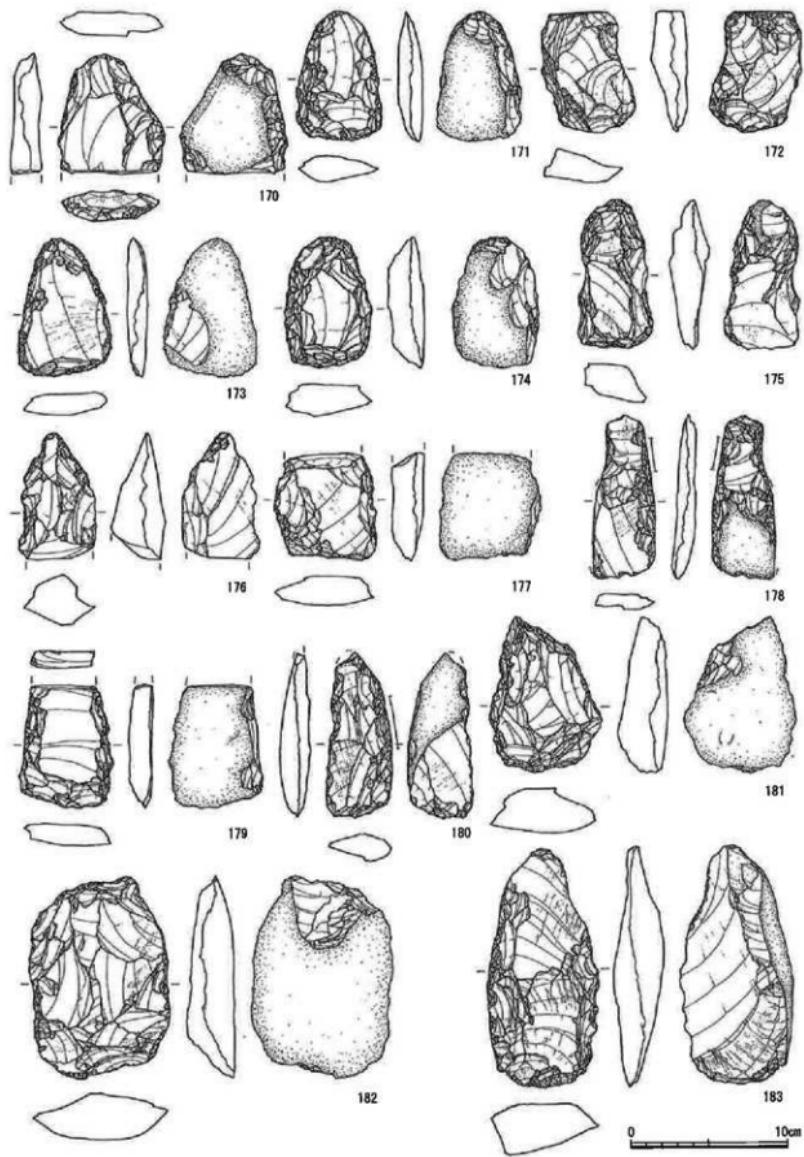


Fig. 9 頭無遺跡出土の石器(7)

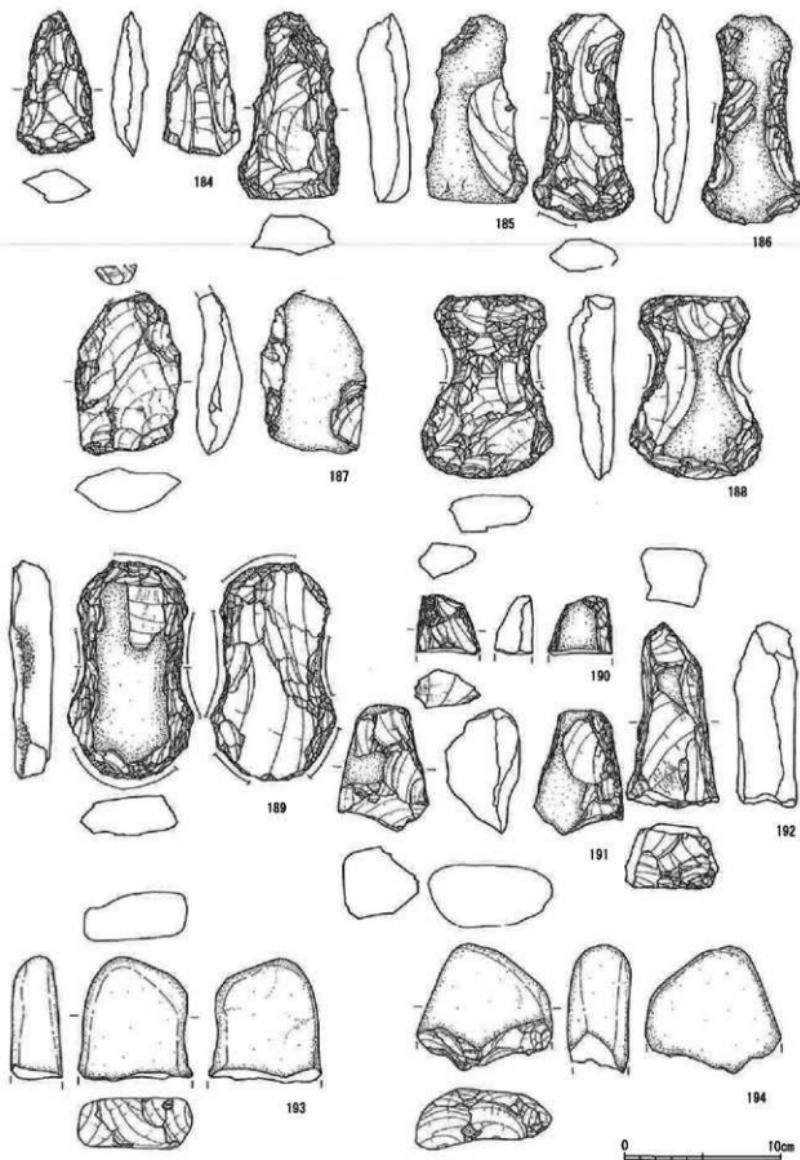


Fig. 10 研磨遺跡出土の石器(8)

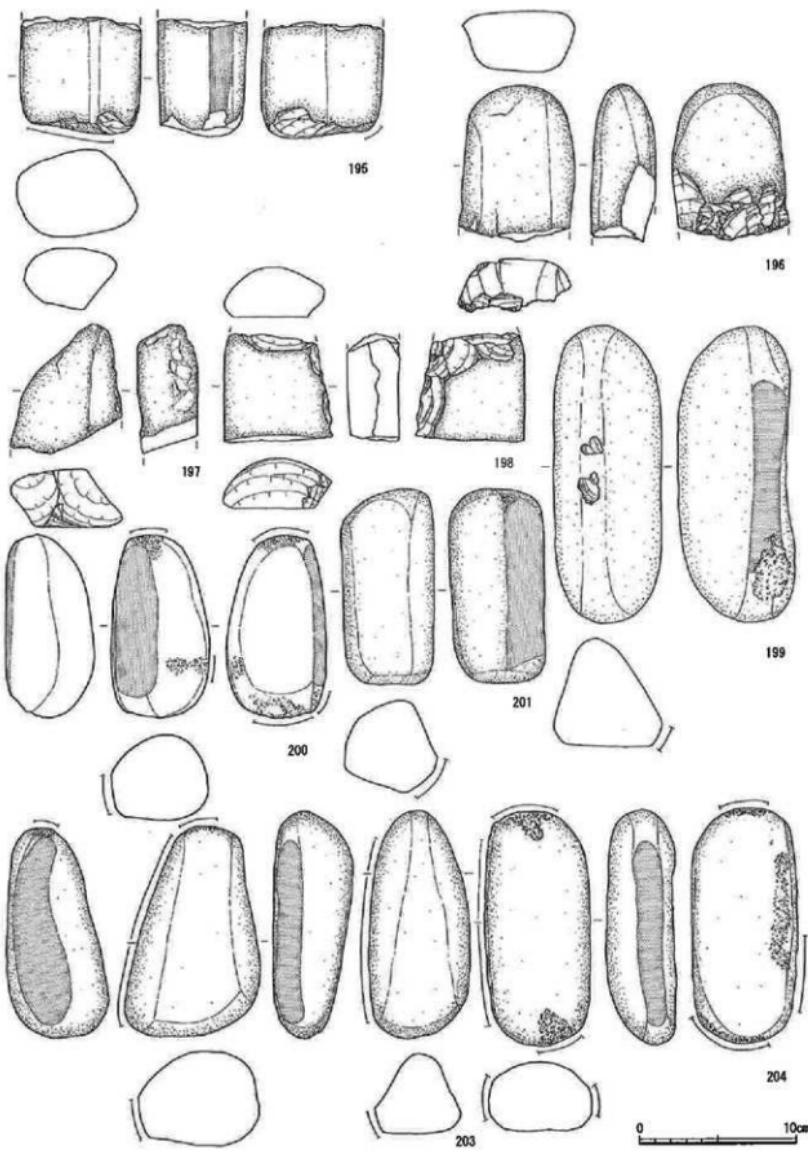


Fig. 11 頭無遺跡出土の石器(9)

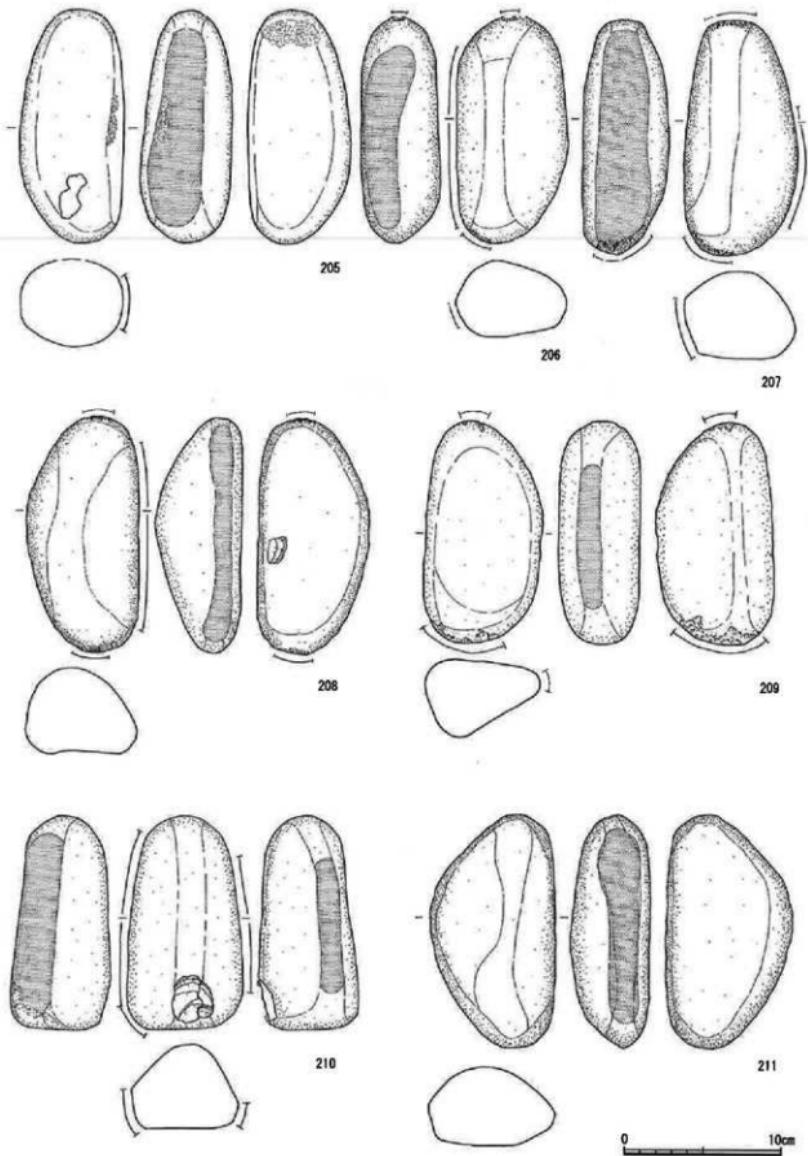


Fig. 12 須無遺跡出土の石器(10)

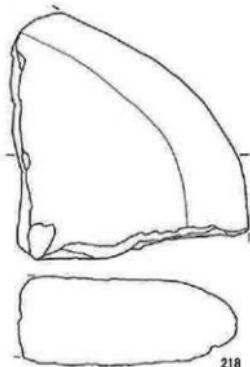
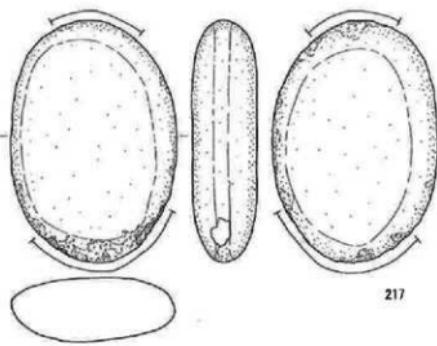
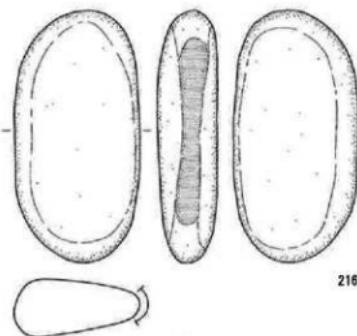
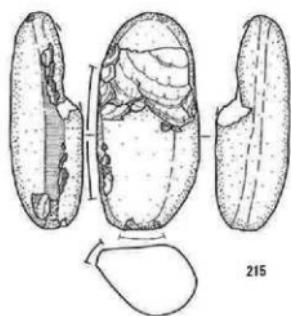
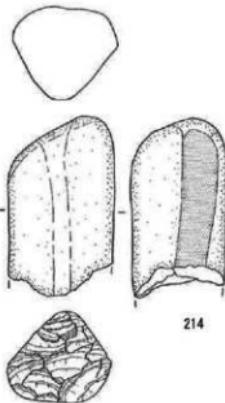
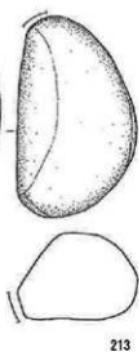
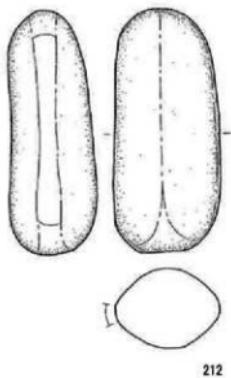


Fig. 13 頭無遺跡出土の石器(11)

0 10cm

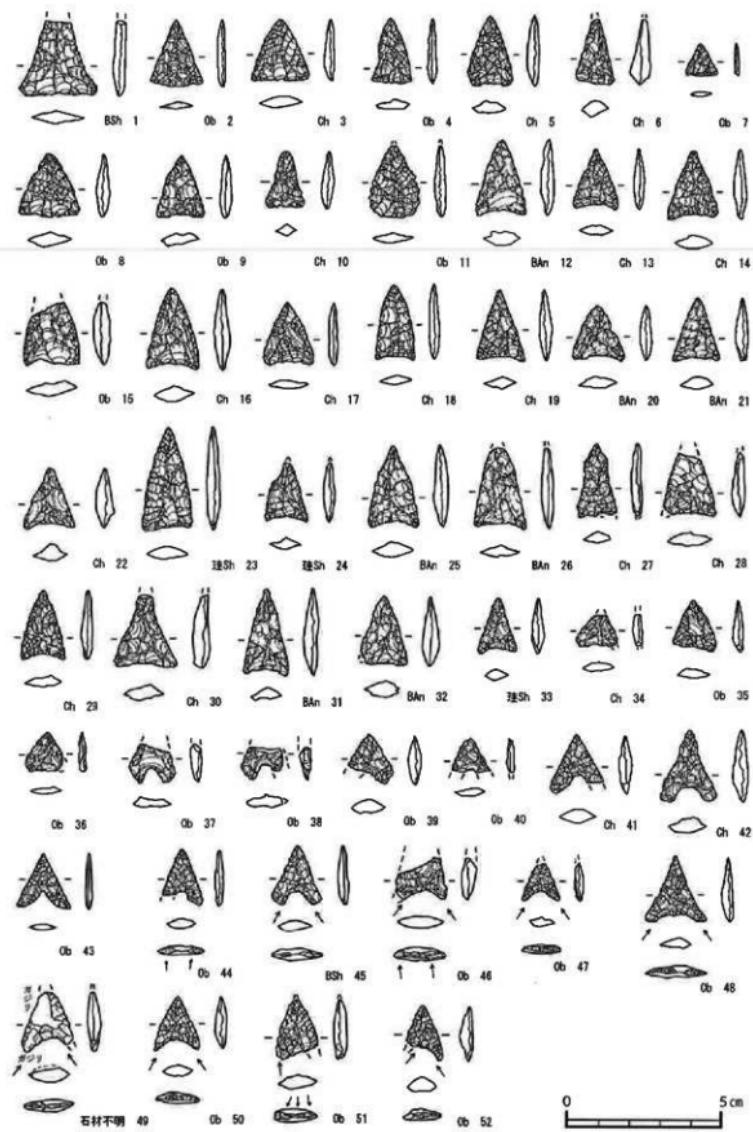


Fig. 14 柳久保遺跡出土の石器(1)

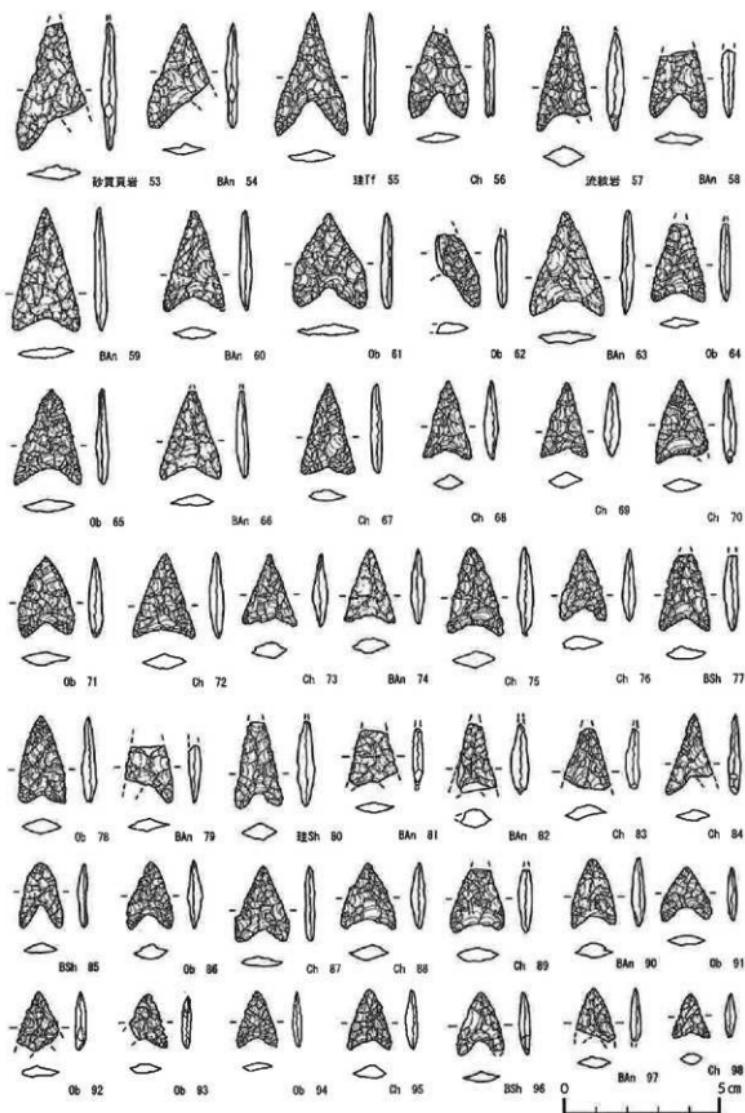


Fig. 15 柳久保遺跡出土の石器(2)

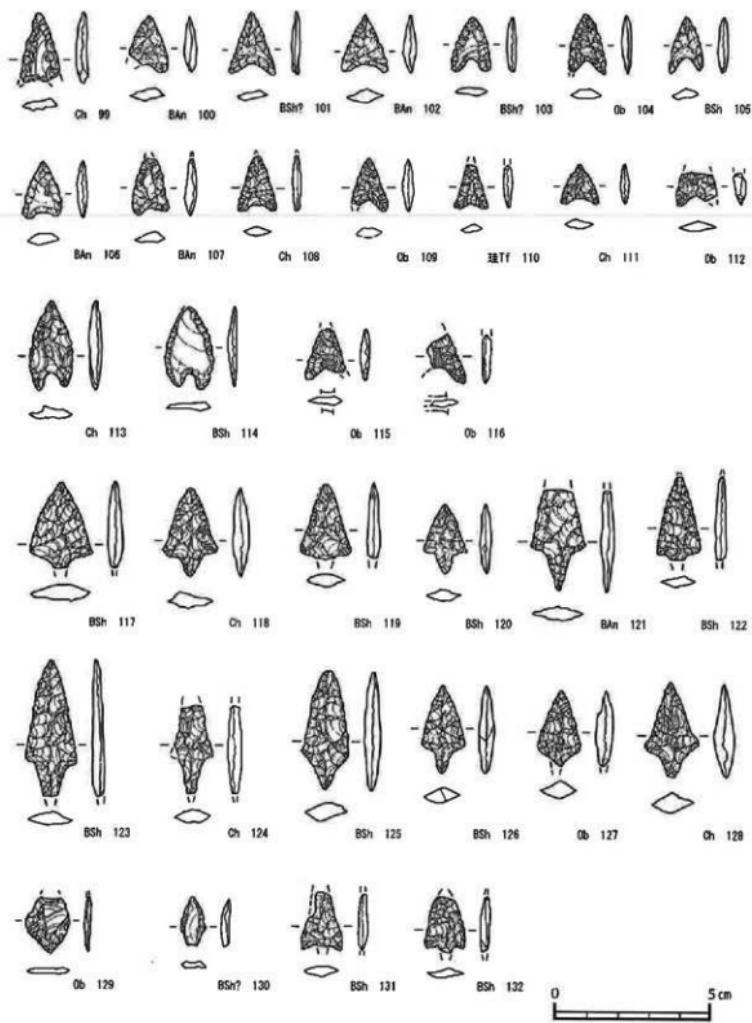


Fig. 16 柳久保遺跡出土の石器(3)

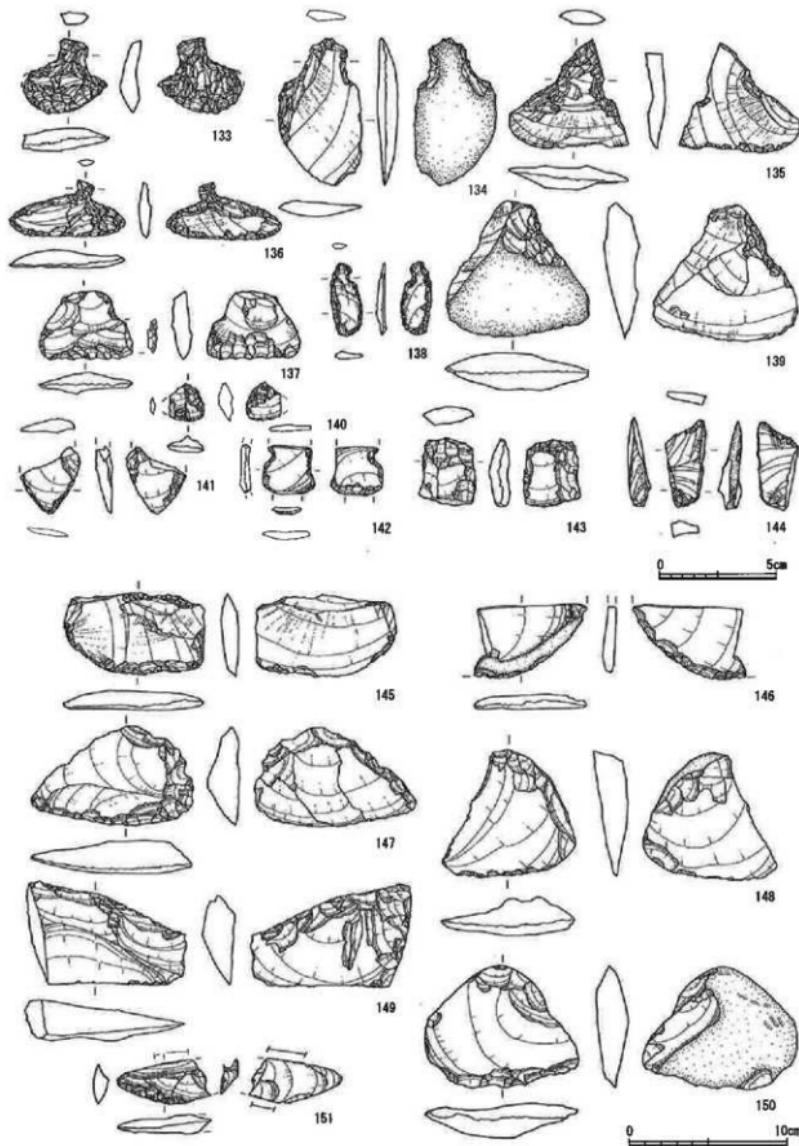


Fig. 17 柳久保遺跡出土の石器(4)

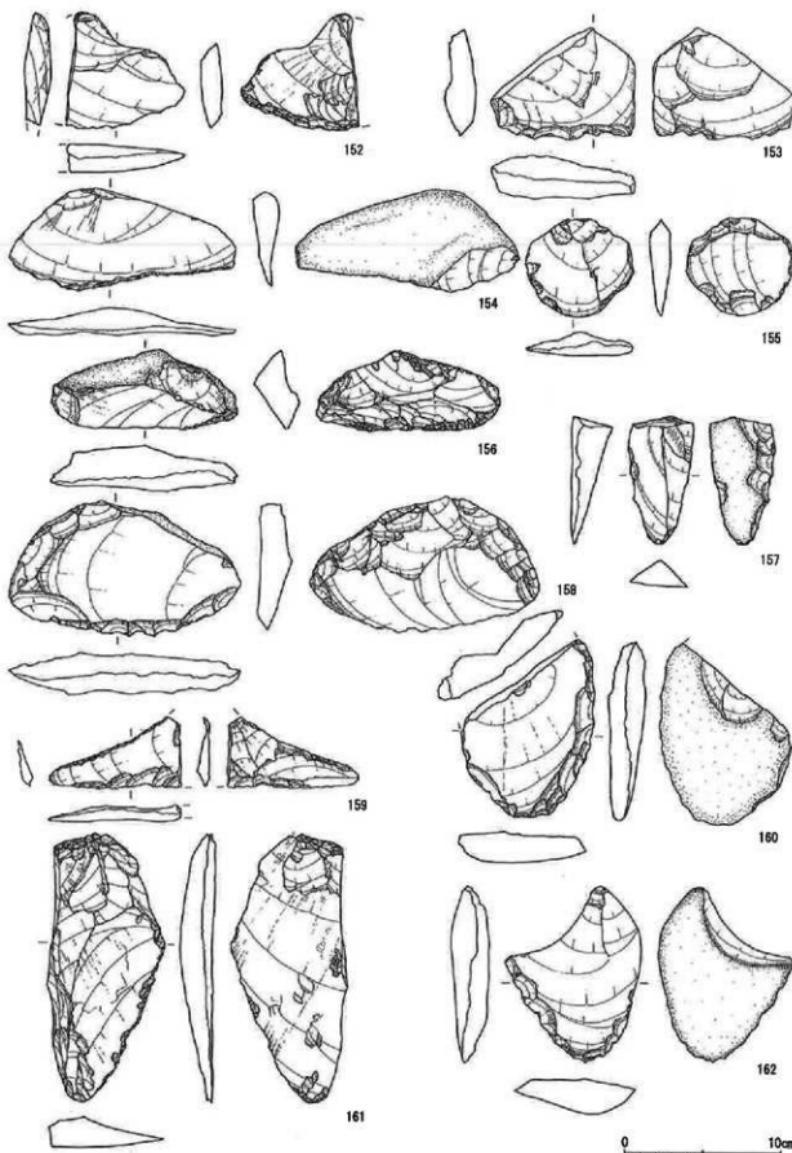


Fig. 18 桧久保遺跡出土の石器(5)

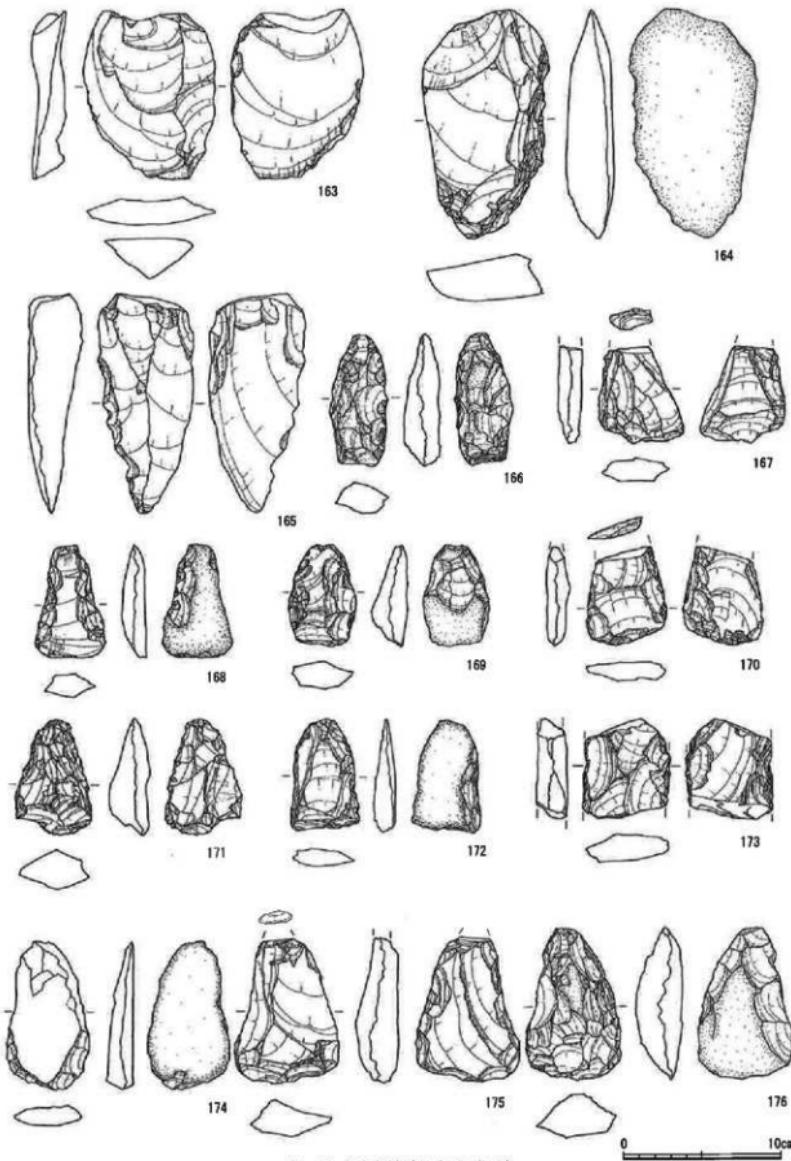


Fig. 19 植久保遺跡出土の石器(6)

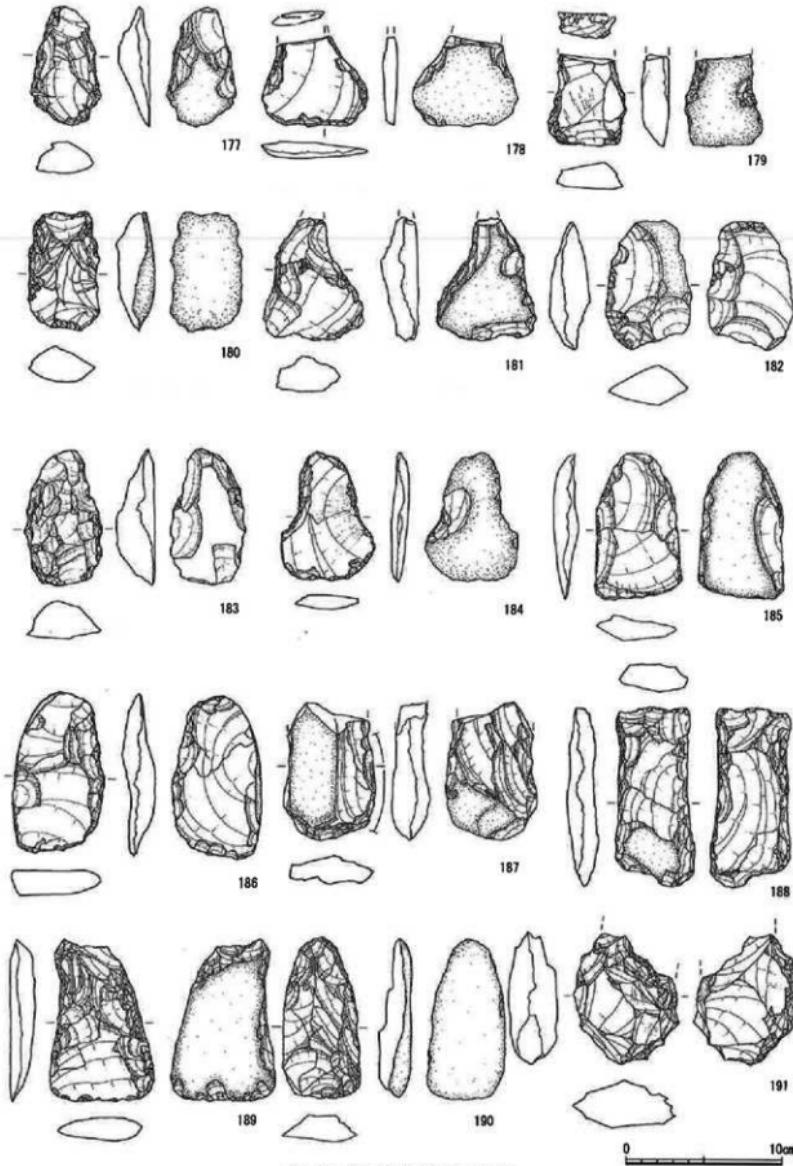


Fig. 20 桜久保遺跡出土の石器(?)

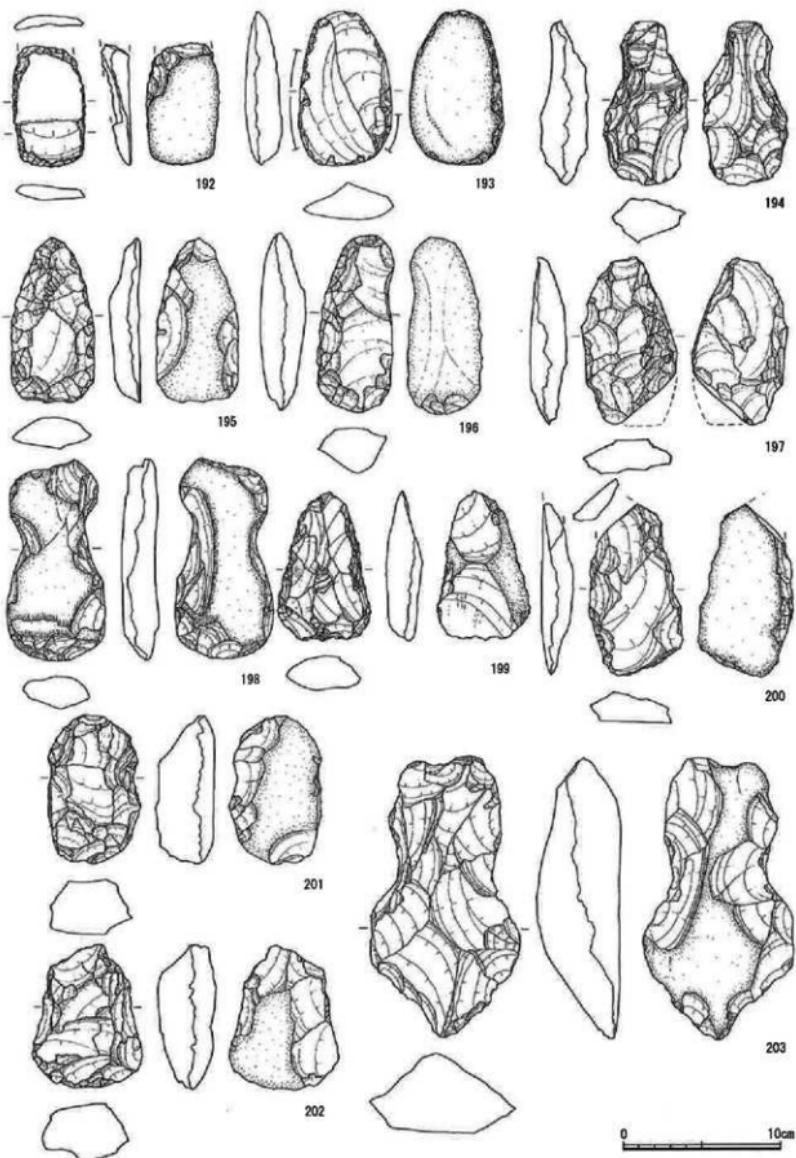


Fig. 21 柳久保遺跡出土上の石器(8)

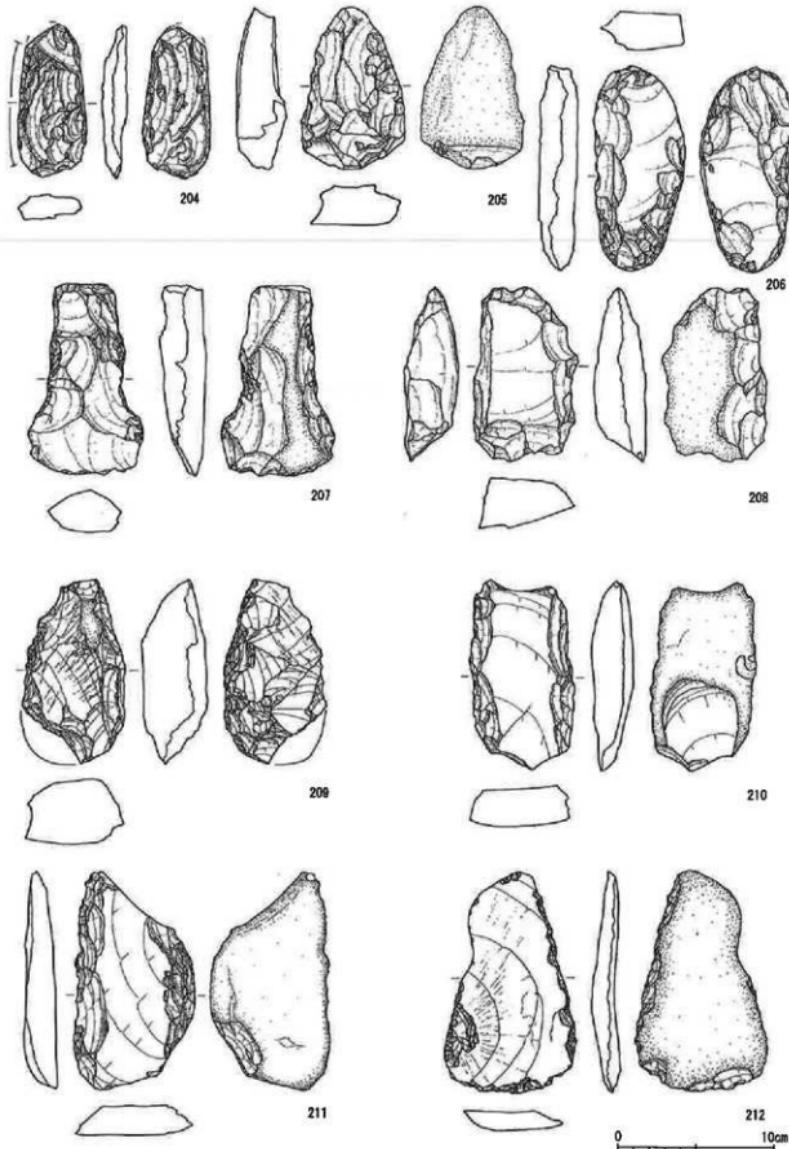
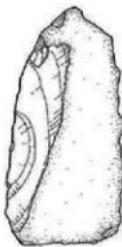
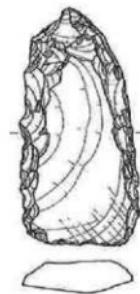
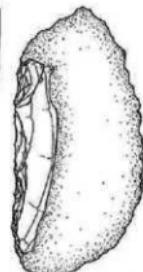


Fig. 22 柳久保遺跡出土の石器(9)



213



214



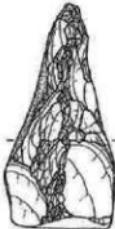
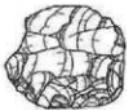
215



216



217



218



Fig.23 柳久保遺跡出土の石器(10)

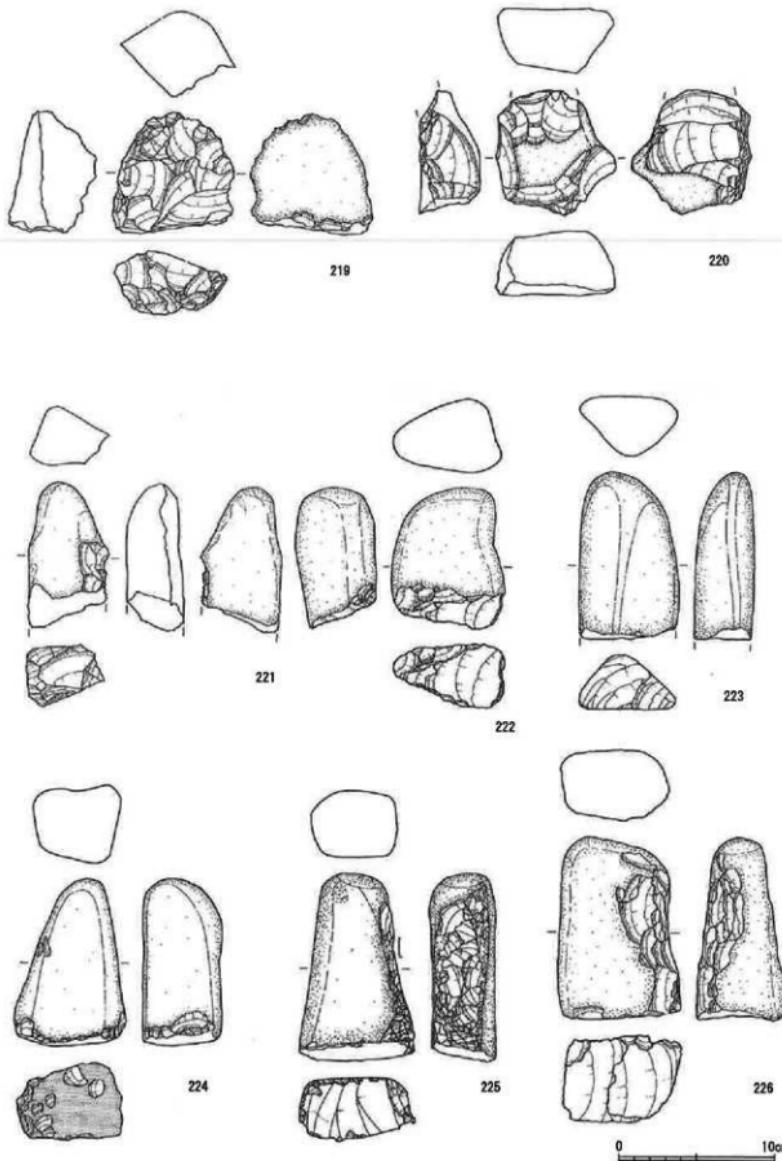


Fig. 24 柳久保遺跡出土の石器(11)

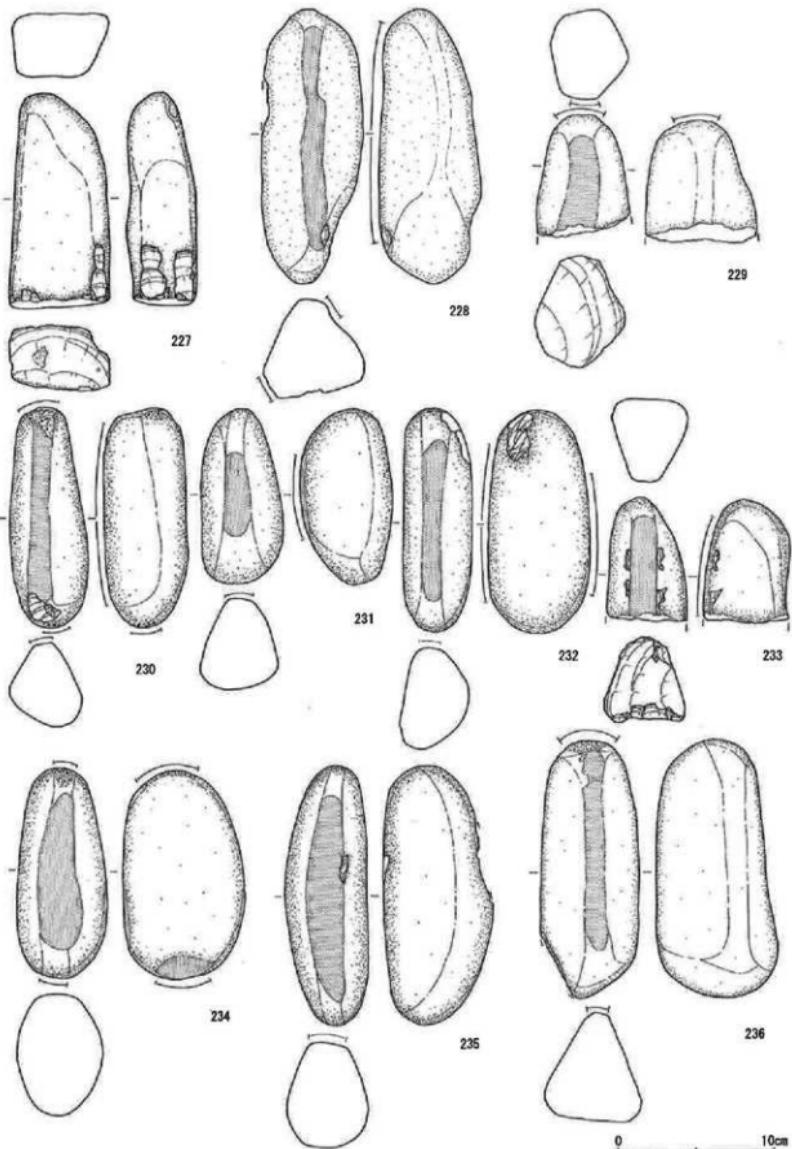
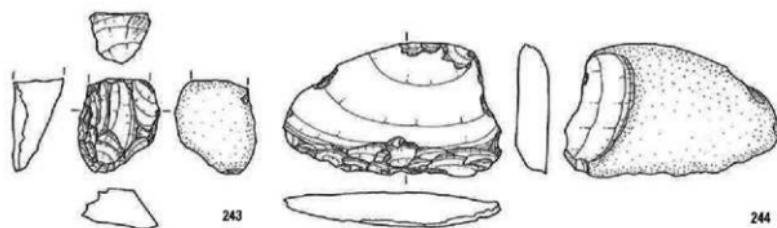
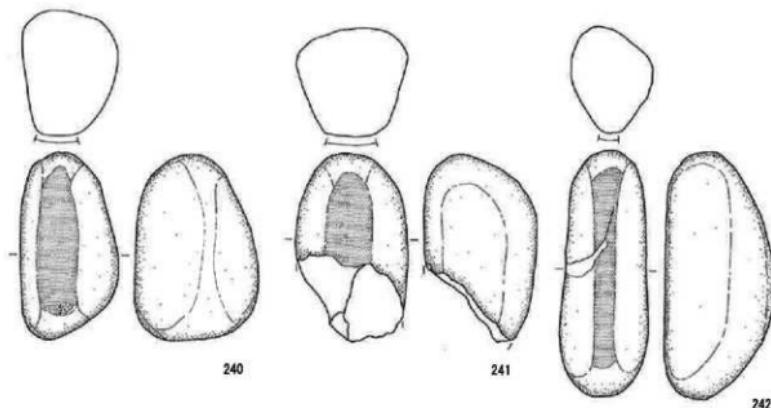
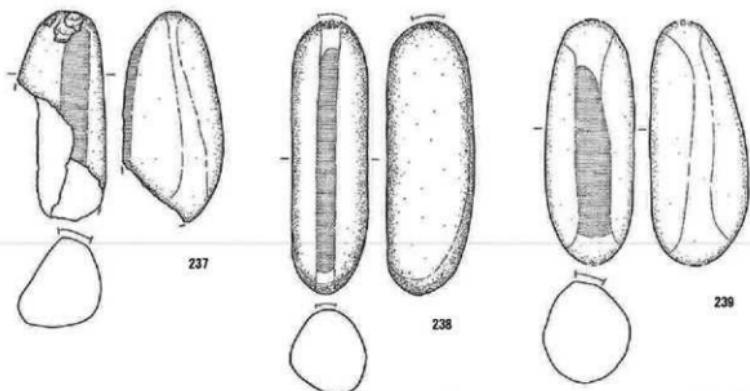


Fig. 25 柳久保遺跡山上の石器(12)



0 10cm

Fig. 26 植久保遺跡出土の石器(13)

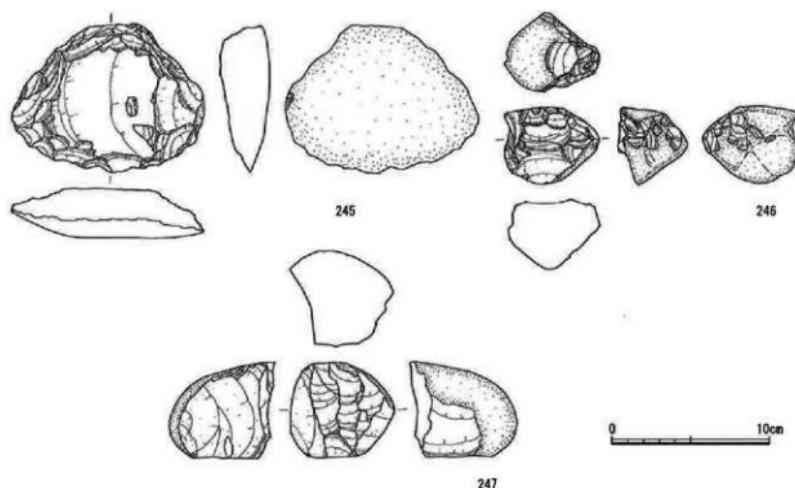


Fig. 27 柳久保遺跡の石器(14)

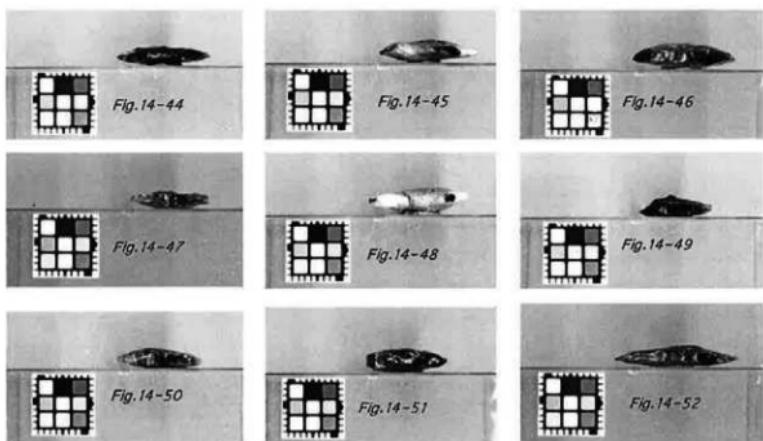


Fig. 28 〈仮称〉柳久保型石鐵の層状剥離によって作られた基部

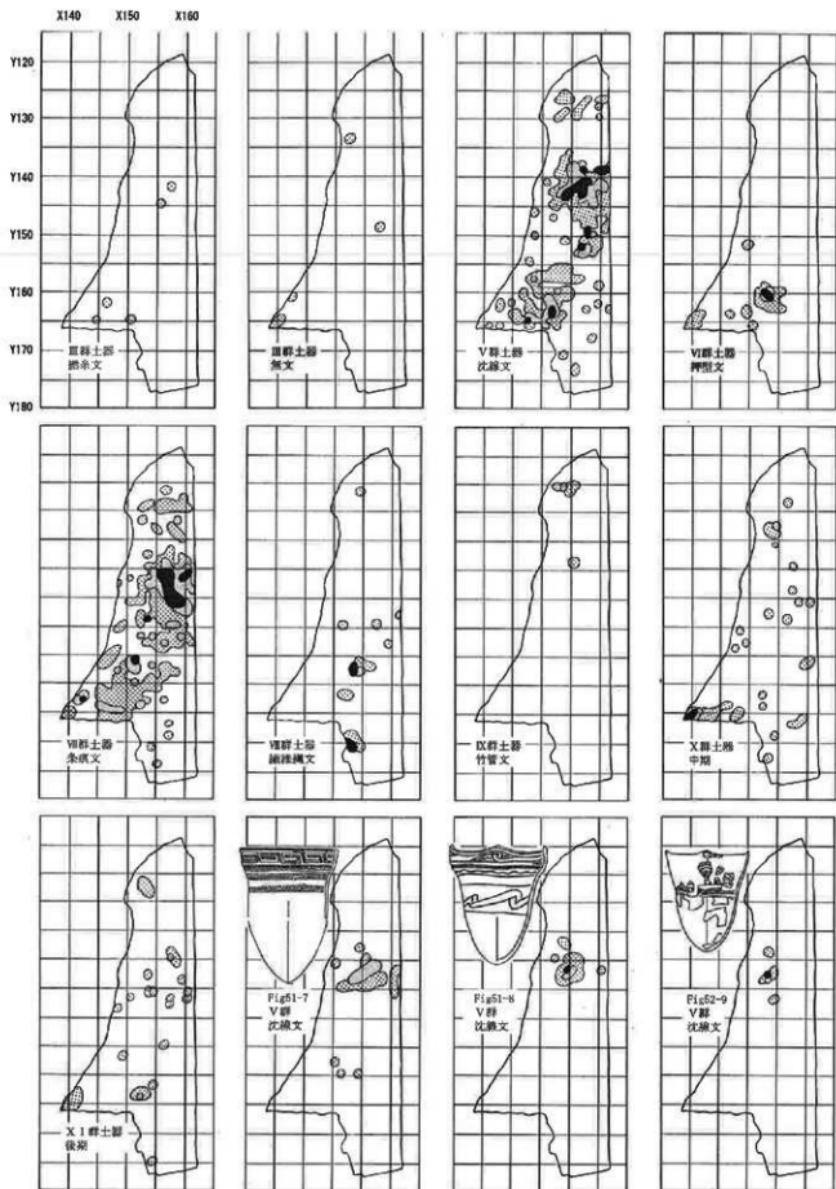


Fig. 29 頸無波跡繩文包含層の遺物分布(1)

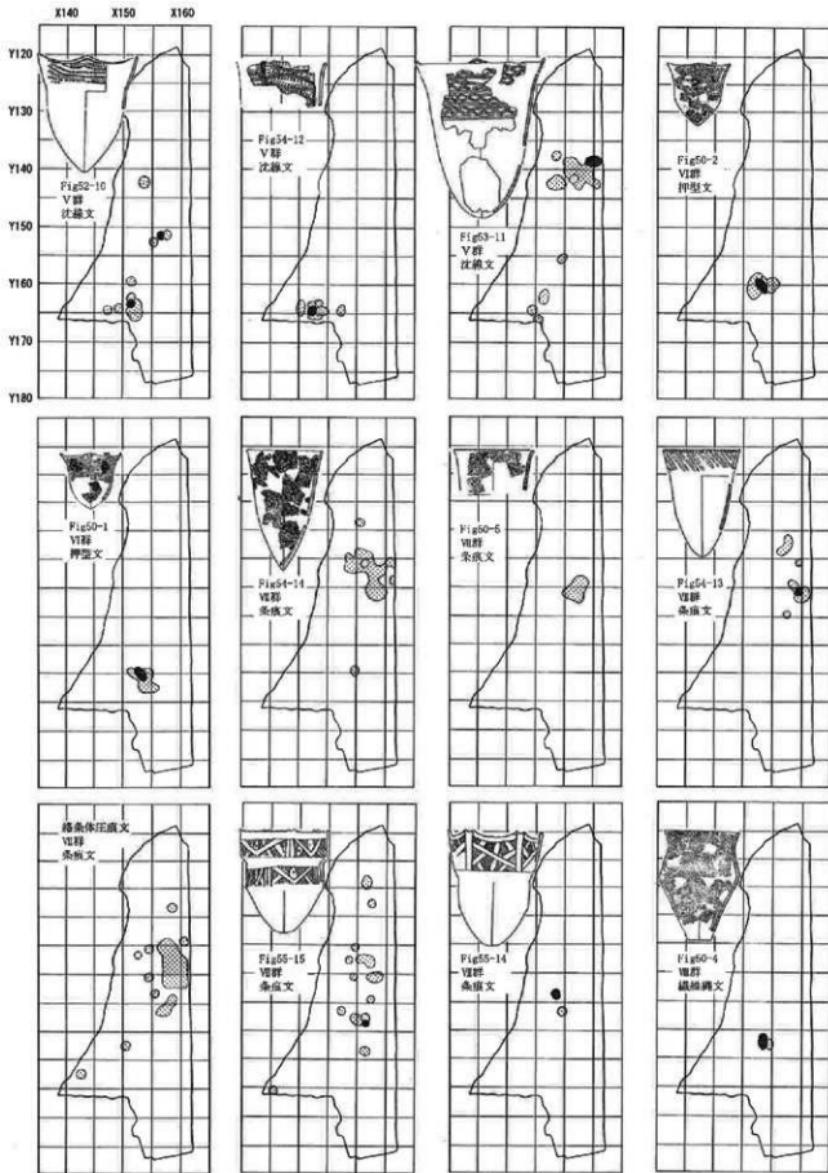


Fig. 30 頭無遺跡縄文包含層の遺物分布(2)

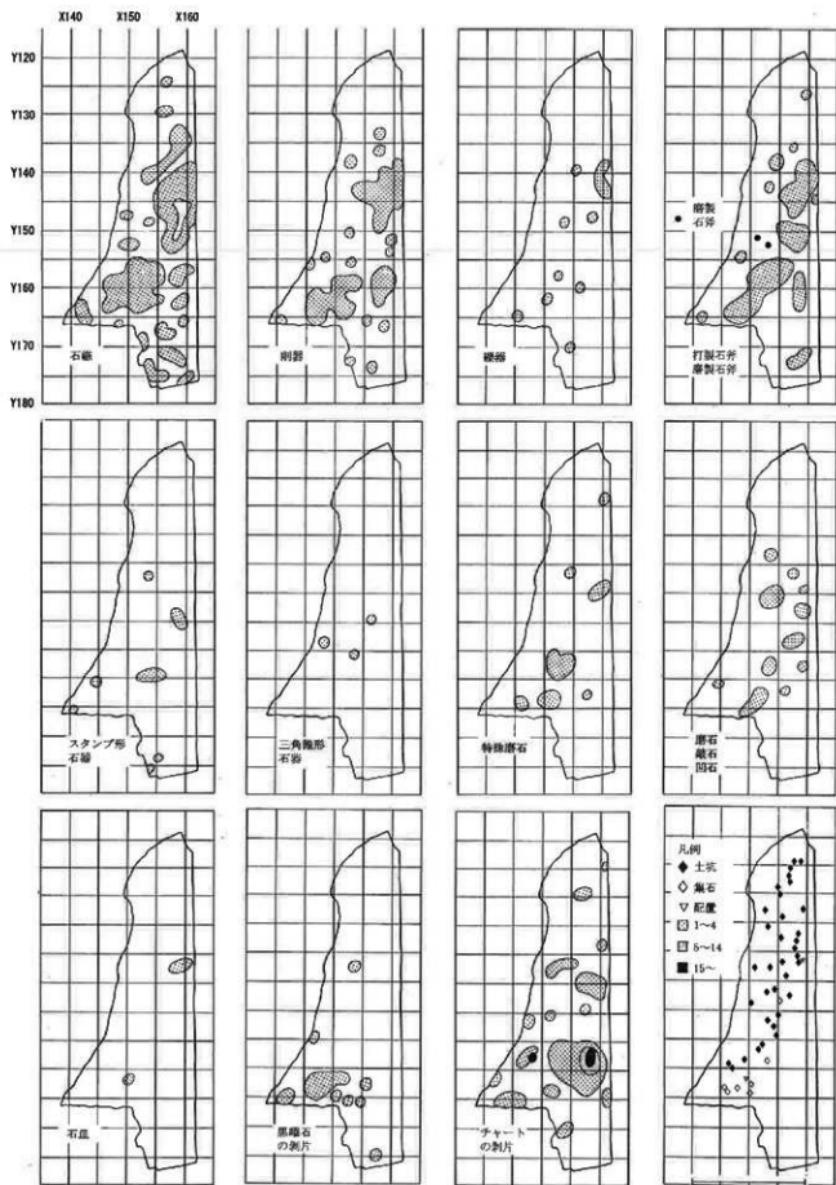


Fig. 31 頸無治跡縄文包含層の遺物分布(3)

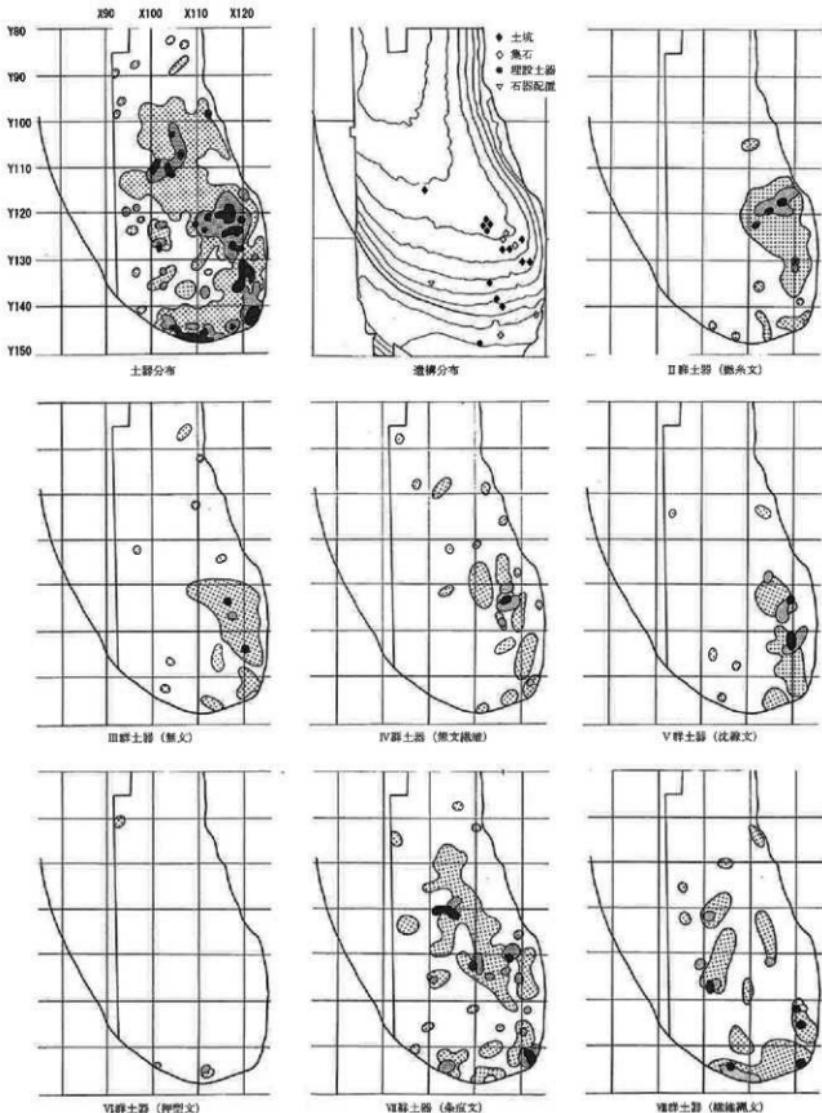


Fig. 32 柳久保遺跡縄文包含層の遺跡分布(1)

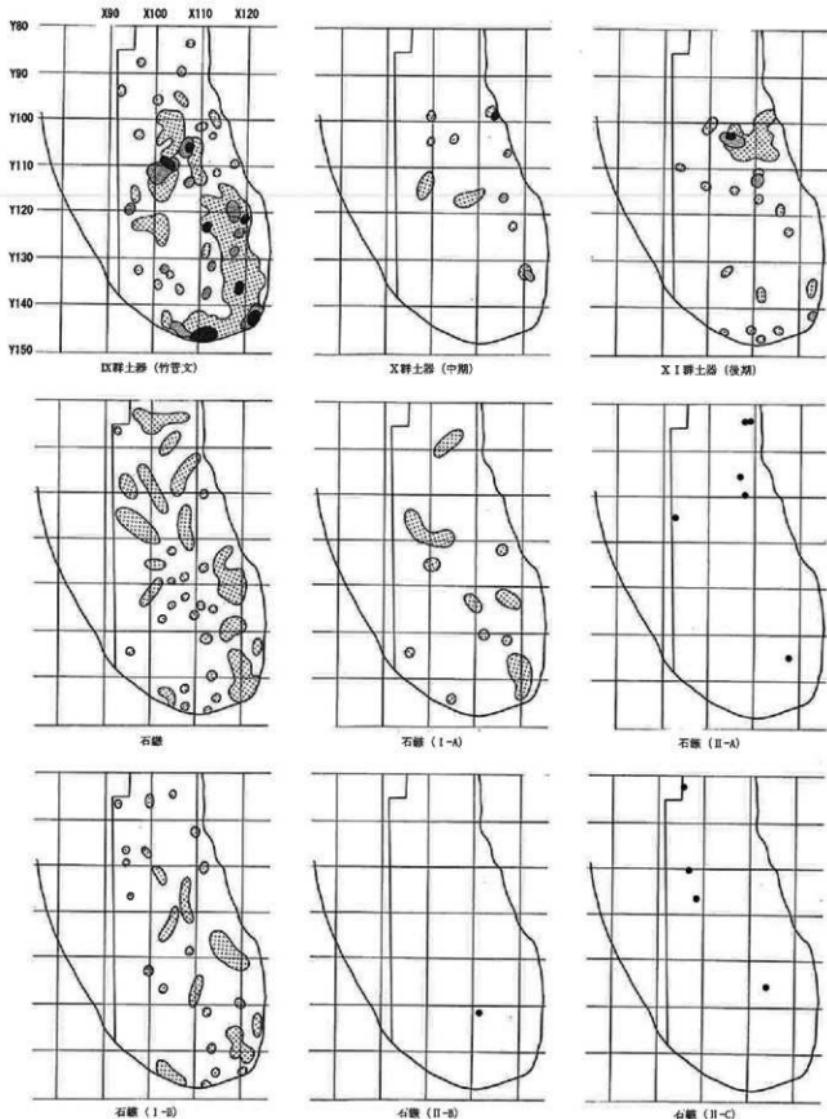


Fig. 33 植久保遺跡縄文包含層の遺物分布(2)

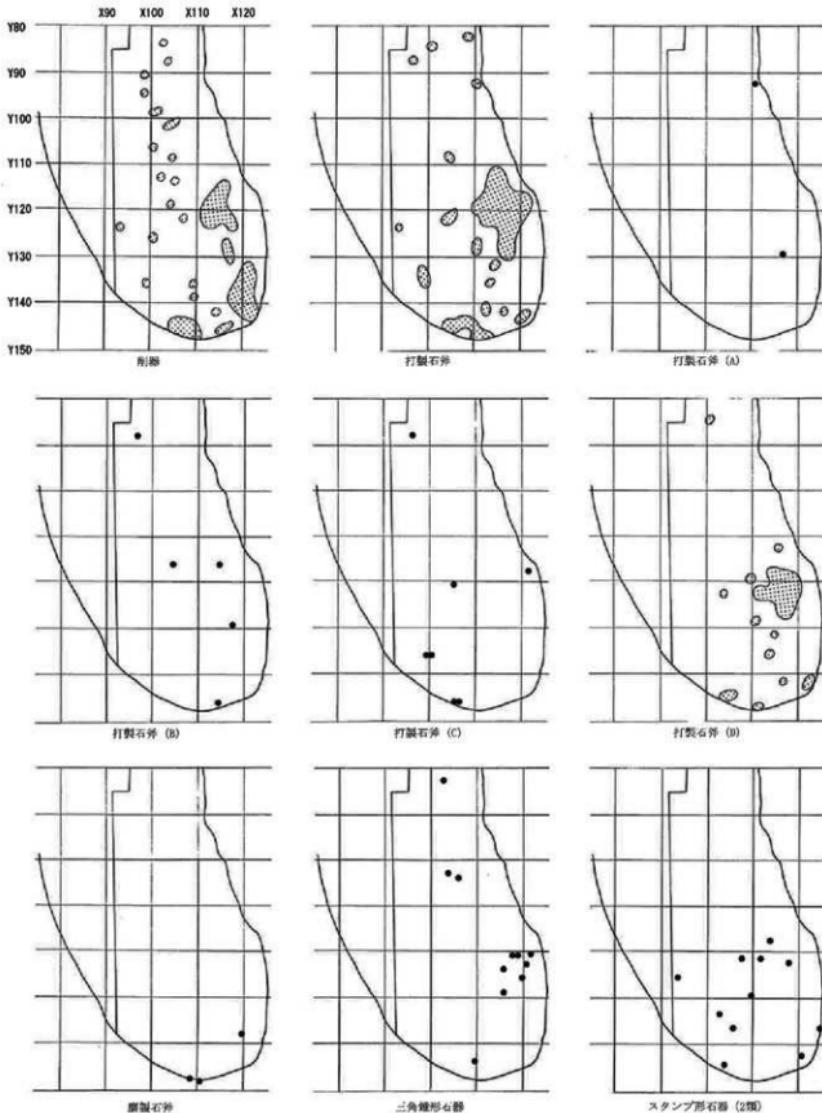
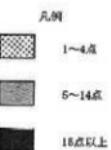
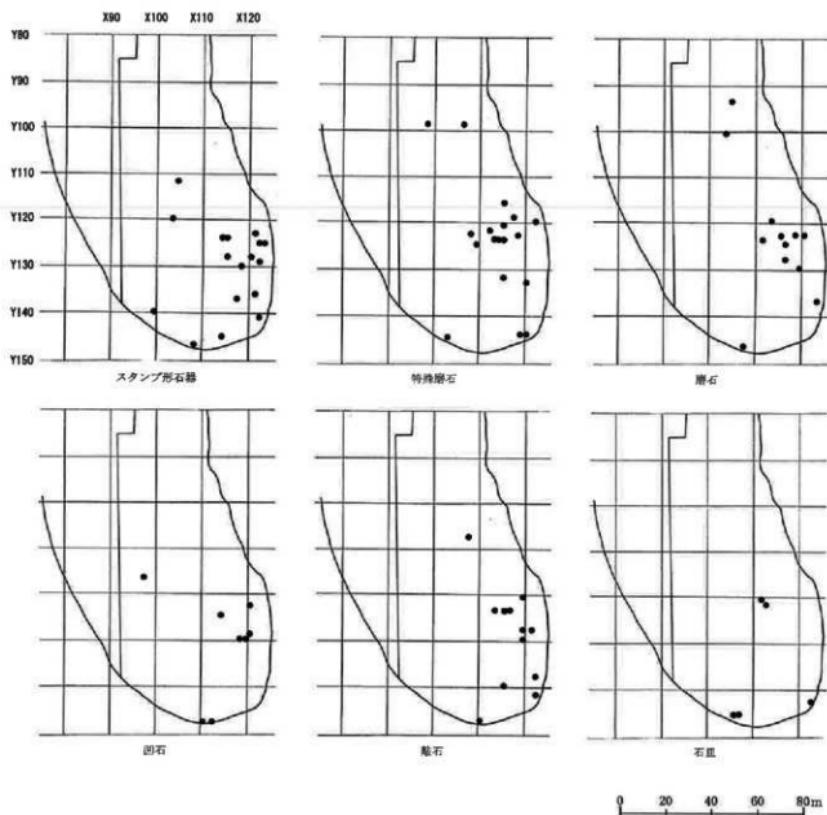
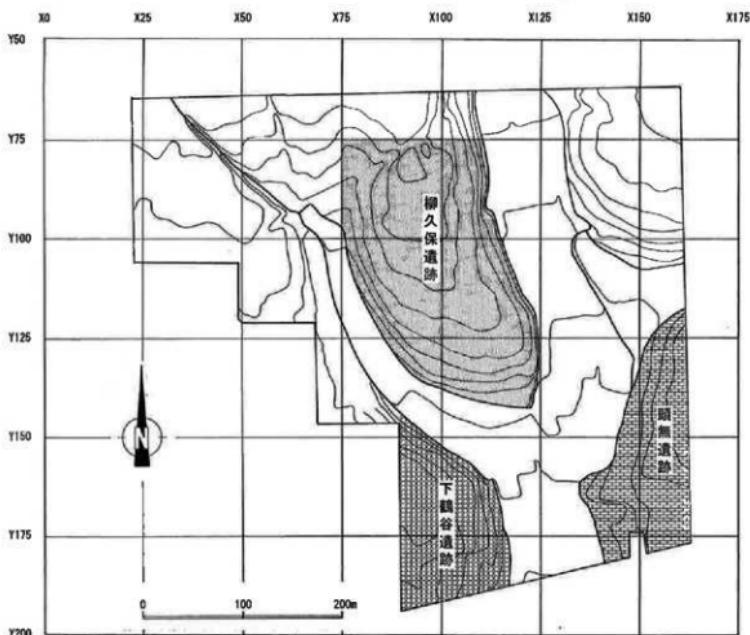


Fig. 34 桜久保遺跡縄文包含層の遺物分布(3)



注) 分布図上のスクリーントーンは1グリッド(4m四方)の出土点数を基に概略的に図示したものである。
丸印のドットは石器1点である。

Fig. 35 柳久保遺跡縄文包含層の遺跡分布(4)



3つの遺跡の配置

■—1グリッド(4m四方)に1~4点

■—1グリッド(4m四方)に5~14点

■—1グリッド(4m四方)に15点以上

注) 遺物分布図上のメッシュは20m四方
位し柳久保遺跡は40m四方

Fig. 36 各遺跡の縄文包含層遺物分布(1)

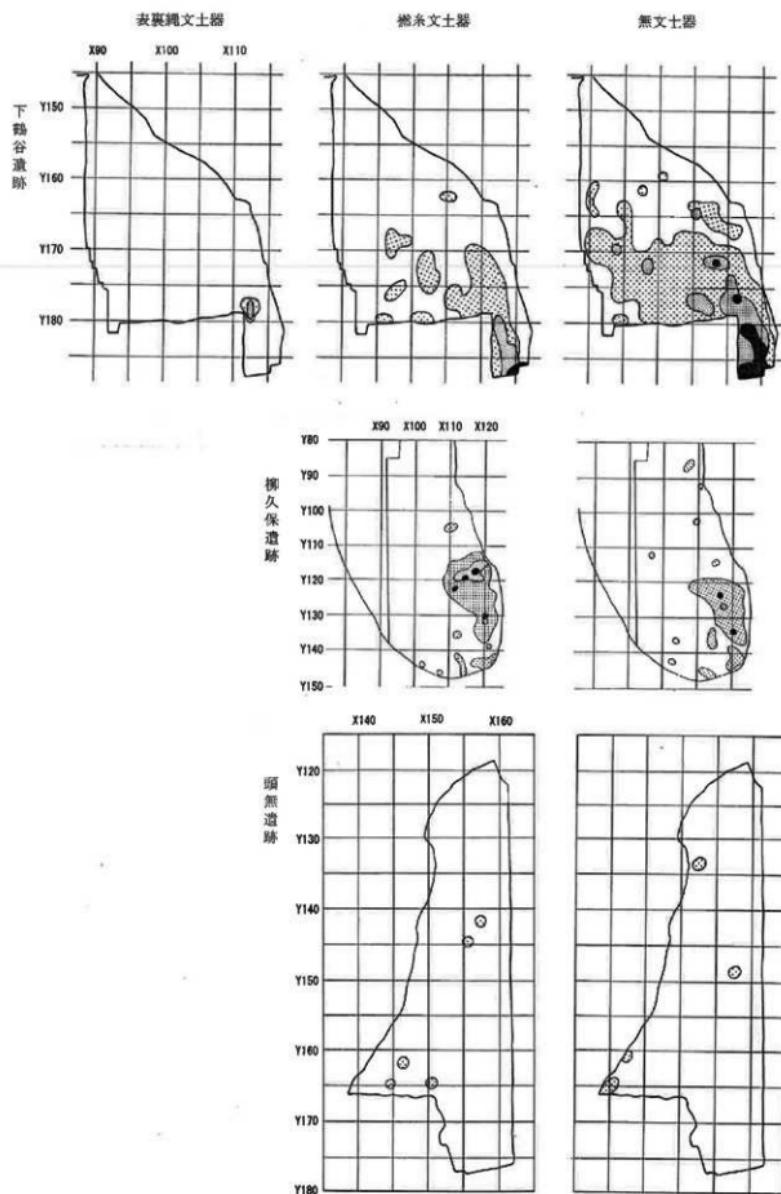


Fig. 37 各遺跡の縄文包含層遺物分布(2)

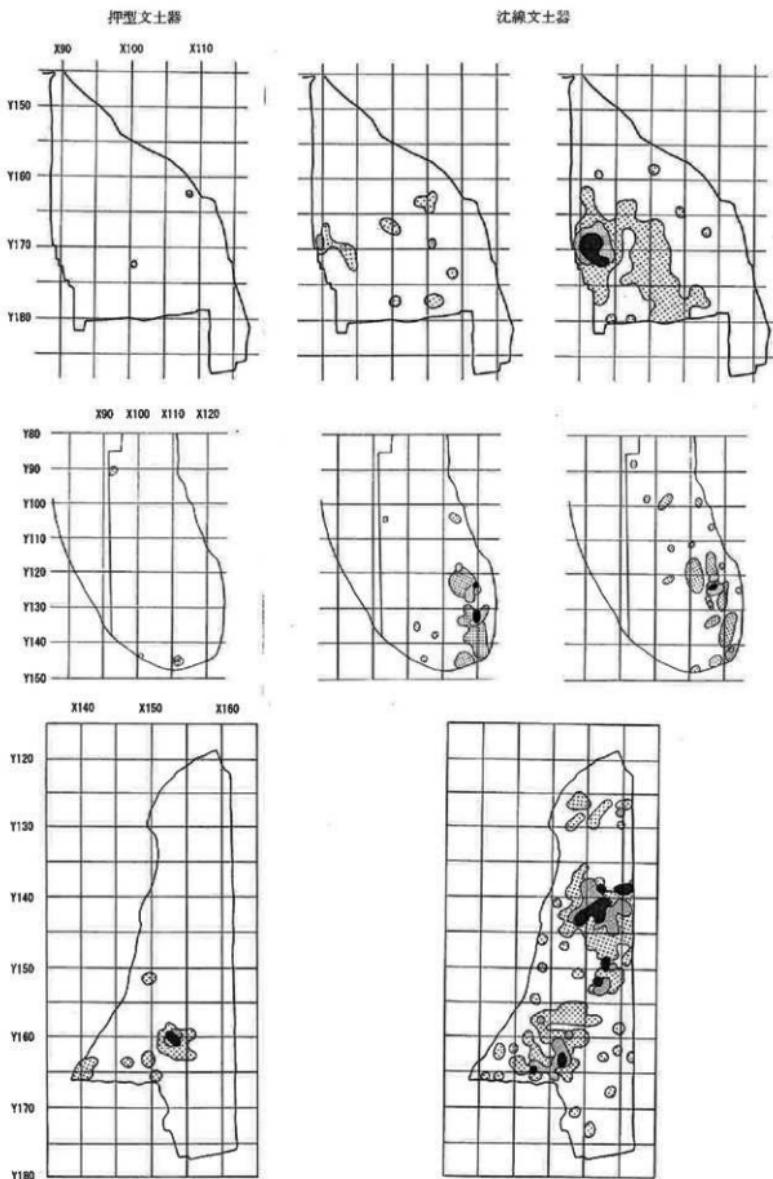


Fig. 38 各遺跡の縄文包含層遺物分布(3)

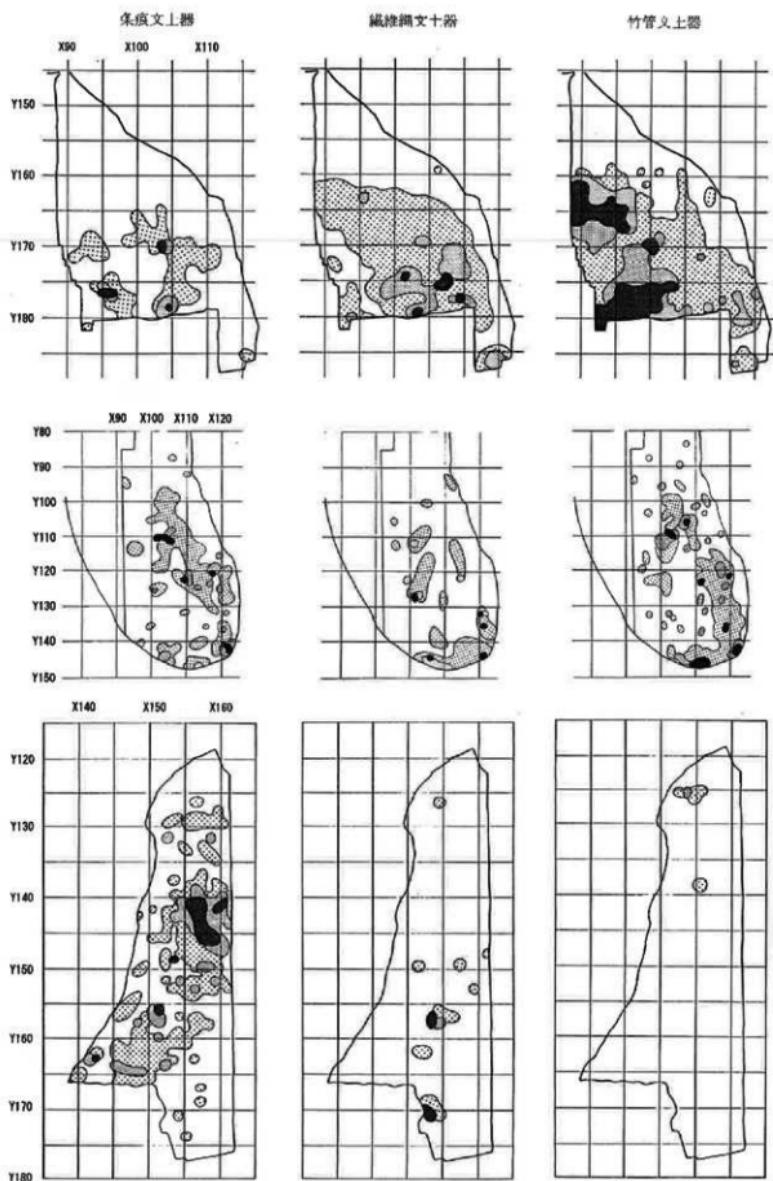


Fig. 39 各遺跡の縫文包含層遺物分布(4)

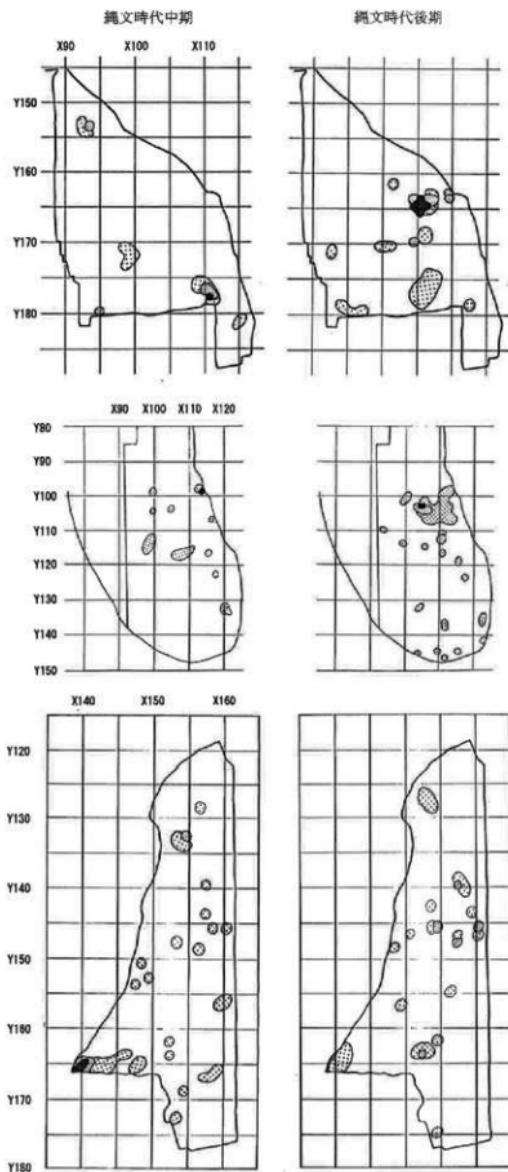


Fig. 40 各遺跡の縄文包含層遺物分布(5)

付 編

1 頭無遺跡・柳久保遺跡出土の石器について

大工原 豊（國學院大學）

（1）頭無遺跡

114点の石器が確認されており、形態・石材・法量等は観察表（Tab. 7）のとおりである。残存状態の比較的良好なものを見ると101点を示した。すべて遺物包含層からの出土であり、早期中葉・前期後葉・後期中葉などの土器群が出土しており、これらの土器群に伴うものとみられる。また、形態的特徴からみて後期の有茎鐵も認められる。

形態的特徴から、平基無茎鐵、凹基無茎鐵、局部磨製石鐵、有茎鐵に大別される。各形態の特徴は以下のとおりである。

平基無茎鐵（Fig. 3-3～15）

三角形を呈するもので、木造跡では比較的まとまった散量が出土している。おそらく大部分は早期中葉のものと推定される。

凹基無茎鐵（Fig. 3-2・16～48、Fig. 4-49～86）

2は珪質頁岩製で精緻な押圧剥離により非常に薄身に仕上げられている。及川謙氏によれば、早期中葉の東北地方の土器群（常世式）と関連するものである可能性を指摘する（及川氏のご教示による）。この見解は阿部芳郎氏により提唱された北関東（栃木・茨城）地域の「無扶長身鐵」との平面形態の類似性に帰因するものである。しかし、「無扶長身鐵」は「斜辺両極技法」と呼ばれる両極技法により二次加工が施されていることが特徴であるとされる（阿部2010）。ところが、本遺跡の事例では、精緻な押圧剥離により二次加工されており、両極技法が用いられた形態は全く認められない。これに対し、中村信博氏のご教示によれば、田戸上層式併行期の東北地方の物見台式には、これを類似した精緻な石鐵が多数存在しているという（例えば岩手県山脈地遺跡等）。本遺跡の常世式とされるもの的一部には物見台式が含まれている可能性があり、そうなると、さらには遠隔地から流入したものかも知れない。

あるいは、局部磨製・精緻な押圧剥離・薄形・珪質頁岩といった諸特徴から、前原豊氏によって提唱された草創期終末段階の「王形尖頭器」（前原1991）の系譜を引くものである可能性もある。ちなみに、この形態の石器は最近橋本勝雄氏によって再定義され、「木葉形薄形尖頭器」（橋本2008・2013・2014等）とされるものであり、関東～東北地方にかけて広範に分布するものである。

いずれの系譜を引くものであるのかについて、ここで判断することはできないが、遠隔地から搬入されたものであることについては疑いの余地はない。今後類例の増加を待って、再検討する必要がある資料である。

Fig. 4-16～42は基部がわずかに内湾する形態の一群である。平基無茎鐵に近い形状を呈しており、早期中葉のものと推定される。Fig. 43～48は鉢形鐵あるいは鍔形鐵の崩れた形態である。鉢形鐵の系譜を引くものと推定され、早期中葉～後葉に位置付けられる一群である。

Fig. 3-35～42、Fig. 4-49～86は一般的な凹基無茎鐵である。さまざまな時期に存在するスタンダードな形態であり、時期を特定することはできない。49・50は特に大きな大形石鐵であり、83は0.2gの極小石鐵である。いずれも通常の石鐵とは異なる用途に用いられていたものであろう。

局部磨製石鐵（Fig. 3-1、Fig. 4-87～89）

1は平基無茎を呈する大形の局部磨製石鐵である。丁寧な押圧剥離により仕上げられており、片面は広範囲に斜め方向に研磨されている。こうした形態の局部磨製石鐵は稀であり、2の局部磨製石鐵同様、早期中葉の東北地方の土器群に伴う石鐵の可能性があろう。

Fig. 4-87～89は凹基無茎鐵の基部を縱方向に研磨するもので、関東型局部磨製石鐵に分類される。87・88は黒曜石製の正真正の関東型であるが、89はチャート製であり、南関東亜型に分類されるものである。いずれも後期中葉のものと判断される。

有茎鐵（Fig. 4-90～100）

Fig. 4-90～96は平基有茎鐵である。後葉中葉に多く認められる形態であり、この時期のものと推定される。Fig. 4-97～100は凸基有茎鐵である。これらも同時期のものと推定される。97は精緻な押圧剥離で仕上げられた大型石鐵である。（仮称）安通型に分類されるものである。この型式の石鐵は前橋市安通・洞No.2遺跡からまとめて出土したことから注目されたもので、群馬県内の桐生市千歳谷戸遺跡遺跡をはじめ多くの後・晩期遺跡で散見される。おそらく後期後葉～晩期前葉に帰属するものであろう。

円基鐵（Fig. 4-101）

基部を円く整形したもので、1点のみ出土してい

る。

【引用文献】

- 阿部芳郎 2010 「縄文早期における遊動的狩猟采集団の拡散と回帰」『移動と流通の縄文社会史』雄山閣
橋本勝彦 2008 「『木葉形薄形尖頭器』、雄略—縄文時代草創期における新たな器種の登場ー」『石器に学ぶ! 10 石器に学ぶ会』
橋本勝彦 2013 「縄文時代草創期の局部磨製尖頭器—『木葉形薄形尖頭器』の再検討ー」『旧石器考古学』78 旧石器文化研究会
橋本勝彦 2014 「木葉形薄形尖頭器の新例ーその分布の広がりー」『研究連絡誌』75 (公財) 千葉県教育振興財団
前原 豊 1991 「前橋市内出土の有尖頭器について」『芳賀郡堆塚群 第4号 芳賀西部堆塚跡』前橋市教育委員会

(2) 柳久保遺跡

ここでは 139 点の石器・石礫未成品があり、形態・石材・法量等は観察表 (Tab. 7) のとおりである。残存状態の比較的良好なもの 132 点を示した。川上土器群の分布状態とすべて遺物包含層出土であり、土器群では早期中葉と後期後葉が主体をなす。したがって、その多くはこの時期のものとみられる。しかし、一部後期中葉の土器群が出土しており、これに伴う局部磨製石礫 (関東型) と有茎鐵が少量出土している。

平基無茎鐵、圓基無茎鐵、局部磨製鐵、円基鐵、有茎鐵に大別される。以下、形態ごとの特徴について簡単に述べる。

平基無茎鐵 (Fig. 14-1 ~ 10) 三角形を呈するもので、早期中葉の時期に構成する可能性が高い一群である。チャートが最も多く、次いで黒曜石・墨色安山岩の類であり、黑色頁岩はわずかに 1 点のみである。

圓基無茎鐵 (Fig. 14-12 ~ 36, Fig. 15-53 ~ 98, Fig. 16-99 ~ 114)

一般的な圓基無茎鐵であり、さまざまな時期のものが含まれている。Fig. 14-12 ~ 36 は基部がやや内湾する圓基無茎鐵と平基無茎鐵の中間形態のもので、早期中葉のものが多いと推定される。また、Fig. 14-37 ~ 44 は銀形鐵・銀形鐵の崩れたものである。41 ~ 43 は明確な銀形鐵であり、押型土器群に伴う可能性が高い。また、それ以外の例はやや形態が崩れしており、これより後出の土器群 (早期中葉) に伴うものと推定される。これらは黒曜石 6 点・チャート 2 点と黒曜石が多用される傾向がある。また、44 は折断により基部が作出されており、次ぎに述べる橋状剥離を施す石鐵との類似性が認められる。

Fig. 14-45 ~ 52 は橋状剥離により基部を作出するものである。基部の両端部から中心方向に向かって

橋状剥離により凹基を作り出す特殊な技法が用いられている。この中には、銀形鐵に近い形状のもの (45) が含まれており、時期的に近いものと推定される。橋状剥離により抉り込み加工を行う技法は極めて特徴的なものである。黒色頁岩製の 1 点と被熟により石材不明の 1 点 (49) を除く 6 点が黒曜石であり、石材の上でも齊一性が高い。これらは早期中葉の土器群に伴うものと推定される。この技法は他時期では全く見かけない非常に特徴的なものである。そして、これらはすべて信州系の黒曜石が用いられていることからみて、信州方面との関連性がある可能性が高い。この特徴をもつ形態は、単品としても識別が容易であることから型式として区別ができる。まだ、詳細な時期と分布域は不明であるものの (仮称) 柳久保型と呼ぶことにする。

なお、平基無茎鐵、銀形鐵のもの (仮称) 柳久保型など早期中葉・後葉と推定される形態では、黒曜石が多く、利根川水系産の黒色頁岩が非常に少ない点が特徴である。

一般的な圓基無茎鐵では、長さ 35 ~ 40mm の大形のもの (Fig. 15-53・55・59) から、長さ 15mm 以下の極小のもの (Fig. 15-98・Fig. 16-111) まで変移幅が大きい。さまざまな時期のものを含んでいると推定される。黒曜石製の大形品 (Fig. 15-61) は形態的にみて前期後葉に帰属する可能性が高い。

また、形態的特徴も多様であり、さらに細分することが可能である。例えば、Fig. 16-113・114 は脚部が内湾する特徴的な形態であり、特定の時期に帰属する可能性もある。また、0.2g 以下の重量の極小石鐵は、通常の弓矢での使用は不可能なほどのサイズであり、骨角器製の組合せを用いたか、あるいは翼飴の仕掛け弓用の矢のバーツの可能性があろう。局部磨製石鐵 (Fig. 16-115・116)

2 点出土している。いずれも黒曜石製の圓基無茎鐵で、基部を中心にして研磨している。関東型局部磨製石鐵 (I a 形態) の典型例である (大工原 2006)。出土土器群と形態的特徴から後期中葉のものと判断される。谷地遺跡など群馬県南部に多い傾向が認められるが、前橋市内では大道遺跡においてまとまって出土している (関口他 2002)。

円基鐵 (Fig. 14-11)

1 点のみ出土している。黒曜石製で側縁部は縦齒状に仕上げられている。

有茎鐵 (Fig. 16-117 ~ 132)

有茎鐵は、後期中葉 (堀之内 2 式) 以降に群馬県内で確認することができる。したがって、本遺跡から出土した有茎鐵はすべてこの時期以降のものと判断される。特に平基有茎鐵 (Fig. 16-117 ~ 122) は加曾利 B 式土器群と分布域が重なっており、この時期のものと判断される。また、一般的には粗製の凸

基有茎葉は後期前葉に爆発的に増加する傾向が認められるが、本遺跡例 (Fig. 16-123~130) ではいずれも丁寧に仕上げられており、粗製のものは存在していない。これらも後期中葉のものであろう。本来固基有茎葉は晚期中葉以降に顕在化する形態であるが、ここから出土した固基有茎葉 (Fig. 16-131・132) は平基有茎葉に近いもので、やはり後期中葉のものと推定される。

有茎葉では黒色頁岩が 10 点と多く、チャート 3 点、黒曜石 2 点、黒色安山岩 1 点の順である。後期中葉では黒色頁岩が多用されており、黒曜石の多い早期中葉～後葉とは石材選択性が大きく異なっていたことが分かる。

本遺跡では調査担当者の努力により、土器群の時期ごとの詳細な分布状況が明らかにされているので、今後さらに詳細に土器群と石器の共伴関係を検討することで、さらに詳細な形態ごとの帰属時期を明らかにすることができる良好な資料であると言えよう。

【参考文献】

- 間口功一ほか 2002『山王遺跡・大道遺跡・阿宗陀戸遺上遺跡・天神遺跡・元屋敷遺跡』 群馬県教育委員会
大工原 豊 2006「縄文時代後・晩期の局所磨製石器—縄文石器の型式変化に関する研究—」『縄文時代』第 17 号
縄文時代文化研究会

2 前橋市内遺跡出土黒曜石資料の産地分析について

建石 徹(文化庁)・大工原豊(國學院大學)・二宮修治(東京学芸大学)

(1)はじめに

前橋市内の諸遺跡より出土した黒曜石資料の産地分析を実施したので、その方法と得られた結果について報告する。

(2) 黒曜石の産地分析

1 資料(試料)

産地分析に供した遺跡出土黒曜石資料は、前橋市内に所在する頭無遺跡、柳久保遺跡、安通・洞内 2 遺跡より出土した計 90 点である。これらはいずれも縄文時代に帰属すると考えられる。

各資料の器種、帰属時期等を第 1 表に示し、スキャニングイメージを Fig. 42 に示した。

2 産地分析の方法

産地分析に用いる各元素の測定には、エネルギー分散型蛍光 X 線分析法(非破壊法)を用いた。測定条件を以下に示す。

分析装置: セイコーアンスツルメント製エネルギー分散型微小部蛍光 X 線分析装置 SEA-5120S、線源クレゲット: モリブデン(Mo) 管球(電圧 45kV)、X 線照射径: $\phi 1.8\text{mm}$ 、測定範囲: 大気、測定時間: 100 秒、定量分析の計算法: FP 法、標準試料: なし

黒曜石の主成分元素であるケイ素(Si)、チタン(Ti)、アルミニウム(Al)、鉄(Fe)、マグネシウム(Mg)、カルシウム(Ca)、ナトリウム(Na)、カリウム(K)の 8 元素のうち、Fe、Ca、K の 3 元素は、黒曜石の産地間の識別、分類に特に有効であり、産地分析の指標元素となる。筆者らはこれら 3 元素との挙動に相関性のある微量元素元素であるマンガン(Mn)、ストロンチウム

(Sr)、ルビジウム(Rb)を加えた 6 元素による検討が東日本の黒曜石の産地分析に有効であることを示してきた。本研究においても、この 6 元素の測定をおこなった。

測定に際しては機器に備えられた CCD カメラの画像観察により、X 線照射範囲(分析範囲)をなるべく平滑(原標面等でない)新鮮な面とすることをかけた。

産地分析のための基準資料として、東日本の代表的な黒曜石産地である北海道白滝・懶戸・十勝三股・赤井川、青森県小泊・出来島・鶴ヶ坂・深浦、岩手県余石・折居・花泉、秋田県金ヶ崎・脇本、宮城県湯の倉・色麻・秋保、山形県月山・新潟県板山・上石川・佐渡、福島県高原山・日光・長野県小深沢・男女倉・星ヶ塔・麦草峠、神奈川県煤宿・静岡県上多賀・柏峰、東京都神津島(恩馳島)、島根県隱岐(久見)の各産地黒曜石を使用した。各産地黒曜石の分析値(代表値)を第 2 表に示した。

産地分析は、先の 6 元素の測定の結果をもとに、最遠距離法によるクラスター分析を実施し、分析資料(1 点ずつ)と産地資料群の併合距離と、分析資料(遺跡ごとに分析に供した全点)と産地資料群の併合距離を検討し、産地資料と分析資料の類似性(非類似性)を検討した。

また、必要に応じ、6 元素の測定に加えて、先に示した主成分元素組成についても検討した。クラスター分析には、IBM 社製 SPSS Statistics 20 を用いた。

3 産地分析の結果と考察

Tab. 10 に分析資料の 6 元素組成(岩石学の慣例に従い酸化物の形で表記)を示した。また、個々の分析資

料と産地資料群の分析値をクラスター分析した結果、最も類似性の高い（非類似性の低い）産地資料との併合距離（以下、産地資料との併合距離をいう）とその産地も第1表に示した。産地資料との併合距離が比較的小さく（0.1未満）、個々の分析値にも矛盾がない場合は、それを産地と推定した。

本研究で得られた遺跡別の産地構成は以下の通りであった。

頭無遺跡

星ヶ塔産	9点
小深沢産	6点
神津島産	4点
不明	3点

柳久保遺跡

星ヶ塔産	17点
小深沢産	15点
神津島産	3点

安通・洞No.2遺跡

星ヶ塔産	30点
小深沢産	1点
高原山産	1点
不明	1点

頭無遺跡…分析資料22点中、3点を除き、縄文時代早期中葉の土器群に伴う可能性が高いものである。この時期に限れば、19点のうち星ヶ塔産9点、小深沢産6点と信州系が79%を占めており、群馬地域の通時代的特徴を示している。注目されるのは、神津島産が4点と比較的多く含まれていることである。

柳久保遺跡…分析資料35点中、縄文時代早期中葉の可能性の高いものは20点である。この時期に限れば、小深沢産20点、星ヶ塔産10点であり、信州系が86%を占めている。しかし、ほぼ同時期の頭無遺跡とは信州系の内訳が異なり、小深沢産が多い傾向を示している。また、神津島産は3点であり、頭無遺跡同様に比較的小い傾向を示している。このように神津島産が安定して組成していることは、群馬地域の早期中葉～後葉の大きな特徴であると言えよう。神津島産黒曜石を安定的に入手できる南関東地域（おそらく大宮台地周辺）と密接な関係を有していたことが分かる。

柳久保遺跡に特徴的にみられる（仮称）柳久保型石鏃は8点中6点が黒曜石であり、小深沢産3点、星ヶ塔産3点とすべて信州系であり、特定の産地との結び付きは認められない。

また、頭無遺跡、柳久保遺跡とも各2点ずつ縄文時代後葉中葉とみられる黒曜石製の局部磨製石鏃（関東型）が出土しているが、頭無遺跡では小深沢産1点、不明1点であるにに対し、柳久保遺跡では星ヶ塔産2点であり、産地が異なる黒曜石が用いられている。局部磨製石鏃の産地分析は、これまでには安中市天神原遺跡で実施しており、後期後半では星ヶ塔産8点、小

深沢産1点、晚期前半では星ヶ塔産3点、小深沢産1点、不明1点であった（建石・管頭・津村・二宮 2008）。藤岡市中槻須瀬川口遺跡（谷地遺跡）では後期中葉は星ヶ塔産1点、友草岬産1点、晚期前葉は星ヶ塔産1点という分析結果がある（建石・三浦・津村・二宮他 2011）。群馬地域では局部磨製石鏃に対し星ヶ塔産黒曜石が多用される傾向が認められるようである。なお、後期の有茎織のうち黒曜石製は柳久保遺跡の1点のみで星ヶ塔産であった。

安通・洞No.2遺跡…縄文時代後期後葉から晚期前葉の遺物包合層出土のもので、土器群の様相をみると晚期前葉が多い。したがって、分析資料はこの時期の傾向を示している。33点のうち、星ヶ塔産が30点（91%）と圧倒的に多く、小深沢産、高原山産は各1点ずつである。この傾向は晚期前葉の群馬地域の特徴であり、これまでの分析結果と整合性を有している（建石・三浦・津村・二宮他 前掲）。また、高原山産が1点含まれているが、柳生市千鶴谷戸遺跡でもこの時期に少量高原山産が含まれているので、これも群馬県東部地域の特徴と言えよう。

謝辞

本研究を実施するにあたり、前橋市教育委員会の全面的なご協力を頂きました。資料の選定・抽出等の際に多大なご協力を頂いた前原 豊氏・阿久澤智和氏をはじめ、前橋市教育委員会諸氏に御礼申し上げます。

黒曜石産地分析にあたり、東京学芸大学文化財科学研究室が所有する各種地黒曜石とともに、国学院大學泰博館所蔵の「吉谷昭彦博士寄贈黒曜岩資料」（国学院大學研究開発推進機構考古学資料断續 2008）のうち北関東・東北地域の産地黒曜石を基礎資料として利用させていただきました。資料の借用・利用をお許しいただいた吉谷昭彦博士および、古田恵二郎氏・内川隆志准教授をはじめとする国学院大學の皆様に御礼申し上げます。

【引用・参考文献】

- 国学院大學研究開発推進機構考古学資料館編 2008『国学院大學考古学資料館要覧』2007 吉谷昭彦博士寄贈黒曜岩資料』國學院大學人學研究開発推進機構考古学資料館
建石 敦・管頭明日香・津村宏臣・二宮修治 2008『黒曜石の網文石器』『ストーンツールズ』安中市ふるさと学習館
建石 敦・三浦麻衣子・村上夏希・井上優子・朴嘉瑛・津村 宏臣・二宮修治 2011『樹木系・群馬県内諸遺跡出土黒曜石の産地分析』『一般社団法人日本考古学協会 2011年度樹木大会研究発表資料集』日本考古学協会 2011年度樹木大会実行委員会
日本考古学協会 2011年度樹木大会実行委員会編 2011『石器時代における石材利用の地域相－黒曜石を中心として－』『一般社団法人日本考古学協会 2011年度樹木大会研究発表資料集』日本考古学協会 2011年度樹木大会実行委員会

Tab. 10 前橋市内産銅鉱石の产地分析結果
(各元素の分析値は6元素の酸化物の総和を100とした際の百分率)

頃無鉱脉

No.	図No.	岩種	出土位置	時期	MnO	FeO	SrO	CaO	Rb2O	K2O	併合產地	併合距離
1	88	石炭(腐葉)	N-36G	後期中葉	4.2	27.1	0.0	12.3	1.8	54.6	小深沢	0.013
2	40	石炭(白無)	O-27G	早期中葉	3.2	33.7	0.6	21.1	0.5	41.0	神津島	0.005
3	87	石炭(同無)	G-11G	後期中葉	3.0	27.9	0.1	13.2	1.4	54.5	不明	
4	73	石炭(同無)	S-21G	早期中葉	3.7	30.0	0.0	12.0	1.7	52.7	小深沢	0.009
5	41	石炭(同無)	S-48G	早期中葉	2.7	28.8	0.1	13.3	1.3	53.9	不明	
6	51	石炭(平無)	T-54G	早朝中葉	3.1	34.3	0.5	20.3	0.4	41.4	神津島	0.008
7	86	石炭(不明)	T-24G	早朝中葉	4.3	27.7	0.1	11.4	2.2	54.4	小深沢	0.089
8	55	石炭(別無)	U-46G	早期中葉	3.2	25.5	0.2	12.8	0.7	57.6	星ヶ塔	0.009
9	11	石炭(平無)	U-19G	早期中葉	3.4	25.7	0.2	14.0	0.9	55.9	星ヶ塔	0.001
10	4	石炭(平無)	V-18G	早期中葉	3.4	25.9	0.2	12.5	0.8	57.3	星ヶ塔	0.005
11	22	石炭(平無)	V-32G	早期中葉	4.4	27.0	0.0	12.7	1.9	54.1	小深沢	0.014
12	33	石炭(同無)	X-32G	早期中葉	3.2	34.6	0.4	20.6	0.4	40.8	神津島	0.013
13	101	石炭(同基)	X-38G	早期中葉	2.9	26.0	0.2	12.6	0.9	57.4	星ヶ塔	0.001
14	37	石炭(同無)	Y-36G	早期中葉	3.7	26.3	0.2	12.2	0.8	56.8	星ヶ塔	0.013
15	30	石炭(同無)	Z-41G	早期中葉	3.4	27.2	0.0	14.1	1.4	54.0	小深沢	0.092
16	84	石炭(平無)	Z-52G	早期中葉	3.3	25.4	0.3	12.8	0.9	57.3	星ヶ塔	0.004
17	77	石炭(同無)	U-24G	早期中葉	4.0	26.0	0.0	13.2	1.7	55.1	小深沢	0.008
18	12	石炭(平無)	U-26G	早期中葉	3.3	26.3	0.3	11.0	0.9	58.2	星ヶ塔	0.009
19	57	石炭(同無)	V-04G	前期後葉	2.9	26.6	0.2	13.9	0.8	55.6	星ヶ塔	0.001
20	54	石炭(同無)	V-24G	早期中葉	3.2	32.9	0.5	20.8	0.5	42.1	神津島	0.002
21	14	石炭(平無)	X-20G	早朝中葉	3.4	26.9	0.2	11.2	0.8	57.6	星ヶ塔	0.009
22	29	石炭(平無)	Y-45G	早期中葉	5.0	32.5	0.0	10.6	2.0	50.0	不明	

相模保鉱脉

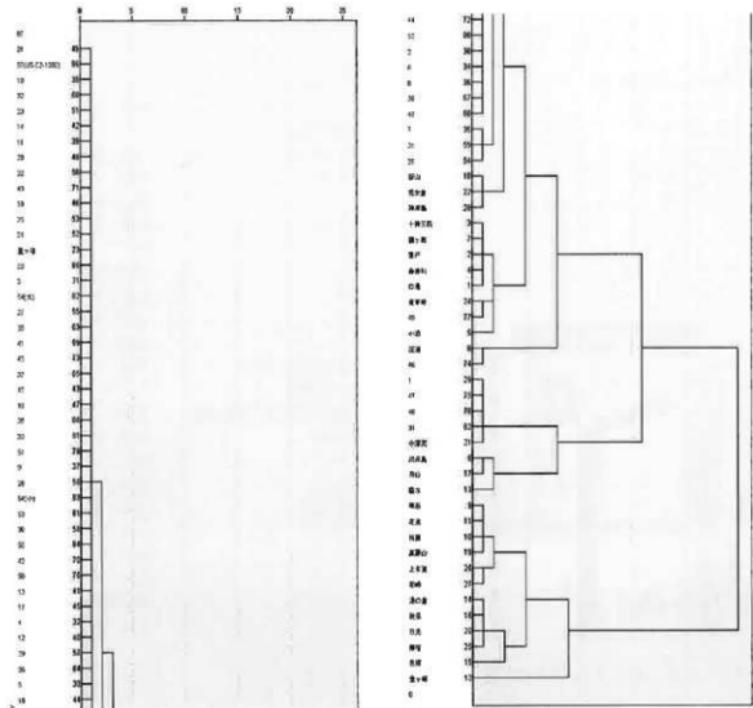
No.	図No.	岩種	出土位置	時期	MnO	FeO	SrO	CaO	Rb2O	K2O	併合產地	併合距離
1	2	石炭(平無)	X104-Y144G	早期中葉	3.4	33.1	0.5	20.7	0.5	41.8	神津島	0.004
2	7	石炭(同無)	X099-Y115G	早期中葉	3.0	32.7	0.5	21.6	0.6	41.6	神津島	0.005
3	15	石炭(平無)	X111-Y116G	早期中葉	2.8	27.4	0.5	18.5	0.4	50.5	神津島	0.009
4	35	石炭(平無)	X105-Y078G	早期中葉	4.3	28.3	0.0	14.2	2.1	51.0	小深沢	0.046
5	11	石炭(同基)	X120-Y141G	早期中葉	4.1	25.8	0.0	13.4	2.0	54.7	小深沢	0.013
6	8	石炭(平無)	X117-Y129G	早期中葉	4.5	26.0	0.1	13.4	2.0	54.1	小深沢	0.051
7	9	石炭(平無)	X118-Y123G	早期中葉	4.2	25.9	0.0	13.6	1.9	54.4	小深沢	0.012
8	36	石炭(平無)	X118-Y139G	早期中葉	4.2	27.5	0.1	13.3	1.8	53.1	小深沢	0.005
9	129	石炭未成熟	X105-Y122G	後期中葉	2.9	25.7	0.2	15.9	1.0	54.3	星ヶ塔	0.005
10	44	石炭(同無)	X094-Y096G	早期中葉	3.8	26.7	0.0	16.2	2.0	51.3	小深沢	0.008
11	37	石炭(同無)	X119-Y139G	早期中葉	4.1	25.7	0.1	15.8	1.8	52.6	小深沢	0.004
12	38	石炭(同無)	X120-Y130G	早期中葉	4.2	25.5	0.0	14.7	1.9	53.7	小深沢	0.008
13	39	石炭(同無)	X119-Y138G	早期中葉	3.8	26.2	0.0	14.0	1.9	54.1	小深沢	0.004
14	40	石炭(同無)	X118-Y137G	早期中葉	3.9	27.0	0.0	13.6	2.0	53.6	小深沢	0.008
15	61	石炭(同無)	X092-Y086G	前期後葉	3.6	26.2	0.3	15.4	1.0	53.6	星ヶ塔	0.009
16	43	石炭(同無)	X100-Y100G	早期中葉	2.8	25.6	0.2	17.1	0.8	53.5	星ヶ塔	0.014
17	86	石炭(同無)	X117-Y135G	早期中葉	3.3	23.8	0.3	14.9	1.0	56.8	星ヶ塔	0.008
18	71	石炭(同無)	X102-Y102G	早期中葉	3.0	24.7	0.3	17.0	1.0	54.0	星ヶ塔	0.014
19	104	石炭(同無)	X109-Y111G	早期中葉	3.9	26.8	0.0	14.7	1.9	52.7	小深沢	0.002
20	46	石炭(同無)	X107-Y077G	早期中葉	4.0	26.2	0.0	13.9	2.0	54.0	小深沢	0.008
21	47	石炭(同無)	X107-Y109G	早期中葉	3.7	25.3	0.2	16.9	1.0	52.9	星ヶ塔	0.018
22	115	石炭(同原)	斐表	後期中葉	3.0	24.1	0.4	16.7	1.1	54.4	星ヶ塔	0.014
23	48	石炭(同無)	X122-Y134G	早期中葉	4.2	26.0	0.0	14.3	1.9	53.5	小深沢	0.008
24	112	石炭(同無)	X123-Y132G	早期中葉	3.2	24.7	0.4	16.6	1.2	54.0	星ヶ塔	0.009
25	65	石炭(同無)	X099-Y085G	早期中葉	3.0	24.6	0.2	14.9	1.0	56.2	星ヶ塔	0.004
26	94	石炭(同無)	X118-Y117G	早期中葉	2.7	27.5	0.1	15.9	1.5	52.4	小深沢	0.012
27	78	石炭(同無)	X116-Y117G	前期後葉	3.3	24.7	0.2	17.9	0.9	52.9	星ヶ塔	0.016
28	64	石炭(同無)	X099-Y086G	早期中葉	3.0	25.7	0.1	13.3	1.0	56.9	星ヶ塔	0.004
29	50	石炭(同無)	X099-Y097G	早期中葉	3.7	26.3	0.0	13.4	2.0	54.5	小深沢	0.008
30	52	石炭(同原)	X104-Y112G	早期中葉	2.8	25.4	0.1	14.7	1.0	56.0	星ヶ塔	0.006
31	116	石炭(同原)	X107-Y103G	後期中葉	2.9	25.2	0.1	14.8	0.9	55.0	星ヶ塔	0.002
32	109	石炭(同無)	X102-Y103G	後期中葉	3.4	25.8	0.2	13.9	1.0	55.8	星ヶ塔	0.002
33	127	石炭(凸有)	X113-Y125G	後期中葉	3.1	25.7	0.1	14.1	0.9	56.1	星ヶ塔	0.001
34	51	石炭(同無)	X114-Y144G	早期中葉	3.0	27.2	0.2	14.5	0.9	54.3	星ヶ塔	0.000
35	92	石炭(同無)	X104-Y124G	早期中葉	3.5	26.0	0.0	12.7	0.9	56.9	星ヶ塔	0.013

安達・洞門2道跡

No.	図No.	岩種	出土位置	時期	MnO	FeO	SrO	CaO	Rb2O	K2O	併合產地	併合距離
1	117	石炭未成熟	B-5-d IV-C層	後期後葉~後期初葉	3.2	25.5	0.0	15.1	0.9	55.3	星ヶ塔	0.008
2	250	石炭(同無)	C-9-a IV-C層	後期後葉~後期初葉	3.4	25.7	0.3	14.1	1.0	56.5	星ヶ塔	0.005
3	249	石炭(同無)	C-9-a III-C層	後期後葉~後期初葉	3.4	26.2	0.1	12.2	1.0	57.1	星ヶ塔	0.008
4	26	石炭(凸有)	C-9-a III-C層	後期後葉~後期初葉	3.3	23.3	0.1	14.3	0.8	57.3	星ヶ塔	0.005
5	308	石炭(同無)	C-9-a IV-B層	後期後葉~後期初葉	3.3	25.5	0.1	12.6	0.8	57.7	星ヶ塔	0.005
6	64	石炭(凸有)	C-6-c III-C層	後期後葉~後期初葉	1.6	47.5	0.6	15.4	0.5	34.4	不明	
7	36	石炭(凸有)	C-7-c IV-B層	後期後葉~後期初葉	3.3	24.8	0.3	10.7	0.9	60.0	星ヶ塔	0.015
8	78	石炭(凸有)	C-6-a III-C層	後期後葉~後期初葉	3.4	25.5	0.2	12.6	0.9	57.4	星ヶ塔	0.003
9	22	石炭(凸有)	C-5-d III-C層	後期後葉~後期初葉	3.2	25.0	0.1	17.5	0.9	53.4	星ヶ塔	0.015
10	27	石炭(凸有)	C-7-b III-C層	後期後葉~後期初葉	3.1	25.4	0.2	14.7	1.0	55.6	星ヶ塔	0.001

11	302	石墨(不明)	B-10-b	IVa層	後期後寒～乾燥地質	3.4	26.9	0.0	11.4	0.8	57.5	星ヶ崎	0.015
12	6	石墨(平行)	C-5-d	IVb層	後期後寒～乾燥地質	2.6	34.0	0.5	18.8	0.9	43.3	男女倉	0.014
13	127	石墨未成品	A-12-d	IVb層	後期後寒～乾燥地質	2.8	25.4	0.2	12.2	0.9	58.5	星ヶ崎	0.005
14		剥片	IV a - IV b 層		後期後寒～乾燥地質	3.5	28.0	0.0	11.4	1.6	55.5	小瀬沢	0.051
15		剥片	IV a - IV b 層		後期後寒～乾燥地質	3.0	26.9	0.2	13.6	0.9	55.3	星ヶ崎	0.050
16		剥片	IV a - IV b 層		後期後寒～乾燥地質	2.6	25.8	0.2	12.6	0.9	57.8	星ヶ崎	0.058
17		剥片	IV a - IV b 層		後期後寒～乾燥地質	3.1	26.1	0.0	14.2	0.8	55.9	星ヶ崎	0.028
18		剥片	IV a - IV b 層		後期後寒～乾燥地質	2.9	23.6	0.1	12.5	0.8	60.0	星ヶ崎	0.014
19		剥片	IV a - IV b 層		後期後寒～乾燥地質	2.9	25.3	0.2	12.7	0.9	58.0	星ヶ崎	0.002
20		剥片	IV a - IV b 層		後期後寒～乾燥地質	3.2	27.2	0.2	13.0	1.1	55.4	星ヶ崎	0.005
21		剥片	IV a - IV b 層		後期後寒～乾燥地質	2.6	25.7	0.2	14.1	0.8	56.7	星ヶ崎	0.008
22		剥片	IV a - IV b 層		後期後寒～乾燥地質	2.5	24.7	0.2	12.0	0.7	60.0	星ヶ崎	0.060
23		剥片	IV a - IV b 層		後期後寒～乾燥地質	3.4	25.6	0.2	14.8	0.9	55.2	星ヶ崎	0.001
24		剥片	IV a - IV b 層		後期後寒～乾燥地質	3.1	24.9	0.3	13.7	0.9	57.2	星ヶ崎	0.001
25		剥片	IV a - IV b 層		後期後寒～乾燥地質	3.1	25.8	0.2	15.7	0.8	54.4	星ヶ崎	0.064
26		剥片	IV a - IV b 層		後期後寒～乾燥地質	3.2	25.7	0.1	13.4	0.9	56.7	星ヶ崎	0.001
27		剥片	IV a - IV b 層		後期後寒～乾燥地質	2.8	24.9	0.2	11.9	0.9	59.3	星ヶ崎	0.008
28		剥片	IV a - IV b 層		後期後寒～乾燥地質	1.4	47.9	0.5	22.1	0.5	27.6	高原山	0.004
29		剥片	IV a - IV b 層		後期後寒～乾燥地質	3.1	24.9	0.2	13.2	0.8	57.8	星ヶ崎	0.003
30		剥片	IV a - IV b 層		後期後寒～乾燥地質	3.0	25.1	0.2	12.7	0.9	58.1	星ヶ崎	0.002
31		剥片	IV a - IV b 層		後期後寒～乾燥地質	3.3	25.6	0.2	13.4	0.8	56.8	星ヶ崎	0.002
32		剥片	IV a - IV b 層		後期後寒～乾燥地質	2.9	22.2	0.2	16.2	0.8	63.7	星ヶ崎	0.090
33		剥片	IV a - IV b 層		後期後寒～乾燥地質	3.1	25.8	0.1	12.3	0.9	57.9	星ヶ崎	0.004

Fig. 42 完全連結法を使用するデンドログラム
(再調整された距離クラスター)



あとがき

ここに、前橋市教育委員会文化財保護課の平成25年度業の年報を報告します。平成25年度は、文化財保護課にとって、大きな変化の年となりました。平成7年より本間酒店の旧酒蔵等を利用して開館してきた総社資料館が、急遽休館から閉館するに至ったことや平成26年3月24日をもって文化財保護課の事務機能を三俣町2丁目から総社町3丁目に全面移転したことがあげられます。なお、事務所移転については、26年度も引き続き鳥羽収蔵庫への収蔵資料等の移転を進めます。総社資料館については、代替施設として、仮設の資料館を総社公民館内に設け、結果として、新総社資料館の整備事業を1年前倒しで実施することになりました。長らくその使用についてご理解とご協力をいただいた(有)本間酒店さんにはここに記して感謝申し上げます。

最後に、本書が多くの方々の目に留まり、活用されることを期待し、あとがきをいたします。

平成26年7月1日

文化財保護課長 小島 純一

平成25年度

前橋市文化財調査委員会

井上 唯 雄
梅澤 重 昭
岡田 昭二
片山 満 秋
村田 敬 一

文化財保護課職員

文化財保護課長 松村 親樹
文化財保護係
課長補佐兼文化財保護係長 小島 純一
副主任 岩瀬 孝弘
〃 登山 伸一
主査 細野 泰宏
主任 滝下 児
〃 小沼 安美
〃 宮沢 竜一
〃 小川 卓也
〃 下田 大介

文化財整備指導員

埋蔵文化財係
副理事兼埋蔵文化財係長 前原 豊
副主任 金地 審仁
〃 岩丸 順久
主任 金井 弘幸
藤坂 和延
〃 小峰 篤
〃 渡辺 亮介
〃 福田 貞之
阿久澤智和
寺内 勝彦



年報 第44集 平成25年度文化財調査報告書

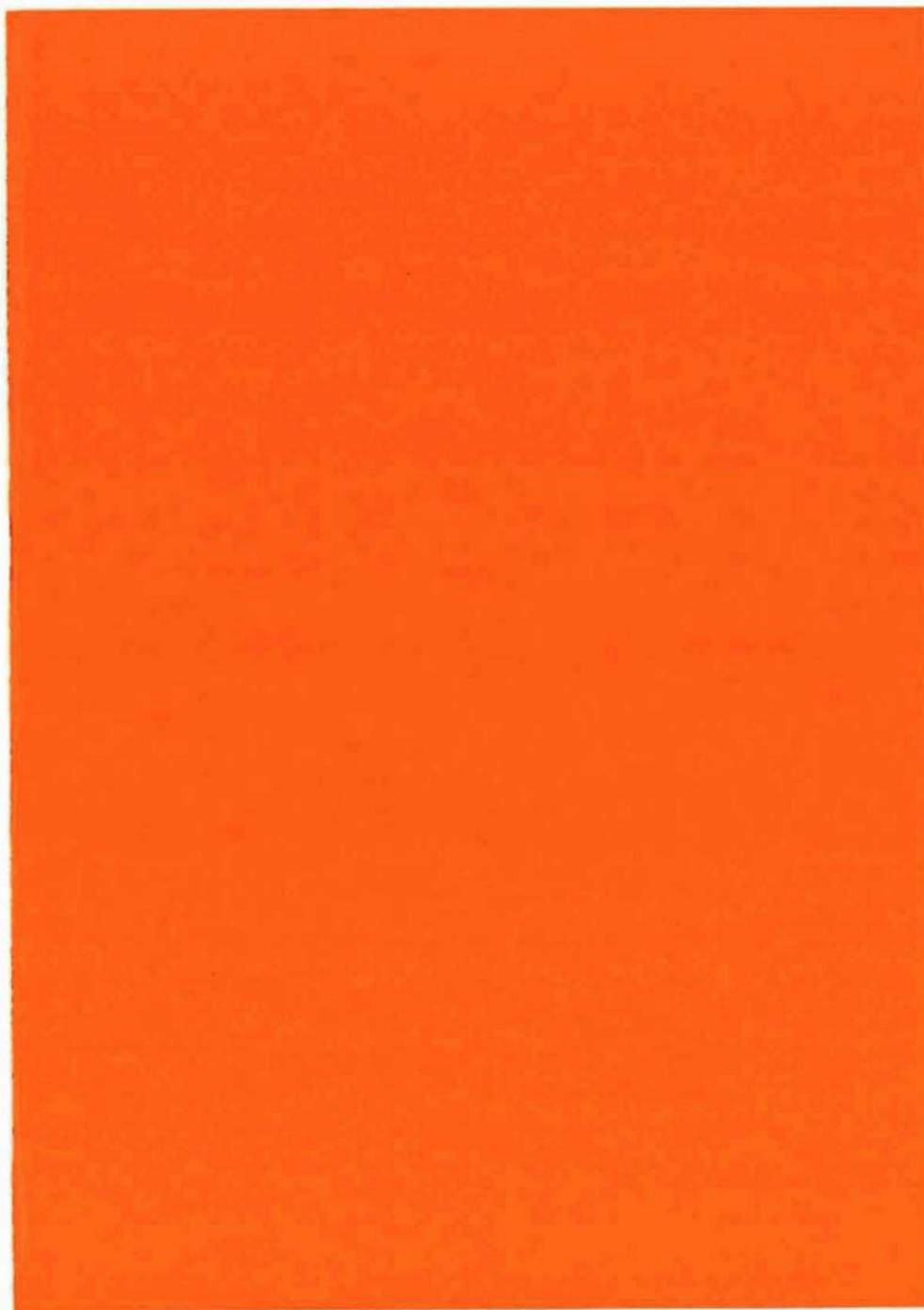
平成26年7月発行

発行 前橋市教育委員会事務局 文化財保護課

前橋市総社町総社三丁目11-4

電話 027-280-6511 FAX 027-251-1700

E-mail:hunkazai@city.maebashi.gunma.jp



表紙 元総社小学校の校庭から出土した土器